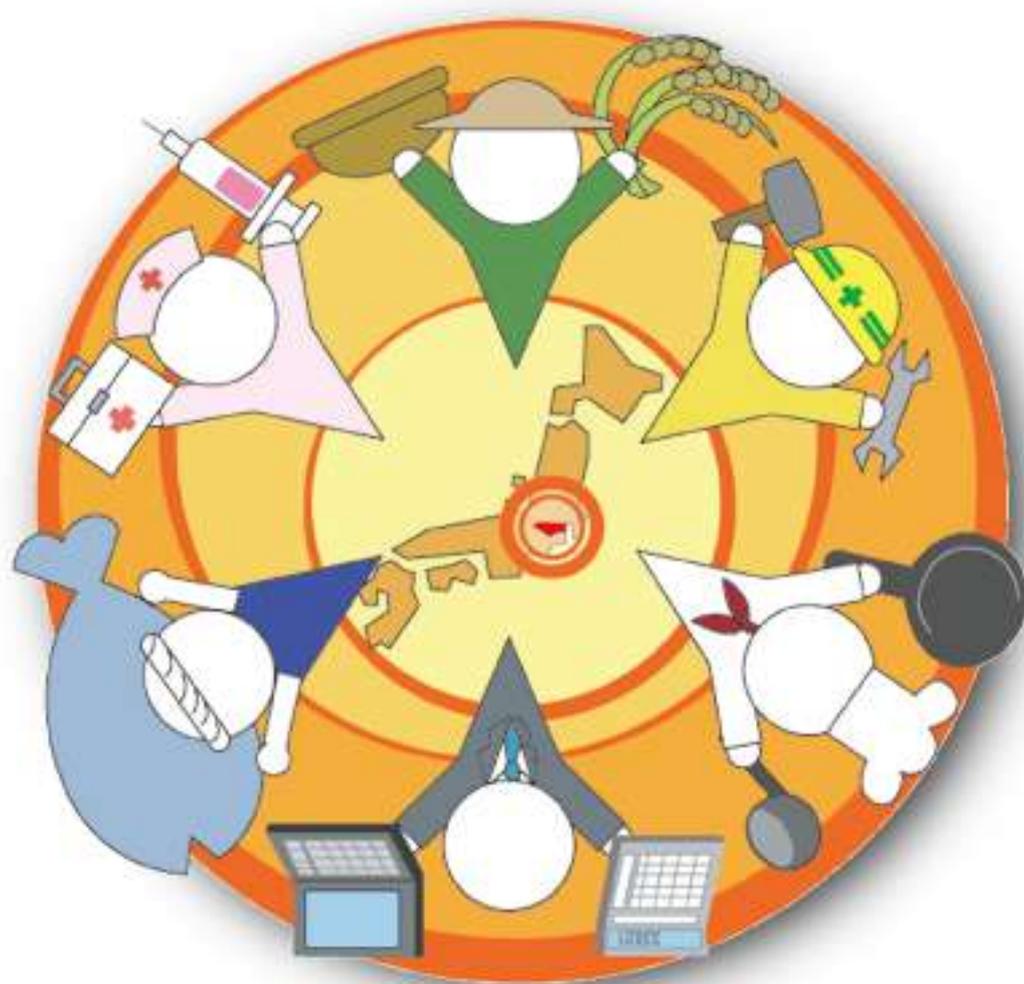


# 東京の産業教育

特集 主体的・対話的で深い学びを目指した  
産業教育の推進—各校・各学科の取組—



令和5年度 第61号  
東京都産業教育振興会

# 東京の産業教育 第61号 目次

巻頭のことば 「Next Kogyo START Project」とは  
東京都産業教育振興会副会長・東京都立町田工科高等学校長 池上 信幸・・・1

## 特集 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各校・各学科の取組—

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた産業教育の推進—専門高校の取組—  
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 松尾 守将・・・2
- 2 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進～都立八丈高等学校園芸科の取り組み～  
東京都立八丈高等学校主任教諭 松橋 彩子・・・4
- 3 STEAM教育を通しての「主体的・対話的で深い学び」の実現  
東京都立多摩科学技術高等学校指導教諭 田中 義靖・・・6
- 4 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進～葛飾商業高校ビジネス科の取り組み～  
東京都立葛飾商業高等学校副校長 木藤 則行・・・8
- 5 家庭学科における主体的・対話的で深い学びを目指した特色ある取組  
東京都立農業高等学校長 一ノ瀬 淳・・・10
- 6 主体的・対話的で深い学びを目指した総合学科の取組  
東京都立葛飾総合高等学校主幹教諭 松村 正博・・・12
- 7 特色ある産業教育を目指して—多様化する鉄道ビジネスに対応する人材育成のための、  
主体的・対話的で深い学びを目指した取組—  
岩倉高等学校教諭 開 歩・・・14
- 8 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進  
京華商業高等学校教務主任 鈴木 貴博・・・16
- 9 国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践  
東京都立両国高等学校附属中学校統括校長 金田 裕治・・・18
- 10 インプットとアウトプットの学びで、主体的・対話的な学びに導く  
学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井 雅哲・・・20
- 11 都立産業技術高専品川キャンパスにおける取組  
東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス教務主事 松澤 和夫・・・22

## 東京の産業界

- 1 中学校と専門高校との懸け橋  
カインズ株式会社代表取締役社長 金子 高一郎・・・24
- 2 人生をより豊かにするために  
日本自動ドア株式会社代表取締役社長 吉原 二郎・・・26

## 情報スクエア

- 1 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校の取組  
(第3年次・最終年度)「八丈やろごんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～  
東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一・・・28
- 2 第22回全国中学生創造ものづくり教育フェア  
全日本中学校技術・家庭科研究会フェア事務局長  
世田谷区立玉川中学校長 奥平 雄二・・・30

3	第20回創造ものづくりフェア in TOKYO 東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 大田区立大森第八中学校長	保 谷 満	・ ・ ・ 32
4	第33回全国産業教育フェア福井大会 さんフェア福井 2023	事 務 局	・ ・ ・ 34
5	第65回全国産業教育振興大会(福井大会)	事 務 局	・ ・ ・ 35
6	令和5年度葛飾区産業教育懇談会報告	事 務 局	・ ・ ・ 37
7	令和5年度「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」	事 務 局	・ ・ ・ 39
8	令和5年度教員海外産業教育事情研修報告ー日本とドイツの専門教育の比較ー 東京都立八丈高等学校家庭科教諭	綱 淵 ひかり	・ ・ ・ 41
9	第74回関東地区学校農業クラブ連盟大会 令和5年度東京大会報告 東京都立園芸高等学校副校長	小野寺 伸 樹	・ ・ ・ 43
10	本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2023 第42回全国大会報告 あきる野市立東中学校長	齋 藤 真	・ ・ ・ 45
11	本校の名産を活かした新商品の開発と商標登録ー令和4年度社会の人材を活用した 教育を実現するための授業支援研究指定校事業の発展ー 東京都立園芸高等学校主幹教諭	大 津 里 恵	・ ・ ・ 47

## 報 告

1	令和5年度 総会・講演会報告	・ ・ ・ ・ ・	49
2	令和5年度 講演会・講演要旨 「コロナ禍を経て、若者はいま」 放送大学・千葉大学名誉教授	宮 本 みち子 氏	・ ・ ・ 50
3	令和5年度 東京都産業教育振興会後援事業	・ ・ ・ ・ ・	63
4	令和5年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰	・ ・ ・ ・ ・	64
5	令和5年度 産学懇談会(第1回)	・ ・ ・ ・ ・	66
6	令和5年度 産学懇談会(第2回)	・ ・ ・ ・ ・	68
7	令和5年度 産学懇談会(第3回)	・ ・ ・ ・ ・	70
8	令和5年度 第34回東京都産業教育振興会作文コンクール		
	(1) 入選者一覧	・ ・ ・ ・ ・	72
	(2) 最優秀作文	・ ・ ・ ・ ・	74
	(3) 応募校一覧	・ ・ ・ ・ ・	76
	(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移	・ ・ ・ ・ ・	77
	(5) 作文のテーマ別応募者数一覧	・ ・ ・ ・ ・	78

## 本会の概要

1	令和5年度 事業経過報告(令和6年2月20日現在)	・ ・ ・ ・ ・	79
2	令和4年度 決算	・ ・ ・ ・ ・	82
3	令和5年度 予算	・ ・ ・ ・ ・	83
4	令和5年度 東京都産業教育振興会役員	・ ・ ・ ・ ・	84
5	令和5年度 東京都産業教育振興会各委員会委員	・ ・ ・ ・ ・	85
6	東京都産業教育振興会会則	・ ・ ・ ・ ・	86
7	令和5年度 会員名簿	・ ・ ・ ・ ・	88
8	入会案内・編集後記	・ ・ ・ ・ ・	114
	広告目次	・ ・ ・ ・ ・	115

## 巻頭のことば

# 「Next Kogyo START Project」とは

東京都産業教育振興会副会長

東京都立町田工科高等学校長 池上 信幸



令和5年4月、「都立工業高等学校」は「都立工科高等学校」へと校名を変更した。

かつて、高度経済成長を支えた工業技術は時代の変遷そのものであったが、情報技術の進展や社会の価値観の変化に伴い、求められる技術やサービスは多様化し、私たちの予測を超えるスピードで世界は変容している。いま、その背景にあるものはIT社会の進展である。そのような状況を踏まえ、Society5.0を支える工業高校の実現に向けた戦略的プロジェクトとして、東京都教育委員会により「Next Kogyo START Project」が策定され、令和4年度に都立工業高校改革はスタートした。校名変更はその取組の一環であるが、過渡期にある工業教育の変革の象徴として私は受け止めている。

このプロジェクトのコンセプトは、「高度IT社会において東京の成長を支える、魅力ある工業高校を目指して」である。まず、この東京が目指すべき社会についてしてみると、SDGsが掲げる持続可能な社会の実現、Society5.0に示された仮想空間と現実空間との融合による経済発展と社会的課題の解決、技術革新やAI・IoT・Data等によるソリューション、コロナ禍を経て得られたニューノーマルやDXの更なる推進など、それらが高度に実現された社会となる。

次に、そのような社会を実現していくために必要となる人材の資質・能力とはどのようなものなのだろうか。専門的な基礎的・基本的な知識・技術を有し、基礎的IT・データスキルを身に付けていることは当然であるが、冒頭にも述べたように、新しい知識・技術が短期間で絶え間なく生み出されていく社会において、一人一人が将来にわたり学び続けていくための基礎を築く必要がある。そのために、生徒が好奇心をもって主体的に取り組むことや“ものづくり”の楽しさを実感しながら「考える力」「学び続ける力」などのヒューマンスキル等を身に付ける必要がある。さらに、技術が高度化・多様化し、一人であらゆることに対処することが困難になることから、自分の意見を表現する力、意見や立場の違いを理解する柔軟性・コミュニケーション能力といったチームで協働して課題に向き合う姿勢を培うことが重要となる。このような人材の育成を通して、高度IT社会において東京の成長を支える工業高校を実現していく取組が本プロジェクトとなる。

施策の概要としては、社会変化に対応した工業系学科等のアップデートや企業等との連携推進を柱とした先進的な工業高校の実現、課題解決型学習「PBL」の推進や「工業IT科目」の導入などの教育内容・指導法の展開、高い意欲・志をもつ生徒が企業や大学の施設等を活用し先端的学習を行う「東京未来ファクトリー」事業などの研究機会の創出、工業科教員の知識・技術のアップデートやDX実習設備の導入など魅力の向上とそれらの情報発信などが掲げられている。

今回、このプロジェクトの対象となる工科系高校は20校となるが、それぞれの学校ではプロジェクトに基づく工業系学科のアップデートなど具体的な取組を推進している。工業高校改革は一朝一夕に実現するものではないが、東京の成長を支える将来の技術者の裾野を拡大するため、本プロジェクトを推進し中学生や保護者、企業や大学等から選ばれる魅力的な工科高校を実現していくことが私たちのミッションである。

## 特集 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進 —各校・各学科の取組—



### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた産業教育の推進 —専門高校の取組—

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 松尾 守将

#### 1 はじめに

令和4年4月から年次進行で実施している高等学校学習指導要領では、全ての教科等において①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理し、資質・能力をバランスよく育成することとしており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立による教育活動の質の向上などが示されています。

また、平成8年度から5年ごとに都立高校の印象や都立高校に対して期待すること等について把握するために実施している「都立高校の現状把握に関する調査」では、都立高校への期待・要望として、「これからの教育は『先生が教えて生徒が学ぶ』から『生徒の好き・やりたい』を見つけて実践できる場に。世の中の課題を見つけて解決できる高校生を増やして欲しい。」「探究や研究など、主体的な学びを重視すべき。」との声が寄せられています。

そのため、各学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学校全体として、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ることが求められています。

また、産業教育においては、地域や産業界等との連携が重要であり、学校と産業界等が情報交換を行うとともに、外部講師の活用等による取組も

期待されています。

今号では、実験や実習の多い専門高校における主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の実践について紹介します。

#### 2 専門高校の主体的・対話的で深い学びを目指して

都教育委員会は、令和4年度から、キャリア教育及び産業教育の一環として、実際のビジネス活動を体験する機会を設けるなどの取組等を行い、探究的な学習やアントレプレナーシップ教育等を推進するため、「社会の人材を活用した教育を実現するための授業支援研究指定校」を指定し、研究開発を行っています。

#### 【社会の人材を活用した教育を実現するための授業支援研究指定校の取組】

##### 【ケースA】

農業系高校

パティシエやデザイナー等と連携し、商品の「ラベルデザイン」の改善や、「新商品の製造」に取り組んだ。



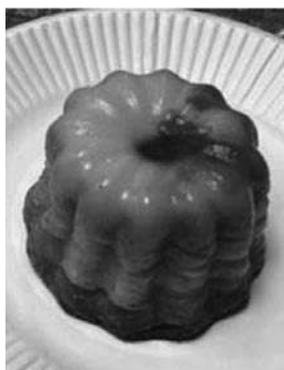
【ラベルデザインの検討】



【新商品開発の様子】



【生徒が考案したラベル】



【パッケージデザインの検討】

ケースAは、学校の農園で育てた夏みかんを収穫して作る「マーマレード」について、デザイナーやパティシエ等の専門家からの助言を踏まえ、ラベルデザインや新製品の製造、ブランディング等についての教育を実践している事例です。

ラベルデザインの工程では、マーマレードが商品になるまでの物語をラベルを通して表現するためデザイナーを交えて生徒同士の対話を重視しながらデザインを検討しました。また、新商品開発においては、チームで協力して開発を行い、コンペティション等を実施し、新商品開発を実現しました。生徒は、新しいアイデアを提案する活動をとおして、未知の課題に立ち向かい解決する力やチームで課題を発見し解決する力を身に付けることができました。

また、都教育委員会は、令和4年度から、社会の変化と期待に応える人材育成と、生徒の進路実現を図るため、民間企業の社員やOB等を活用し、専門高校が推進する系統的・継続的なキャリア教育を支援する、「専門高校における民間OB等活用事業」の指定校において、主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育を推進しています。

#### 【専門高校における民間OB等活用事業指定校の取組】

##### 【ケースB】

技術指導やキャリア教育等を民間企業の社員と連携し、実践的な学習に取り組んだ。

ケースBは、乗船実習において、船舶に関する民間企業の社員を招聘し、実践的な技術指導はも



【民間企業の方による海洋実習】



【民間企業の方との交流学習】

とより、キャリア教育を実施した事例です。

実習は、1回の航海で7日から14日程度行います。その実習において、生徒は民間企業の方から専門的技術や技能の指導を受けるとともに、民間企業の方との交流をとおして、生徒自身が目指す進路と進路を実現するために必要な資格取得について、より具体的に深く考えることができました。学校は民間企業の方の力を活用し、授業での学びを更に深め、生徒の主体性を引き出すことができました。

### 3 今後の課題

産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業人に求められる技術・技能は高度化・多様化しており、専門高校には社会の変化やニーズに応える人材の育成が求められています。

今後も全ての専門高校において、外部人材の活用や企業等との連携し、主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進をすることで、学校の魅力向上と東京の産業を担う人材の育成の取り組みを推進していきます。



## 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進 ～都立八丈高等学校園芸科の取り組み～

東京都立八丈高等学校主任教諭 松橋 彩子

### 1 はじめに

農業教育における「主体的・対話的で深い学び」とはなにか。一般的には生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話から自己の考えを広げることが指すことが多い。しかし、農業の場面で、本当に教師や生徒同士の対話だけに留まることがありえるのだろうか。対象とする植物と対話、家畜と対話、天候や土壌、風向きなど自然環境との対話、肌で感じる湿度や土のおいなど、自分を取り巻くものすべてとの「対話」の連続である。栽培、飼育、製造の場面で、教科書通りの解に到達することも少なく、自己の技術・知識とも対話し、試行錯誤を経て学習が完成する。「生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話」を超えて、大きな広がりがあるのが農業教育である。農業教育そのものが対話的で、もちろん主体的で、深くもある。その実現に向けた授業改善は農業科の教員が長年にわたって継続しているものである。

したがって本稿では、新学習指導要領と本校のカリキュラムを対比させる作業はせず、学校の現状について記載することとする。本校は島で唯一の高校であり、地域との関係も密接である。島の農業にも触れながら、都立八丈高校の園芸科の取り組みを紹介することとする。

### 2 八丈高校の概要

伊豆諸島最南端の高校で、島内中学生の大半の生徒の進学先である。昭和 23 (1948) 年設立で全日制課程では併合科 (園芸科・家政科)、普通科、定時制課程では普通科を設置している。全日制課程の生徒数は全校で 132 人と小規模であり、園芸科に在籍する生徒は 8 名である。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取り組み

「八文学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(普通科・総合的な探究の時間内で実施)では、八丈島の自然、歴史、文化、産業等について探究学習を通し、地域の課題解決策を提案し実践する人材、八丈島の島内外から八丈島を支える人材の育成を目指している。Hawaii 大学 Hilo 校や Waiakea 高校との姉妹校交流を通して、多様な文化や異なる生活様式を学ぶ国際交流や、東京都立大学、東京都立産業技術大学院大学との連携も行っている。

#### (2) 特色ある園芸科の教育活動の取り組み

「草花」「野菜」「食品製造」を主要科目として位置づけ、これらの関連科目を中心に学習を進めている。

##### ①「草花」分野の授業

農業算出額の約 80%を占める花卉園芸が島の農業の基幹である。そのため、本校園芸科でも、花卉に関する学習を中心に位置づけ、関連科目(単位数)を多く設置している。1 学年ではサルビア、パンジー、サイネリアなどの花壇草と鉢花、2 学年ではカーネーションやトルコギキョウなどの切り花、3 年生ではシンビジウム、ドラセナ、ハイビスカスなどのラン類、観葉植物、花木を扱っている。フェニックス・ロベニー(通称ロベ)を中心とする切葉・観葉植物の栽培が盛んであり、これらの栽培と利用についても学んでいる。

##### ②「野菜」分野の授業

キュウリ、ピーマン、ナス、ハクサイ、バレイショなど指定野菜のほか、八丈島で伝統的に栽培が盛んなサツマイモ、島唐、セルリーなど 25 品目以上を扱っている。トマト、ミニトマト、オクラの 3

品目でJGAP認証を取得し、農業生産工程管理の実践にも取り組んでいる。授業での栽培方法は慣行農法を基本としているが、島で伝統的に実践している農法も採用している。長年にわたり島の人たちが大切に栽培している島唐、八丈オクラ（ネリ）、サトイモは、本校でも毎年自家採取（自家増殖）を繰り返し、遺伝資源の保護にも取り組んでいる。

### ③「食品製造」分野の授業

穀類、果実、野菜、豆類、イモ類を原料とした加工について学習している。農産物の生産から加工・販売まで、「もの」をつくることの大切さを学びつつ、農業の6次産業化に対応できる知識と技術など、幅広く学習している。「園芸科」における「食品製造」であるため、製造原理だけでなく原料となる作物の栽培現場と製造現場をつなげて生徒が考えられるよう授業を工夫している。

原料には、なるべく学校で栽培したものを採用することとしている。生徒数が少なく、生産規模が小さいが、その分、原料使用量も少量で済み、購入原料に頼らない実習授業が実現できる。例えば、トマトケチャップ、イチゴジャムの主原料はすべて授業で栽培したものを使用している。島で庭木として栽培されることの多いグアバの実から作るグアバジャムは、独特な風味と珍しさからファンも多い。

観光業は島の中心的な産業である。地域の特徴を感じることでおいしい食を実感できるのは旅の大きな魅力である。農と食、観光を結びつける人材を育成するために、本校の食品製造の授業は重要な分野として位置づけている。

### ④苗や花の頒布

島内すべての保育園、小中学校を対象に、春夏野菜苗（トマト、キュウリ、ナス、ピーマンなど）の提供を行っている。卒業式シーズンには、コサージュの花材や壇上花の提供を行っている。植物の栽培や観賞の経験をきっかけに、農業への関心をもってもらうことを目的としている。農業のすそのを広げることは、農業教育に携わるものの共通理念である。将来的に農業にかかわる人材の育成、長期的なビジョンも、農業科を有する学校の役割である。

### ⑤苗販売

年3回、地域の住民の方を対象とした花や野菜の苗の販売を実施している。日頃の学習成果の発表の場として、生徒の活躍を直接見ていただく機会としている。生徒が栽培や販売にかかわった苗が、地域住民の方の生活や生涯学習の一部となる側面もある。天候や海況の影響を大きく受ける離島では物流が途絶えることが多い。輸送費用が転嫁され物価も高い。島の人たちは、自給的に食料を確保することへの意識、個人レベルの食料安全保障に対する意識が高い。多湿で多雨、強風の八丈島は、野菜栽培を容易なものにはしないが、逆にこの気候が、島の人野菜栽培を後押ししていると考えられる。野菜苗はいつも飛ぶように売れる。民宿や飲食店で提供する野菜を自ら栽培しており、その苗を本校の販売会で毎年購入してくれている方もいる。個人の余暇を花や野菜の栽培に充てている方も多い。趣味の範囲を超えた技術もうかがえ、統計上の数値よりも、島では潜在的に農業に深くかかわる人が多いように感じられる。花を愛で、野菜を育てるなど、島の生活や文化に植物が浸透しており、その一部に本校の生徒がかかわっている。

## 4 今後の課題

島の人口減は閉校・閉科の可能性に直撃する。卒業生数は、最も多い昭和42（1967）年の175名（うち園芸科28名）をピークに減少傾向が続いており、令和4（2022）年度は47名（うち園芸科は1名）である。「教員との対話的な学び」の場は十分に提供できても「生徒同士の対話的な学び」を実現しにくい。他の生徒と経験を共有し、互いに学び合うことができる、高校生らしい学びの場を守ることが課題である。

八丈町の農業粗生産額は、都内の市町村の中では八王子市、町田市に次いで第3位となっている。産業と教育の連携を考えれば、八丈島に園芸科があること自体に価値がある。離島の地域振興を進展させるためにも八丈高校の役割は大きい。



## STEAM教育を通しての「主体的・対話的で深い学び」の実現

東京都立多摩科学技術高等学校指導教諭 田中 義靖

### 1 はじめに

「学びのイノベーションプラットフォーム」や「STEAM English Lab」といったSTEAM教育を推進する団体が増えている昨今、授業にSTEAM教育を取り入れることは必須事項になりつつある。

このような状況の中で、本校では、通常授業や特別な講座などで実践してきたSTEAM教育における「主体的・対話的で深い学び」についての成果の分析を試みてきた。

### 2 学校の概要

本校は、先進的・実践的な理数教育を実施する学校として平成22年4月に開校した科学技術科の学校である。

科学技術科の中には、ナノテクノロジー (NT)、バイオテクノロジー (BT)、エコテクノロジー (ET)、インフォメーションテクノロジー (IT) の4つの領域がある。

「課題研究」や「卒業研究」などの特色ある教育課程に加え、文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、大学や最先端研究機関の研究者の協力によるアドバイザー制度や、グローバルな科学技術人材育成のための海外研修を活用し、未来の科学技術者の基礎を作り、世界で活躍する科学者や技術者を志す生徒たちを育てている。

また、本年度からは、科学技術人材育成重点枠の指定を受け、最先端のシミュレーションソフトを活用した地球規模の課題解決に取り組むことによって、イノベーションを生み出す人材の育成に取り組み始めた。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

「主体的・対話的で深い学び」の実現は、通常授業よりも、教科横断的な授業やSTEAM教育の授業の方が達成し易いという仮説を立てて、学校全体の取組としては、教科横断的なサイエンス・ワークショップという講座やSSH事業の「分野等融合探究」という授業を展開してきた。また、各教科の授業では、科学技術人材としての資質の向上を獲得できる授業を通常の授業の合間に展開してもらっている。

#### (1) 学校全体の取組

教科横断的なサイエンス・ワークショップは、教科の異なる複数の教員が1つの講座を担当する形を取り、1学年と2学年の生徒が混在する形で受講することになっている。

例えば、昨年度の実践の1つに、英語科と化学科が協力して実施した講座がある。講座の内容は「単語を調べたりせずに今知っている知識や経験をフルに活用し、操作が英語で書かれた化学実験を体験する。その後、自分なりにその操作を日本語で書く。日本語に書き直した操作を化学科教員と一緒に検討する。化学実験を日本語で書かれた操作を見て行い、実験を行ったあとで操作を英語で書き直してみる。英語に書き直した操作を英語科教員と一緒に検討する。」というものであった。

この講座での生徒の活動では、前半では英語で書かれている操作を理解しなければならないので、普段より熱心に操作を理解しようとしていただけでなく、班内で答え合わせのような対話の場面が生まれていた。後半では答え合わせのような対話により、英語を道具として使おうと

する意識が活性化したようだ。

「分野等融合探究」という授業だが、昨年度の実践の1つに以下のようなものがあった。

この実践は家庭科の教員と数学の教員の連携によるものである。講座毎に育てたい力を設定している。この講座では、金融リテラシーへの理解と金融に関する計算力を育てる設定になっていた。

時程は以下のようになっていた。

15時30分から15時35分まで

金融リテラシーの解説

15時35分から15時50分まで

お金を「借りる」とは何か

その方法や種類についての解説

15時50分から16時まで

手数料（金利）について

リボルビング払いについての解説

16時から16時15分

複利計算のシミュレーション

16時15分から16時20分

まとめ・アンケート

生徒への事後アンケートを見ると、以下の意見があった。

- ・将来に使える内容だったので面白かった。
- ・先輩と話す機会ができて良かった。
- ・2年生の授業の受け方が理解できた。
- ・思っていないところでも、いろいろな教科が組み合わせられていることが分かった。
- ・お金について考える良い機会になった。
- ・数列は偉大である。
- ・他学年の生徒と協力して課題に取り組むことができた。

以下は教員の感想である。

- ・ペアワークやグループワークが、思いのほか盛り上がっていてよかった。
- ・教員側も気づきがあった

これらのコメントからわかることは、対話的な活動を生徒たちが欲していることと、通常の授業で学ぶ「行列」よりも「金融」といった

切り口を提示することによって興味を抱かせ主体的な活動へ誘うことができるということである。

## (2) 学科・教科の取組

科学技術科の「課題研究」の授業はもちろん、普通科の通常の授業においても、科学技術人材としての資質の向上につながる授業を展開しているが、その授業においては「主体的・対話的で深い学び」が実現している。

例えば、化学科の「化学基礎」の授業においては、酸化還元単元で、日光写真の実験を行い、紫外線によって変化する試薬を推測させて、検証実験を考案させる授業を行っている。

生徒たちは、班内で対話しながら、仮説を立て、その仮説の正しさを証明する実験を設計しようとする。

ナノテクノロジー領域の授業においては、科学の甲子園の実技試験を導入している。

ウインドシャトルカーの実技は、車体の形などを考えさせるだけでなく、実際に組み立てて走行させ、問題があれば改善するというトライアル&エラー（試行錯誤）を数人の班で行わせている。この実践では、成功させようとして主体的に動き、班内で対話することで、素材の性質や車体の意味などを深く理解できるようになっている。

## 4 今後の課題

本校では「主体的・対話的で深い学び」の実践はSTEAM教育や教科横断的な実践や探究活動の一環としての授業で活発に展開している。

また、通常授業でも、科学技術人材の資質向上のための授業展開が結果的に「主体的・対話的で深い学び」の実践になってきた。

そこで、次のステップとして、通常の授業での「主体的・対話的で深い学び」の取組を集約し、内容を分析し、効果的な実践を他校へ発信したり、生徒の成長を記録したりすることを考えている。



## 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進 ～葛飾商業高校ビジネス科の取り組み～

東京都立葛飾商業高等学校副校長 木藤 則行

### 1 はじめに

平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領では、育成することを目指す資質・能力を「知識及び技能（専門高校では技術）」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱で整理し、その資質・能力を育むため、学校で子供たちがどのように学ぶのか（主体的・対話的で深い学び）の視点からの授業改善等が求められており、令和 4 年度の入学生から年次進行で進めている。本報告では、本校が取り組んでいる教育活動及び実践事例を紹介する。

### 2 学校の概要

本校全日課程は、昭和 37 年（1962 年）に東京都立金町高等学校に全日課程商業科が新設され、校名を東京都立葛飾商業高等学校と変更して開校、以来 60 年の伝統に支えられた、東京東部に位置した葛飾区の商業高校である。平成 30 年度から、商業科・情報処理科をビジネス科に改編、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を磨き、グローバル社会で求められる能力を身に付ける教育を推進している。また、勉学にスポーツにと文武両道を推進する地域に根ざした教育を実践して卒業生 1 万 8 千名余りを輩出している。本校は商業の専門高校としての使命を果たすため、商業に関する専門的知識と技術を習得させ、人間性を磨き、社会を支える一員であることの自覚のもとに、望ましい勤労観・職業観を養い、自己実現に主体的・創造的に取り組む人間を育成している。

令和 4 年度より、「めざせ！葛商ブランドの確

立 ～教育内容の充実と進路実績の向上～」をスローガンに掲げ、「地域貢献 NO.1 地域と連携した地元密着型のビジネス教育の推進 ～都立商業高校として、地域に信頼され目標とされる学校の実現～」を本校のミッションとして教育活動を実践している。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### （1）学校全体の取組

本校では全学年において様々な団体との取り組みを推進している。1 学年のインターンシップでは地元企業や団体等、2 学年の「ビジネスアイデア」では一般企業や団体等、全学年で実施しているボランティアでは商店街や振興会、自治体、児童館、福祉法人等と連携し主体的に学ぶ活動の場を広げている。部活動では JRC（青少年赤十字）と連携してのボランティア活動、地域清掃や地域行事への参加やポスター制作等、地域貢献活動を積極的に行い、地域の教育力をお借りし生徒の育成を図っている。さらに、昨年度より東京都教育委員会が企画・運営している勉強会やイベント、研修会等にも積極的に参加することで、専門的知識と技術の習得を行っている。

#### （2）特色ある教育活動の取組

##### ①地元野菜を活用した販売実習

以前から、本校定時制マーケティング部が設立した模擬会社「葛商ベジタブル」で販売実習を行い、「葛飾元気野菜」を中心に地域商品を仕入れ、販売する活動を行っていた。現在では、従前の定時制課程マーケティング部と連携し、全日課程では授業の一環として、葛飾元気野菜の他、特別

支援学校と連携しての商品販売、地元菓子や総菜販売も行い、月1回の頻度で本校および駅前店舗にて販売活動を行っている。また、例年10月に開催される地元の産業フェアにも参加し、販売実習を行っている。

販売実習を通じ、商品の分析や販売手法の検討を行い、どのように販売すれば良いかを考え、販売に必要な知識や技術を理解し身に付けることができる。また、販売後は販売データの分析や振り返りを行い、次回の販売実習のための研究・分析を行っている。



## ② 8月14日～16日 夏の3Days ハッカソン

令和5年8月に東京都教育委員会が主催する「夏の3Days ハッカソン」に参加した。ハッカソンとは、決められた期間にチームでアプリやシステムを開発することの造語で、班ごとに課題を設定し、アプリ開発とプレゼンテーションで競い合う活動を行った。本年度は「青春の問題をITで解決しよう！」というテーマに対して「目的や予算に合わせデートプランを作成・共有するアプリ」を開発することができた。



## ③ 8月10日・28日 英語による観光案内

近隣の柴又帝釈天にて、本校生徒による観光案内を行った。事前に商店街と日程等調整し、海外から来られた方を対象として、生徒が考えた英文での観光案内を観光客の方を対象に実際に披露して案内した。柴又駅から帝釈天までの参道を歩き、名所や名物を紹介し、英語でのコミュニケーションを楽しみながら活動することができた。来年度から本校で開講する「観光ビジネス」の授業の事前研究として実施したが、どのように案内すると効果的かを考え、英語でのコミュニケーションに必要な技術を検討、検証することができた。また、本案内の振り返りを行い、成果および次回の案内のための課題を見出すことができた。



## 4 今後の課題

「学びの場は地域にある」。ここ数年、コロナ禍で校外での活動が制限されていたが、本年度より地域での貢献活動ができるようになり、地域からの要請も以前に戻りつつある。コロナ禍で制限されていた前の本校の地域貢献活動を経験している教員が少なく、地域から依頼があった場合のノウハウや対応方法等、一から確認・検討しなければならない。本年度からの経験を蓄積し、次年度以降に継承していくことが課題である。

また、東京都教育委員会との連携事業も継続して実施していくために、教員がノウハウや課題の確認を行い、どの教員でも対応できるよう共有することが課題である。本校の生徒全員を成長させるために、このような活動を積極的に進めたい。



## 家庭学科における主体的・対話的で深い学びを目指した 特色ある取組

東京都立農業高等学校長 一ノ瀬 淳

### 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5月8日より、季節性インフルエンザ相当の5類感染症となった。学校は朝の検温や濃厚接触者の特定、感染者数の報告等がなくなったが、引き続き新型コロナウイルスや季節性インフルエンザ等感染症に隣り合わせの生活は継続している。

現行の学習指導要領が導入され2年目となり、主体的・対話的で深い学びの授業への転換や観点別評価の導入、一人一台端末の活用など、これまでにない大きな変化に対して、学校は着実に対応をしてきている。また、専門高校については、新型コロナウイルス感染症により滞っていた、産業界や地域との連携や社会に開かれた教育課程を実現するための取組が求められている。

### 2 学校の概要

本校は明治42年、東京府北多摩郡立農業学校として創立、大正12年に東京府に移管され、東京府立府中農蚕学校と改称された。昭和23年、東京都立新制農業高等学校として農業と家庭の各科を設置、昭和25年、東京都立農業高等学校となり、現在は農業科として都市園芸科、緑地計画科、食品科学科の3学科、家庭科として服飾科、食物科の2学科を設置している。

食物科は、厚生労働大臣指定の調理師養成施設として国家資格「調理師免許」を取得できる学科であり、服飾科は都立高校唯一の学科である。『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を未来の生徒像とし、専門教科、普通教科の学び、特別活動をとおして学校全体としてスクールミッションの実現に取り組んでいる。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 教科間連携と地域連携による学びの充実

新学習指導要領には、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成が掲げられている。本校は令和4年度から2年間、東京都西部学校経営支援センター特別指定校の指定を受け、スクールミッションの実現を目指して、「教科間連携及び地域交流の強化による学びの充実」を主題とした実践研究を行った。

#### ① 教科間連携の取組

##### ア 服飾科

都市園芸科	3年生のファッションショーで使用するブーケや花飾りの製作。服と飾りのイメージを共有し、都市園芸科の生徒が製作。
理科(化学)、都市園芸科	1年生で都市園芸科の栽培した藍を用いて布を染色。その布を用いて小物を製作し化学の授業で染色の化学反応(酸化還元)について学習。

##### イ 食物科

都市園芸科	1年生が農場見学と果樹園で収穫した桃を用いて、「ペチエーニエ・ペルシック」(桃のクッキー)を製造。
食品科学科	2年生が茶畑と製茶工場を見学。茶摘み体験及び茶樹の栽培から日本茶の製造、提供までの過程を一貫して学習。

#### ② 地域社会と連携した学びの充実

##### ア 服飾科：地域・企業との連携

けやき並木通りで行われる府中市主催「キテキテ府中マルシェ」で3年生がファッションショーを行い、日頃の学習成果の発表。地域から高い評価を得ている。また、昨年度は、企業との連携として、ロイヤルフードサービス株式会社 シェーキーズ営業部と連携し、店内のクルーが着用するスタッフユニフォームのデザインコンテストを実施し、生徒がデザインを提案、提供した。

### イ 食物科：インターンシップ

昨年度まで、新型コロナウイルス感染症により、実施を見送ってきたインターンシップを今年度より再開した。2・3年生の希望者約30名が都内ホテルやレストラン、府中市にあるレストランや給食施設など、延べ14施設で実施した。

インターンシップの連携先

都内ホテル	第一ホテル、帝国ホテル
都内レストラン	桃里、デューク、JFE 六本木クラブ
府中市レストラン	府中乃森咖啡店、カフェ・マーブル
給食施設	安立園（養護老人ホーム）、晴見保育園（保育施設）

### (2) 「一人一資格」「一人1コンテスト」への挑戦

専門教育の充実と生徒の学習意欲向上のために、資格取得と各種コンテストへの参加に力を入れている。今年度は、全生徒へ「一人一資格」または、「一人1コンテスト」の挑戦を推奨している。

#### ① 取得資格

服飾科	被服技術検定3級、被服技術検定4級 ファッション色彩能力検定3級 パーソナルカラー検定2級・3級
食物科	食物調理1級、食物調理2級、調理師資格

#### ② 主な参加コンテスト

服飾科	高校生ファッションデザインコンテスト 全国ファッションデザインコンテスト 高校生デザインコンテスト
食物科	うまいもん甲子園、WASHOKUグランプリ、ジュニア料理選手権、江戸東京野菜料理コンテスト、ザ・地産地消料理コンテスト、とかちマルシェ料理甲子園、高校生食育王選手権大会、食物アレルギー対応食料理コンテスト

### (3) 特色のある取組

#### ア 服飾科：ファッションショー（写真1）

文化祭に行われるファッションショーは、2年生から自分でデザイン・縫製したドレスやスーツを着て、自分がモデルとなりランウェイを歩く。4～6人のグループごとにテーマを決め、創造性を働かせながら、協働して発表をしている。音楽・舞台照明の演出も生徒自身が行い、この発表を成功させることが、日頃の学習のモチベーションのアップにつながっている。



写真1：文化祭 ファッションショー

#### イ 食物科：集団給食（写真2）

集団給食実習は、生徒自ら献立を考え、200食以上の大量調理を行う実習である。2・3年生各学年で年3回行われ、食材・容器等の原価や塩分・カロリー等の栄養価の計算を行うなど実践的な内容になっている。実習は調理のみに留まらず、使用する食材に関する情報をまとめたポスターの作成、当日の料理販売用の食券の作成といった事務作業、盛り付けられた料理の配膳等の接客も生徒自身が行い、実践的な学びとなっている。



写真2：集団給食 中国料理

### 4 おわりに

多くの生徒は、専門教科や専門分野に興味や関心を持って入学してくる。家庭学科の卒業生が専門関連分野の道に進んでいく割合は、毎年85%を超えている。

今後も「資格取得やコンテストへの挑戦などキャリア形成と結びつけた主体的な学び」、「生徒同士や地域連携をとおした対話的・協働的な学習」、「教科間連携や課題研究による深い学び」を目指した授業実践を推進していく。



## 主体的・対話的で深い学びを目指した総合学科の取組

東京都立葛飾総合高等学校主幹教諭 松村 正博

### 1 はじめに

令和5年度は、新しい学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」の実施や、1人1台端末の活用が始まって2年目となる改善の年度である。また、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、感染拡大防止のため制限していた教育活動も少しずつではあるが日常を取り戻しつつある。

令和5年度は、これからの教育活動を再構築する年度である。現在、本校が取り組んでいる主体的・対話的で深い学びを目指した授業の取組を報告する。

### 2 葛飾総合高等学校の概要

本校は、平成19年に23区東部初の総合学科高校として設立され、今年度で17年目となる。各年次5クラス編成で、542名の生徒が学んでいる。「進取創造（自ら進んで物事に取り組み新しいものを初めて作り出す）」、「自主自律（自ら立てた規範に従って、自ら厳しく行動する強い気持ち）」を校訓に掲げ、授業、学校行事および地域連携を通して【葛総力】を育成している。なお、【葛総力】とは、本校が考える総合的な学力のことであり、次のような資質・能力のことである。

#### 【葛総力】

コミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題対応力、情報収集と分析力、思考力、判断力、表現力、積極性、主体性、協働性、計画性、柔軟性、創造性、責任感など

本校の教育課程は、1年次で基礎となる科目を

学び、2年次からは「国際コミュニケーション」、「生活アート」、「スポーツ福祉」、「サイエンス・テクノロジー」の4つの系列に分類された、120を超える選択科目から、自分の興味・関心や進路希望をもとに「自分だけの時間割」をつくり、進路実現ができるように編成しており、また、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を「キャリアコア」の授業として3年間計画的に行い、自分の将来や、強み（専門性）を考えさせる教育活動を行っている。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取組

新学習指導要領2年目となるが、改めて観点別評価への理解や、評価方法に教員間でブレがないように、4月に観点別評価の方法について読み合わせを行った。特に主体的に学習に取り組む態度の評価について、①粘り強い取組を行おうとする側面と②自らの学習を調整しようとする側面について確認を行った。また、教科主任会を行い、教科指導の重点を検討し、全体で共有した上で指導にあたっている。観点別評価については、東京都教育委員会や国立教育政策研究所、大阪府教育委員会など他の自治体の資料を提示し、常に閲覧できるように環境を整えている。

1人1台端末の導入や校内環境の整備については、ICT委員会や、ICT支援員を中心に行っている。Microsoft Teamsで、教員のチームを作成し、ICTの教材情報や、生徒のTeamsでの不具合情報とその対処方法、他校のICT実践事例など様々な情報を共有している。

## (2) 特色ある教育活動の取組

本校の特色ある教育活動として、いくつか事例を紹介する。

### ○「キャリアコア (CC)」の取組

1年次では「産業社会と人間」を「キャリアコア 1 (CC1)」という名前で授業を行っている。4月に「葛飾アントレ」という行事で、地域の方々を学校に招き、高校生活の過ごし方をテーマにインタビューし、グループでまとめ、発表する。夏季休業中には「職業人インタビュー」を行い、個人でまとめ発表する。その後は専攻ごとに分かれ、「〇〇になるには」をテーマにグループごとにポスターを作り発表する。これらの発表は相互評価し、学びを深めていく。

2年次、3年次では、「総合的な探究の時間」を「CC2」、「CC3」の名前で授業を行う。個々で研究テーマを決め、課題研究を行う。教員の指導の下、2年次は3月、3年次は12月に行われる課題研究発表会（保護者公開）に向けて、研究や発表準備に取り組む。また、課題研究発表の取組は、学校推薦型選抜や総合型選抜の面接にもつながり、進路決定に寄与する。

「CC」の取組については、授業を計画する校務分掌（総合学科推進部）を設置し、計画的に教育活動を行い、【葛総力】の育成を図る。

### ○ICTを活用した授業の取組

「情報I」の授業では、「問題解決」の単位において、グループごとに「身近なデータ同士の関連性」をテーマに2変数の相関関係を調べる取組を行っている。データはインターネット上にあるオープンデータを使用し、表計算ソフトを用いて相関係数を求めたり、散布図を作成させたりする。グループごとに Teams の ClassNotebook 機能を用いて、調査結果をまとめさせ、第三者が見ても内容がわかるように工夫させる（情報デザインの応用）。「なぜ、そのテーマを設定したのか」、「それらのデータの関連性の有無とその結果の考察」を含め、クラス全体で発表会を実施している。

「体育」の授業では、実技の授業において、1人1台端末を活用し、技能の定着や学習の振り返りを行っている。具体的には、録画機能を使った技能の定着度の確認やゲームでの動き方の確認、見本となる動きの動画視聴、学習の振り返り等を行っている。

他の科目でも、Microsoft Forms や Kahoot!, Quizlet などを活用しながら生徒に興味・関心をもたせ、主体的に取り組めるように工夫している。

### ○地域と連携した授業の取組

本校には様々な学校設定科目があり、生徒の興味・関心に応じたものや、進路実現に向けた専門的な授業を行っている。その中で、地域と連携した授業の取組として、一部を紹介する。

- ・「福祉総合基礎」、「福祉総合演習」の授業では、社会福祉士を特別専門講師として招き、葛飾区の社会福祉協議会やボランティアセンターと連携した授業を行っている。
- ・「コンテンツクリエイション」の授業では、特別専門講師を招き、コンテンツの制作として、ラジオを企画し、葛飾エフエムの協力を得て、実際に放送を行った。
- ・「葛飾の自然観察」の授業では学校を離れ、水元公園内の施設「水元かわせみの里」の協力のもと、自然観察を行い、その成果をまとめている。

## 4 今後の課題

令和6年度は、新しい学習指導要領実施3年目となり、完成の年度となる。総合学科の使命である、多様な生徒の個性を伸ばし、進路希望を実現させるためには、生徒が主体的に学ぶための教育活動が必要である。そのためにも、観点別評価の充実に組織的に取り組み、「指導と評価の一体化」を実施したい。

本校は、令和6年度入学生から制服を一新し、転換期を迎える。【葛総力】のさらなる育成を目指し、「葛総らしさ」が見える教育活動を今後も実践していきたい。



## 特色ある産業教育を目指して

—多様化する鉄道ビジネスに対応する人材育成のための、  
主体的・対話的で深い学びを目指した取り組み—

岩倉高等学校教諭 開 歩

### 1 はじめに

本校は、普通科、運輸科の2科体制で、運輸科を中心とした鉄道業界就職を目指す生徒は、全体の約25%ほどを占めています。彼らを目指す鉄道業界も交通インフラを整えて支えるのはもちろん、人々の生活を豊かにするために多方面においてサポートを行う会社へと変化しています。想像を超えるスピードで変化していく社会に適応、対応できる人材を育成すべく、日々努力を行っています。

### 2 学校の概要

本校は1897年(明治30年)に、日本初の鉄道学校として神田錦町に創立し、その後、1903年に岩倉鉄道学校、1948年に岩倉高等学校へと名称を変え、4年後の2027年6月5日に創立130周年を迎えようとしています。「岩倉」の名は、日本の鉄道の発展に大きく貢献し、維新の十傑として知られる岩倉具視公にちなむものです。鉄道運輸業界を中心に21世紀を担う、思考力・行動力に優れた人材の育成を目指しています。

現在は、「運輸科」と「普通科」の2科体制による「共学校」で、運輸科は、鉄道業界への就職を目指すために主体的・対話的で深い学びの一環として「鉄道実習」などのインターンシップを数多く取り入れることで、早期から職業観の育成を目指しています。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取り組み

##### ① ICT関連の設備、環境づくり

一人1台のiPad導入により、コロナ禍にお

いてもオンライン授業対応ができました。通常の授業内でも、iPadの積極的活用、Wifi環境、MAXHub(電子黒板)の導入、学習支援アプリの導入等により、教室内の環境整備等に力を入れています。

##### ② 総合的探究の授業の充実化

総合的な探究の時間を本校では、「経験」に着目したカリキュラムで設定しています。

##### 1年次

(経験) SDGsについての現状・原因の模索と新しい解決案の発表

(知識) 7企業・1団体と連携したキャリア教育

(目的) SDGsを通して、進路選択の材料を得る

##### 2年次

(経験) 9つのステップの起業プログラム

(目的) SDGsを通して、新しい価値を創造する

##### 3年次

(知識) 株式学習を中心とした金融・経済教育

(目的) SDGsへの関わり方を学ぶ

実社会において重要なことは、どのような「経験」をしてきたかであると考え、「経験」を重要視し、また生徒には振り返りの際に自分にどのような「生きる力」がついたのか、考えてもらうようにしています。多くの企業に授業へご参加いただくことで、貴重なお話を伺うだけでなく、地域・社会とのつながりを構築しています。

##### ③ 千羽鶴活動(セカンドチャンスづくり)

部活動、行事、生徒会活動などの活動は、すべて質の高い探究活動になっていますが、そのような活動に絡めていない生徒もいるのが実情です。そこで、学校内にセカンドチャンスを設けることで、学校に活動拠点を失った生徒が、

自分の興味関心にしたがって、中長期の新しいプロジェクトに挑戦していける環境を創っています。

- ・月に1度のカンボジア交流会
- ・古河市における歴史研究・地域創生事業
- ・ケニアのお母さん支援
- ・ドライマンゴのパッケージデザイン&文化祭販売プロジェクト
- ・障がい者支援&農業体験プロジェクト

など

## (2) 学科・教科の取り組み

### ① インターンシップ「鉄道実習」

キャリア教育の一環として鉄道企業において「鉄道実習」を実施しています。インターンシップと位置づけており、鉄道会社への就職を希望している生徒や、企業でのインターンシップを希望する生徒を対象に、鉄道各社で駅業務全般を体験しています。そのほか、車両基地、車両整備、保線などの技術職を体験できる実習を取り入れることで、鉄道の仕事が様々な分野で成り立っていることを認識し、自分にあった職業選択を行えるように環境を整えています。

深い学びとして、東武鉄道によるダイヤ作成の勉強会に参加しています。現職の方からの指導を受け、実際に貸し切り列車に乗車しながら、ダイヤの流れを確認していきます。Zoom機能を使用し、細かい解説を受けることができます。

### ② 鉄道企業や旅行業界との高校生コラボ企画

・東武鉄道株式会社が、東武トップツアーズ株式会社、クラブツーリズム株式会社、株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社XPJPと連携し、2023年に予定している特急スペースシア新型車両の導入を契機にプロジェクトが始まり、そこに、栃木県の佐野高校、鉄道の岩倉高校で協力し、新しい魅力の提案に挑戦しています。実地踏査、佐野高校との対面、オンラインによる準備を行い、高校生の考える「東武鉄道×栃木・日光×高校生の旅」を提案しましたが、企業からは賛同を得られない結果となりました。そこから、諦めずに提案を続け、新型特急導入に合わせて、

ガチャガチャ企画に挑戦させていただきました。社会の厳しさ、リアルな現実を知り、苦しみながらも、仲間と協力して答えのないものに粘り強く挑戦することで大きく成長することを強く感じる機会が創れています。



### ・岩倉高校×東京メトロ×はとバスとの企画

はとバスのツアー目的地が岩倉高校、東京メトロの車両基地となっており、本校の生徒が、案内をするだけでなく、積極的にお客様に説明をして、おもてなしの体験を行いました。準備の大変さ、説明の難しさなど気づき多い時間となりました。また、終了後には、企業の方々と反省や修正を行うミーティングを重ね、具体的に「現実」を感じる機会を創出しています。

## 4 おわりに

運輸科では、多様化する鉄道ビジネスに対応するための鉄道業務を総合的に学びながら、サービスや旅行・観光分野の見識も深めています。夢の実現に向けて、できるだけ【ナマの体験】を大切にしています。鉄道実習などの鉄道企業での体験のほか、旅行会社や鉄道関連企業との連携を図り、知識、見聞を広げ、経験を積んでいきます。そのため、生徒の体験の場の安定した場面設定や課題設定が今後の課題となります。



## 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進

京華商業高等学校教務主任 鈴木 貴博

### 1 はじめに

本校は 1901（明治 34）年に「豊かな実務知識を備えた経済人の養成」を目的に設立されました。1889 年大日本帝国憲法発布、東海道本線全線開通、1890 年第一回衆議院議員総選挙実施、1894 年日清戦争、1904 年日露戦争等々、幕末の動乱期を乗り越え、政治や国家システムが大きく変わる時代です。鉄道や照明、電話等が登場して人々の暮らしも大きく変化します。国際社会の荒波の中で、欧米から様々な事物を吸収しながらも、対等な関係を維持するために、国家の基盤となる経済力と人材の育成が急務でした。昨今の人工知能による経済活動の急激な変化や、不安定な国際情勢をみると 120 年前程ではないとはいえ、似たような状況かもしれません。このようなタイミングで、本校の存在意義と社会から要請される主体的・対話的で深い学びをどう捉え、どう実践すべきかを考えることは無意味ではないと思われます。

### 2 学校の概要

本校は首都圏では数少ない全日制商業科の私立高校です。生徒の個性を尊重しつつ、経済社会で活躍できるように基礎学力の向上のみならず、礼儀やマナーをはじめとして社会人としての自覚を促すための独自の教育活動を実践しています。

1 年次は共通カリキュラムとして生徒全員の基礎学力の向上と簿記会計や情報処理、商業経済各分野の土台作りを目指します。2 年次以降は「大学進学コース」「情報処理コース」「ビジネスコース」の 3 コースに分かれます。1 年次に担任・生徒・保護者による面談を実施し、生徒本人にあったコース選択が可能となるよう指導します。

3 つのコースに共通して重視する点は、基礎学力の向上に加えて、「財務会計」や「原価計算」

といった実学科目を大切にすることです。2 年次以降は各コース・各生徒によって学習に対する取り組み方に違いが生まれます。ここで、生徒自らが主体性を持ち、積極的に検定試験に挑戦していくという点に本校の特長の一つが見られます。年間を通じて、全国商業高等学校協会主催の検定試験をはじめとして、各種の検定試験に挑戦する雰囲気があります。検定試験合格を目指して、自ら計画を立てて、友人と教えあい、先生に積極的に質問することで、自主性・計画性・協働力が養成されるチャンスが生まれます。時には合格点に届かない悔しさをバネにすることで成長する生徒もいます。各々が目標に向かって努力を重ねることで、自信と積極性が育成されていきます。

### 3 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して

#### （1）本校の取り組み

本校ではかねてより、文化祭においてクラス単位で販売実習を実施しています。生徒同士で意見を出し合い、仕入れや損益分岐点の計算、価格設定等、商業高校での学びを深める取り組みです。普通課程の高校に比べると、主体的かつ対話を通じて学ぶチャンスは、本質的に多いと思われます。昨年度の「総合的な探究の時間」では、各都道府県の特産品や産業を班ごとに調査し、発表を行いました。当初、教員側は、発表が得意ではない生徒が多いのではないかと考えていたのですが、予想に反して、日ごろ物静かな生徒も積極的に発表や質問する様子が見られました。社会に出る前に、人前で分かりやすく伝える練習をすること、また発表内容に説得力を持たせるための事前準備・事前調査の技術は決して無駄ではありません。しかし課題もあります。発表内容を準備するにあたって、現地調査は現実的に難しく、調査内容の

多くがタブレット端末で検索した内容、および観光用の書籍を使って調べた内容になってしまいました。実際に自分の目で見て、肌で感じ、直接取材した内容を発表できれば良いのですが、そこまで時間と費用をかけることは、できませんでした。

また昨年度は、ZZ（税と税理士）クイズグランプリの参加の機会をいただきました。こちらは一部希望生徒の、少人数での参加になりますが、生徒同士で予想問題を作り、出場しない生徒も一緒になって、楽しく税制度や歴史について学習することができました。参加当日も大変張り切っており、質問を通じた税理士の先生方との交流も、とても励みになった様子でした。まさに主体的・対話的で深い学びを実現させていただくことができたと思っています。

今年度は外部から講師を招き、ビジネスプランを主体的に考えるプログラムに取り組んでいます。目的としては、①現代社会に生きる当事者としての問題意識を持たせる。②課題を解決するための情報収集力を向上させる。③グループ学習を通じて他者と協働する力を養う。以上3点です。変化の激しい現代の社会の課題に対して、新たな価値の創造と、より良い社会の実現を目指して、現代社会に生きる人々のニーズに応えるビジネスプランを考える、ということを目指した日本政策金融公庫主催ビジネスグランプリに応募する予定です。こちらのプログラムは現在進行中ですが、担当教員からはすでに課題も指摘されています。それは、誰も行っていないビジネスプランを考え出すことは、現実的に大人でも難しく、生徒に主体性を持って取り組ませることは、ハードルが高いということです。ビジネスが成り立つ収益を得るための計画や仕組みを考えることは、簡単な話ではありません。生徒の興味・関心を、最大限生かせるプログラムの考案や、商業高校ならではの探究学習の構築は、まだ試行錯誤の段階であるといわざるをえません。

## （2）課題

都内の私立商業高校にとっての課題は地元企業とのタイアップについてです。東京都は世界有数のビジネス都市であり、数多くの企業があるにも関わらず、全国の商業高校・総合高校で実践され

ているような、地域の特産品を活用する商品開発や、地元企業との連携は、困難であると感じています。現状では、企業と学校との接点は、就職とインターンシップに限られておりますが、インターンシップ研修の受け入れをお願いするため、企業側の担当者と連絡を取る際に、いかにお忙しいかということ強く感じさせられます。厳しい競争社会で戦っている企業が、働き方改革にも取り組む中で、高校生のために時間を割くことは、今後ますます難しくなると思われます。産学連携とはいっても、商業高校が単独で入る余地は、無きに等しいというのが実感です。

## 4 むすび

学習指導要領に「主体的な学び」が示されたことで主体的学びブームとなっています。進路を控えた3年生との対話では、課題研究の授業の中で、難しいテーマについて調べて発表した経験が自信につながっていることが分かりました。その表情から主体的な学びの教育的効果が見られます。しかし、生徒の中には、主体性を表現することが苦手な生徒もいます。勤勉誠実に学業に励んでいても、観点別評価においては、主体性を表現することを苦手とする生徒に、高い評価をつけることはできません。

「十七条の憲法」が示されて以来、日本は「和をもって貴しとなす」の価値観が根付いています。村落共同体を維持するうえで必要だったのでしょう。和をもって国民が一丸となることと、出る杭は打たれるということは表裏一体です。個々の企業の中には出る杭を歓迎する企業も増えているようですが、日本社会全体では出る杭は打たれ、空気を読むことを強要される場面は根強いのではないのでしょうか。主体性ブームの根底にも、このような日本の風潮を感じます。主体性を発揮することが得意な生徒と不得意な生徒、どちらにも社会で活躍できる場はあるはずです。日本の産業界活性化のためにも生徒の個性や多様性が花開くよう、私たち教員こそ主体的に考察する必要があるように感じています。



## 国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成 を目指した主体的・対話的で深い学びの実践

東京都立両国高等学校附属中学校統括校長 金田 裕治

### 1 はじめに

東京都立両国高等学校附属中学校は、世界的視野をもって国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成を目標にしています。英語の4技能の向上を図るなど国際社会で活躍できるよう英語による実践的コミュニケーションの育成を図っています。

また、生徒の興味・関心に応じて主体的に研究する「探究活動」などの取組によって、高い「志」を実現し、意欲をもって行動できるリーダーを育てています。

### 2 学校の概要

本校は、明治34(1901)年に東京府立第三中学校として現在の中央区築地に開校以来、120年を超える歴史を誇り、自ら考え、自ら学ぶ「自律自修」を校訓とする伝統校です。この歴史のある本校は、明治、大正、昭和、平成と時代が移る中、創立から100年以上が経過した平成18(2006)年に附属中学校を開校し、中高一貫教育校として新たな道を歩み始めています。

両国は、伝統を受け継ぎながらも、質の高い授業を実現するとともに、キャリア教育である「志学(こころざしがく)」や、生徒の興味・関心に応じて主体的に研究する「探究活動」などの取組によって、高い「志」を実現する学校、「リーダー」を育成する学校を目指して取り組んでいます。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取組

本校の基本は授業です。基礎をしっかりと固めたら、課題の探究や高いレベルの内容へと発展さ

せています。

また、国際社会で活躍するための素地を育てることを目的に国際理解教育を推進しています。国際交流担当や各学年担当が連携しながら、海外の姉妹校交流や海外語学研修に取り組んでいます。さらに、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」では、生徒の研究活動や探究活動が充実するよう研究部を中心に外部機関と連携し、専門家から指導・助言を受けられるようにしています。このように、それぞれの担当分掌が中心となりながら組織的に中高一貫教育6年間の主体的・対話的で深い学びを目指して取り組んでいます。

#### (2) 特色ある教育活動の取組

##### 【理科・数学教育の充実】

数学教育では、答えに至る過程を重視した授業を行い、数式を羅列するだけでなく、論理的に表現することを重視した指導を行っています。理科教育では、実験・観察を多く取り入れ、知識のみに偏ることなく、科学的な考察力・表現力を高める授業を実施しています。

また、グループでの話し合いや発表活動も重視し、コミュニケーション能力の向上にも力を入れ、生き



グループでの話し合いや発表活動

ていくために必要な総合力を身に付けさせることを目標としています。

### 【志学】

中学校で実施しているキャリア教育活動を総称して「志学（こころざしがく）」と呼んでいます。この名称は本校の校歌の一節から着想を得ており、“学問への情熱と社会貢献のための志”の精神を将来のキャリア選択における軸に据えてほしいという思いが込められています。「総合的な学習の時間」や特別活動など様々な教育活動を通して育てていきます。

### 【言語能力の育成】

すべての教科でグループ活動やスピーチ、プレゼンテーションなどを用いて、対話的な学びを通して言語能力を育成しています。ここではディベートやパネルディスカッションなどを通して相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めていきます。

### 【世界を見据えた国際理解教育】

中学1年生から ALL ENGLISH で英語の授業を行い、英語によるコミュニケーションを大切にしています。日本人と外国人講師（ALT・JET）による協働授業が行われるとともに、ALT・JET は常駐しているので、いつでも生の英語に触れる機会があります。国際人として自他の伝統・文化を尊重し、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。



海外語学研修（アメリカ・ユタ州）

中学3年生の夏季休業中にアメリカ合衆国ユタ州で9泊10日の海外語学研修があります。1人一家庭を目指したホームステイ、現地の大学と連携した英語学習、現地中学生との交流、アクティビティなどを通じて、アメリカの自然・環境・文化・教育などを肌で感じます。

海外の学校との交流を積極的に推進する学校として、東京都教育委員会から「海外学校間交流推進校」の指定を受けました。令和3年度に、カンボジアのバイヨン中高等学校と姉妹校締結を結び、定期的に姉妹校交流を行っています。中学校では主にオンラインでの交流、高校では12月末に姉妹校での文化交流を含むスタディツアー（私の未来を探す旅）を企画・実施しています。現地で国際支援を行っている日本の方々を訪問したり、海外の同世代と接したりすることで異なる文化や考え方、キャリアに触れ、ダイバーシティ（多様性）を尊重できる経験をします。



カンボジアのバイヨン中高等学校  
スタディツアー「私の未来を探す旅」

## 4 今後の課題

令和3年度入試で高校からの募集が停止となり、附属中学校からの入学のみとなりました。6年間のより充実した教育活動を実現するため、効果的な指導計画や指導内容・方法を検討し、実践することが求められています。学年、教科、分掌が一体となって、教育課程の見直しや検討を推進してまいります。



## インプットとアウトプットの学びで、 主体的・対話的な学びに導く

学校法人小山学園

専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井 雅哲

### 1 はじめに

この機会に、我々が取り組んできた職業教育手法に関して、その概要を紹介させていただきます。

### 2 学校の概要

本校は建築・IT・バイオ環境分野に 11 学科を擁する工業専門課程の専門学校です。母体である学校法人小山学園は本校のほか、東京工科自動車大学校中野校・世田谷校・品川校と自動車分野の 3 校も運営しております。

学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受け止め、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、54年にわたり職業教育に邁進しています。

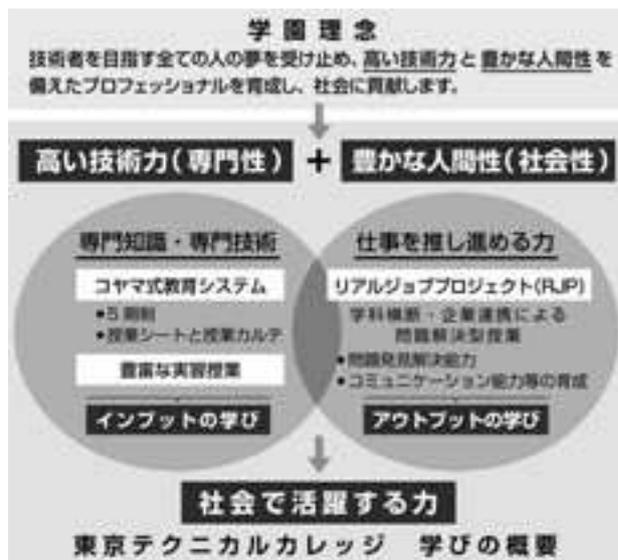
### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取組み

我々は、次世代を担う学生たちが社会で自分らしく活躍するために、学園理念に掲げる「高い技術力」と「豊かな人間性」を身につけることが重要だと考えています。そして、高い技術力は本学園独自のコヤマ式教育システムや豊富な実習といった「インプットの学び」とおして、また「豊かな人間性」はリアルジョブプロジェクト (RJP) と呼ぶ課題解決型授業の「アウトプットの学び」とおして修得できるよう学びを整えています。

#### (2) インプットの学び

2000 年から学園をあげて履修方法の改革に取り組んできました。その前年には 50 コマにわたる授業を参観・評価する取り組みを行いました。ここで大きな問題が発生しました。「この先生の



話、わかりやすいね」「この教材、よくできているね」と教員や教材の評価はできるものの、授業が学生にどれだけ理解されたのか、授業そのものの評価ができないのです。それはなぜか。それは授業の目標が明確でなかったからです。目標が明確でなければ、評価ができないことに気づいたわけです。

それからすべての授業に 10 個の授業目標を明記した「授業シート」を作成し、授業開始時にそれを学生に周知し、授業の終わりに 10 個の設問による小テスト「授業カルテ」を実施することで、90 分ごとに学生の理解度を測る授業を評価するようにしました。また、授業カルテで取りこぼした設問があれば「コマ補習」の中で、学生が自主的に、時に教員が中心になってフォローを実施します。また、「授業カルテ」の誤答箇所はデータベースに記録され、誰がどこでつまづいているか、極端に正答率の低い設問がないか等、教員側も授業改善に活用しています。

そして、ここで重要なのは、学生は自分がわからないところが明確になれば、自主的に学習をはじめるといった点です。補習時間においては、教員がいなくても、わからないことを持ち寄ってグループ学習をはじめるといったクラスも発生しています。

また、カリキュラムの半分以上を占める実習授業も大きな特徴です。時にはバグがあってプログラムが動かない事態も発生しますが、こうした失敗も含め、知識・技術が深く定着していきます。

### (3) アウトプットの学び

しかし、実際の仕事は専門知識・技術だけではできません。仕事はアウトプットの連続であり、何を知っているかではなく、身につけた専門知識・技術で何ができるか、何が解決できるか、それらを活用することが問われてきます。

こうしたことを鑑み、2014年度からリアルジョブプロジェクト(RJP)という問題解決型授業に取



▲学生がつくった学校のカフェ「テラカフェ」

り組んでいます。初年度には全学生に対し「身につけた専門知識と技術を活用して、学校にカフェをつくり運営しよう」という課題をだしました。

建築科の学生がお店をデザイン、インテリア科が家具のデザインと製作を担当、バイオテクノロジー科の学生が企業連携でオリジナルブレンドコーヒーをつくり、その出がらを環境テクノロジー科が活性炭にリサイクル。レジシステムは情報処理科、ロゴやパッケージデザイン・ホームページはWeb動画クリエイター科が作成しました。

そして、現在では地域のイベントへの協力、こども理科教室の開催、学内緑化やIoTデバイスの開発等多様なことがらに仲間と協働しながら取り組んでいます。また、学内廊下のリフォームの出



▲リアルジョブプロジェクト(RJP)授業風景

来栄えの良さを企業から評価され、学生マンションの改修の仕事を受注するまでに至っています。

現在の日本では、インプットの学びに偏重し、アウトプットの学びが極端に少ない様に感じます。学生は身につけた専門知識・技術を活用してみることで自らの成長を自覚するとともに、自分に不足している点などの課題も自覚します。こうした自覚は次の学習に向けての意欲を高めてくれます。

アウトプットの学びも、インプットと同様に重要だと考え、学びの一翼に位置づけています。

### (4) 主体的・対話的な学びに必要なもの

以上から、主体的・対話的な学びに向かうために、インプットとアウトプットの学びを繰り返し、

- ①専門知識・技術をしっかり身につけること
- ②その過程で、自分は何が理解できていないのか、身につけていないのか、自覚を促すこと
- ③専門知識・技術を活用してみることに
- ④その過程で、自らの成長と課題への自覚を促すこと、が重要だと考えています。

## 4 今後の課題

2000年から履修方法の改革に取り組んできましたが、まだ不足の点は多々あります。例えば、アウトプットの学びの目標設定と評価方法には、現在「ルーブリック評価」を活用しているものの、非認知能力を開発する精度に至っていません。

我々の仕事は、学習の仕組みづくりではなく、学生を成長させることです。仕組みづくりが目的でないことを忘れず、これからも「学校とは、学生の能力形成を内外に自力で説明・保証できる法人組織である」ことに徹していく所存・覚悟です。



## 都立産業技術高専品川キャンパスにおける取組

東京都立産業技術高等専門学校  
品川キャンパス教務主事 松澤 和夫

### 1 はじめに

高等専門学校は一条校のひとつであり、中学卒業後の5年間一貫教育により実践的・創造的技術者を育成することを目的とした高等教育機関である。学んだことを応用する能力を身につけるために、理論だけではなく実験・実習に重点を置いており、最終年次での卒業研究を通して、創造性をもった技術者の育成を目指している。

高等専門学校は、高等学校学習指導要領に直接縛られることはないものの、1～3年生が高等学校と同年齢であることもあり「主体的・対話的で深い学び」の実現は共通の課題ととらえている。「人づくり」を最優先として、「社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくこと」を具現化するために推進している取り組みを紹介する。

### 2 学校の概要

全国にある高等専門学校57校のうち51校は国立であるが、東京には国立、都立、私立それぞれ1校ずつある。東京都立産業技術高等専門学校(以下、都立産技高専)は、東京都公立大学法人が設置する公立高専で、東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成している。前身校である都立工業高専(現:品川キャンパス)と都立航空工業高専(現:荒川キャンパス)が統合・再編されて2006年に開校した。

本科の教育課程の年限は5年とし、1年次は、ものづくり工学の基礎全般を修得するために共通教育コースを履修し、2年次より8つの各コースを選択できる制度となっている。品川キャンパスに機械システム、AIスマート、電気電子、情報

システムの4工学コースが、荒川キャンパスに情報通信、ロボット、航空宇宙、医療福祉の4工学コースがある。

また、本科5年間の教育を終えた後、さらに2年間の高度な専門知識及び技術を学ぶことのできる専攻科がある。専攻科は高専本科とカリキュラムが連続しており、1学年32人の少人数教育によって、総合的実践的技術者の育成を行っている。専攻科修了生は学士の学位を得てエンジニアとして就職するか半数以上は国公立の大学院へ進学している。

### 3 主体的・対話的で深い学びを目指して

#### (1) 学校全体の取組

主体的・対話的で深い学びを目指し、学校全体で近年力を入れて取り組んでいる教育的手法がエンジニアリングデザインである。エンジニアリングデザインは次の3つの能力の育成を目指すアクティブラーニングのひとつである。

○デザイン力:種々の技術や情報を利用して、社会の要求を解決できる能力

○プロジェクト遂行力:与えられた制約下において計画的に仕事を進めてまとめる能力

○チーム力:チームで仕事をするための能力

また、主体的・対話的で深い学びを具現化する方法として国際化事業にも力を入れている。その取り組みのひとつとして、グローバル・コミュニケーション・プログラムがある。東京都公立大学法人の2大学1高専の学生がチームを組み、海外の同年代学生や国内外の企業等の協力を得て、グローバルビジネスに関する課題に取り組む。日本と海外でフィールドワーク等の調査研究を行うこ

とで、実践的な課題解決力（人間力）を身に付けるとともに、英語を含むコミュニケーション能力の向上を図っている。

## （２）特色ある教育活動の取組

スマート東京（東京都 Society 5.0）を牽引する人材を育成するため、「デジタルものづくり人材」を育成する AI スマート工学コースと「先端 ICT 人材」を育成する情報システム工学コースを令和 3 年 4 月に設置した。

AI スマート工学コースは、「機械・電気電子・情報」を融合した新たな工学領域を創出し、AI を利活用した次世代 IoT システムを創出する人材を育成すること目的としている。特に、製造業において「商品企画・製造設計・工程設計・生産」の連鎖である「エンジニアリングチェーン」の高度なデジタル化・迅速化が求められており、これらに対応する新たな「デジタルものづくり人材」の育成が喫緊の課題となっている。そこで AI スマート工学コースでは、「Creative Engineering Feld」「Digital Engineering Feld」「IoT & Robotics Engineering Feld」の 3 フールドからなるスマートスタジオを構築し、学生にエンジニアリングチェーンの学修の場を提供している。

情報システム工学コースは、コンピュータサイエンスに関する基礎知識・実践力を有し、次世代 ICT を創造する人材を育成することを目的としている。特に、情報システムを支える人材として 1) ICT アーキテクト（大規模情報インフラを設計・構築・運用する人材）、2) 情報アーキテクト（データを利活用し新たなサービスを企画・設計・実装・運用する人材）、3) 情報セキュリティアーキテクト（情報インフラ・情報サービスの安全・安心を担保する人材）を育成することを目標にコース運営を行なっている。

さらに、機械システム工学コースでは機械加工実習教育への DX の導入と個別の学生の能力に対応可能な e-learning 教材の開発の取り組みを行っている。独自開発の e-learning 教材は実習前のイメージトレーニングを可能にし、デジタルデバイスの活用では、加工工程を示すデジタル化した

指示書はタブレット端末に入れて動画を組み込み、学生は必要に応じ作業内容を確認することで、理解の促進や補完を可能にした。また、教員による作業指導では、マルチアングルカメラと大型モニターを取り付けた工作機械を用い、手元操作や加工の様子といった作業内容の見える化を行うことで、安全かつ一度に多くの人が正確に情報共有することを可能にした。これらの取り組みを通じ技術・技能修得のための新しい教示スタイルを確立し、学習過程が変化したことで、学習効果と作業効率の向上が確認された。また受講生を対象としたアンケート結果から、実習作業を通じて驚きや発見、興味といった学習への探求心が生まれたことも確認することができた。



実験実習の様子

## 4 今後の課題

本校のスローガンである「未来をつくる人をつくる」は、一人ひとりの可能性を最大限に活かして将来技術者として世界で活躍することを期待し、教育活動に取り組む気持ちが込められている。科学技術は日進月歩であり、本校を卒業したエンジニアは常に学び続ける必要があるため、主体的かつ対話的に学び続けていく姿勢は重要である。その素養を育成する本校の個々の取り組みについて、常に検証・改善し、さらに効果的な取り組みを行う必要がある。

## 東京の産業界



### 中学校と専門高校との懸け橋

カインズ株式会社代表取締役社長 金子 高一郎

#### 1 カインズグループの由縁

1927年、初代金子金太郎が木箱・空き樽販売を東京府寺島町（現在の東京都墨田区曳舟）に個人創業。その後、運送業もスタートし起業家精神を発揮しました。二代目の金子昌男が1971年に株式会社金子製箱所に法人改組し、現在の東京都葛飾区高砂に移転、運搬具の製作販売、物流業務に本格進出しました。1997年に物流代行業務の株式会社カネコを設立、1981年にはカーステレオ取付キットの設計開発に進出し株式会社カナック企画を設立、家業から事業へ基盤を確立しました。1989年に現社名のカインズ株式会社に商号変更を実施しました。

四代目、現社長の金子高一郎が2009年に30代でカインズ株式会社の社長就任。2012年にワイヤーハーネス事業に進出、2015年に鉄道グッズ事業の創出、2016年には長崎県五島市に本社を置く化粧品事業会社、株式会社ドゥサンキルを設立。2020年には岐阜県高山市に所在する会社からプリント基板実装、接続ケーブル事業を譲受し株式会社エレクスを設立、2021年にはフランスのフレグランス、ルクヴォンメゾンドパルファムの日本総代理店として稼働するなど、経営基盤の強化、事業の多角化に取り組んできました。

2014年にはCSR報告書を作成するなど先取り経営を実践、更に女性の子育て支援やボランティア休暇の制定など社員の働き方改革にもいち早く取り組みました。2021年にはカインズ株式会社が葛飾税務署より優良申告法人として五回目の継続表敬され、2022年には「勇気ある経営大賞」の奨励賞を、株式会社エレクスが「岐阜労働局長表彰」の奨励賞を受賞しています。カインズグループのものづくりへの拘りを通じて、地元葛飾区の経済を牽引するとともに、縮小均衡に陥りがちな地方経済にもその影響力を及ぼしています。

#### 2 生徒さんたちとの出会い

本会誌59号に掲載の翼学院グループの芦澤先生が、ある日私にこのようなことをおっしゃいました。「金子さん、この間、生徒に“将来どういう仕事に就きたいの”と聞いたんです。多くの生徒は“学校の先生”など職種でいうのですが、ある生徒は“カインズで働きたい”と言ったんです。今まで具体的な会社名で勤めたいと言われたことがなかったので驚きましたよ！」と。聞けば中学校の職場体験で弊社にいらした子で、その時の体験が忘れられなかったようです。また、当時の都立工業高校からインターンシップ生を受け入れた時も、その生徒は“カインズ株式会社”を指名してくれました。やはり中学校の職場体験を通じて弊社のことを知っていただき、将来カインズで勤めたいと語っていました。

カインズグループは、2008年からいち早く葛飾区「仕事体験授業」の区内中学校生徒の受入を始めています。毎年2～3校、1校につき2～3名が3～4日間で車載関連商品の製作の流れを実習、車輛調査から商品の生産、出荷までを体験しています。弊社で所有している高級車から大衆車まであらゆる車種を用意し、実際に車輛を分解させ、三次元CADで簡単な図面を書かせるなど実務と変わらぬ内容です。職種上、体験されるのは男子生徒が多いのですが、実際には女性も現場で働いておりますので、そこは分け隔てせず受け入れています。

高校生も様々な形でインターンシップとして受け入れており、最近では商業高校から経理事務として働いています。ある時、高校生を10名ほど受け入れました。その生徒たちには、オリジナルUSBメモリの企画、制作、販売まで行ってもらう、結果、ピアノ型USBを商品として作成し、弊社のホームページ上で販売することになりました。

しかし、なかなか売れないまま生徒は卒業。さすがに企業として回収しなければいけないので弊社で営業をかけたところ、なんと現在でも販売が続いているロングセラー商品になっています。

中高生問わず、職場体験、インターンシップの受入初日はいつもそうですが、覇気がなくやる気があるのかわかりません。しかし、仕事が進むにつれ目の色が変わりはじめ、終わる頃には職場体験できて本当によかったと言う声を聞きます。生徒たちに自分自身の将来に夢を持たせている活動をしている、特にものづくりと仕事に対して私たちの将来を受け継いでいてもらえるような子供たちを育成するきっかけを作っているということは、企業側にとっても重要な使命であり、社会に対する一つの貢献ではないでしょうか。今後ご希望の学校がございましたら積極的にインターンシップ、産学連携の受け入れをしてみたいです。

### 3 中学校と専門高校との懸け橋

2023年、ある区内中学校にて東京商工会議所葛飾支部主催で職場体験教室が開催されました。“ものづくり”を中心とした様々な企業が学校へ出向き、各々の企業が製造している商品を用いて現場で実際に触りながら授業が行われました。生徒たちは、初めて接するであろう“仕事”に対して目を輝かせながら体験をしていました。自分たちが住んでいる地域でどのような企業があるのか、どのようなものが作られているのか、それを知ることにより地元での雇用創出にとっても良い機会であったと感じます。また、様々な“仕事”を若いうちから知り、自分が将来何をやりたいのかをいち早く見つけることで、専門高校に進むのか、大学へ進むのか自分の進路を早くから決めることができるはずです。さらに多くの中学校が我々企業と直接触れ合える機会を設けると同時に専門高校とも連携することで、中学生たちにとっても将来の進路について考える場が身近に与えられるものと感じます。今の時代、学校側も“来るのを待つ”ような受動的な働きかけではなく、“こちらから向かう”能動的な働きかけが必要なのではないでしょうか。

### 4 青少年たちへ



大用現前は我が社の社是です。社是とはカインズグループの活動の根底に流れる普遍的な思想です。

優れた能力を持っているだけでは何にもなりません。その持っている能力を大いに発揮し、活発に行動していれば常識的なルールを超え、臨機応変な対処ができるようになります。つまり普段から積極的に動いて失敗を多く経験している人こそイザというときに自由闊達な行動力が身につくものです。但し、なりふり構わずいきなり行動を起こしてもうまくいくとは限りません。思っていることは実際に行動で示し、能力を何に気兼ねすることもなく存分に発揮することが大事なのです。

企業は人でできています。人の集合体です。分子が一つでも壊れると結合体が少しずつ形を変え、やがて壊れ始めます。逆に分子同士が強固に合致した時、ちょっとやそっとでは壊れない結合体を生むこともできます。もし一人一人がバラバラな考え方で行動したらどうなるでしょうか。それぞれのベクトルがそろわなければ力は分散し、全体としての力にはなりません。全員の力が同じベクトルに向かった時、何倍もの力となり成果を生み出すことができるのです。

弊社では中卒者から院卒者まで学歴には関係なく状況に応じて幅広く受け入れております。若手リーダーたちの活動のかいもあり、皆が楽しみながら自分の力を存分に発揮できる環境を整えているつもりです。また海外へ出張をする国民の一人ひとりが自国を愛しているのがよくわかります。私もそんな自国を愛するものとして、現在でも一部商品を除き一貫して日本国内で生産、メイドインジャパンに拘っています。ものづくりが好きな人の集まりとして今後も企業活動を通じて国の発展や社会に貢献できるよう努力してまいります。



## 人生をより豊かにするために

日本自動ドア株式会社代表取締役社長 吉原 二郎

### 1 会社の概要

当社は昭和41年に創業し、今年で57年目になります。昭和58年に当時の最新式マイクロコンピュータ制御式のユニティ3型自動ドアエンジン装置を開発。その後も業界トップクラスの開発技術力を誇り、国内はもとより海外へも輸出を進めました。

自動ドアエンジン装置の設計・開発・製造・販売・施工・保守をワンストップで行い、全国（北海道から沖縄まで）26拠点、2工場で展開。常にお客様に寄り添い要望に応えられる体制を構築。新規事業として林業・デジタルサイネージ等の新規事業も展開をしています。



### 2 経営理念

私たちは、自動ドアを通じた5つの価値を創造していくことを、会社のミッションとして掲げています。

1つ目は手からの接触感染を防ぐための「感染症予防」という、人命に大きく関わる医療分野での社会的役割を果たすことです。2つ目は街を「バリアフリー化」し、車椅子やベビーカーユーザー

の生活を支援するという使命に取り組んでいます。3つ目は、閉め忘れや開けっ放しのドアからのエアコンのエネルギー流出を防いで、無駄な消費電力を抑え、持続可能な省エネ社会を実現するという「環境配慮経営」です。4つ目には建物への入退出管理を通じて侵入者を未然に防ぐ「防犯対策」、さらに5つ目として雪や台風、雨や風の侵入といった環境災害・自然災害から建物内の居住者を守るという「災害対策」に取り組んでいます。

いずれも社会生活を良くしていくことにつながるミッションであり、私たち日本自動ドアが仕事を通じて社会に提供する価値だと考えています。

社会に対して新たな自動ドアの付加価値を生み出していくには、技術を磨くだけでなく、人間力も高めていくことが必要です。世の中に対する興味関心や、他者とのコミュニケーション、自らを高めていく向上心が、観察眼を養い、よいアイデアを生んだり、問題点に気づききっかけとなります。当社では、社員の技術的・人間的なスキルアップを目指し、“JAD Online Academy”という社内大学を創設し、誰もが継続的に学び続けられる環境づくりに取り組んでいます。

仕事を通じて、誰かの役に立ちたい、自らを高めたい、社会づくりに貢献したい。そのような想いを持つみなさんと共に働きたいと考えています。

### 3 特色

当社の強みは、研究開発、製造、企画販売・施工、保守メンテナンスまでの一連のサービスを、すべ

て自社にてワンストップで行っていることです。このことで、お客様の困った事や要望などの情報をスピード感を持って収集し製品開発に取り入れることができ、また技術や知識等の情報を全社員で共有し、常に最新情報で対応をしております。

## 4 人材育成

### (1) 研修制度

当社では、毎年新入社員の教育プログラムとして、自動ドア技術学院（埼玉県飯能市）で定期的に研修を行なっています。社会人としての一般教育、および自動ドアに関する知識・技術を身につけるためのプログラムが用意されています。自然豊かな環境で、同期の仲間と共に集中して学ぶことができ、予備知識がなくても当社の一員としてスムーズに業務に入れるよう、しっかりサポートします。社内の専門家が指導することで、新入社員が迅速に自動ドア技術に関する専門的な知識と技術を身につけることができます。

### (2) OJT

また研修制度の他に、経験豊富な職場の上司や先輩が、実際の業務を題材に若手社員や後輩に知識や技術を伝えることで、研修やマニュアルだけでは得られない知識・スキルを身につけることができます。OJTを通じて社員が実務スキルを効果的に向上させるだけでなく、柔軟性、チームワーク、問題解決能力などの人間力も高めることができます。社員一人ひとりが自己成長を実感し、組織全体のパフォーマンス向上に寄与しています。

### (3) 教育制度

社会人になっても学び続けることができる社内大学“JAD Online Academy”の講座を開講しています。JAD Online Academyでは、ビジネスマナーや一般教養、専門スキルについて学ぶことができ、各プログラムに社内外の専門講師がおり、初歩的な知識から応用まで幅広く学ぶことができます。あらゆるジャンルでの学びを経て、実務の知識・技術を身につけるだけでなく、人間力のレベルアップを図ります。

社内外の専門講師による研修を通じて、ビジネスマナーや一般教養に関する知識を習得できます。コミュニケーションスキル、エチケットなど、ビジネス上で必要な基本的なスキルが向上します。また、初歩的な知識から応用まで幅広く学ぶことで、専門スキルを段階的に習得し、業務に応用できるレベルに引き上げることができます。

## 5 学生へのメッセージ

これまでの私たちの人生は、学校で勉強した後、就職し、定年になったら退職し、第二の人生を送るというスタイルが一般的でした。しかし現在は、情報技術の進展、働き方改革などにより、社会に出た後も、転職や起業で新たな仕事を始める、子育てをしながら働く、定年後も新たな仕事に挑戦するなど、性別も年齢も関係なく、多岐に渡るスタイルがあります。移り変わりの激しい時代、考え方や価値観がますます多様化する中で、どのように生きていくかもまた人それぞれで、選択肢が広がっているのです。

これからの時代は、変化に応じた生き方や働き方がいっそう求められることでしょう。学校を卒業した後も、知識や学びを取り入れスキルを身につけることは、生き方や働き方の選択肢を増やし、人生をより豊かにすることに繋がります。経験は何一つ無駄になりません。これから社会に出る皆さんには、向上心を忘れずに、日々勉強というように心構えで人生を豊かにして頂ければと思います。



## 情報スクエア



### 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校の取組(第3年次・最終年度)

「八丈やろごんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～

東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一

#### 1 はじめに

東京都立八丈高等学校は、八丈島という文化と歴史のある地に設置された創立 75 年を迎える伝統ある都立高校である。本校の教育目標は、全日制課程「誠実・慈愛・自立」、定時制課程「自主・健康・民主」である。校長の経営方針、教育方針のもと、「八丈高校魅力化プロジェクト ONLY ONE すべては生徒のために」を合い言葉に「教育内容の充実と進路実績の向上」を掲げ、学校が一丸となって取り組んでいる。

八高は、「主体的、対話的で深い学び」として、「分かりやすい授業」に加えて、「生徒が自ら学びたくなる授業」を目指し、eポートフォリオシステムや AI 教材など IT を活用して、全ての生徒の学力向上の取組を進めるとともに、生徒の進路希望の高いレベルでの実現のために、地域と密接に連携して、本校の教育内容の魅力化を図っている。

そして、Hawaii 研修での Hawaii 大学や Waiakea 高校との生徒交流、都立大学や都立産業技術大学院大学との高大連携、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校(令和 4 年度まで)による地域協働・探究学習「八丈学」のほか、専門家を招聘した地域連携授業等で多彩な学びを重ねながら、将来の国際社会を担う人材として必要な学力、教養、勤労観・職業観、道徳心、社会性、リーダー性、コミュニケーション能力など、生徒の「柔軟な真の力」を総合的に高めている。生徒には、思い出という宝物をたくさんつくって、全ての生徒に卒業してもらいたい。

八高の様々な取組は、本校ホームページや X(旧 Twitter) において積極的に紹介している。

#### 2 研究の背景とねらい

八丈島には、豊かな自然、歴史、伝統文化があり、観光業をはじめとする産業が盛んである。本校は八丈島で唯一の高等学校であり、島内中学生の大半の生徒の進学先である。地域との連携や協働により、本校が中心となって、八丈町全体で子供たちを育てる環境がある。しかし、近年では人口流出が進み、30 年後には人口が半減するという推計もある。八丈島の発展は、本校の活性化と表裏一体の関係にある。

そこで、八丈島の自然、歴史、伝統文化、産業等についての探究的な学びを行い、生徒が主体となって八丈島の未来のために必要な価値や課題を発見し、島内外の大人と連携・協力して解決策を考え提案し、実践する人材の育成が極めて重要である。なお、この研究開発のプロジェクト名を「八丈やろごんプロジェクト」とした。「やろごん」というのは、八丈言葉で「やろう」を意味している。

#### 3 研究の目標

本研究の目標は、小中学校からの系統的で、教科横断的な探究学習により「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」のもと、次のような人物を育成することである。

**〔本校のグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像〕**

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

#### 4 令和4年度の研究内容

研究3年目・最終年度として、第1学年に設置した「八丈学Ⅰ」では、八丈島の自然、歴史、伝統文化、産業に関する地域の方からのレクチャーやフィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見いださせるために、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行った。

主体的に八丈島の地域課題に気付かせるため、フェノロジーカレンダーを作成した。生徒による学習成果の発表は、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、オンラインによる都立立川高等学校との交流や、2学年生徒を含めた多摩島しょサミットでのポスター発表を行った。

年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気付く力を育成した。

第2学年に設置した「八丈学Ⅱ」では、地域の実態を踏まえた、より現実的な探究学習を行い、グループで設定したテーマによる解決策の提案を行う島民会議を実施した。1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行った。他県のまちづくりシンポジウム等を参考に、地域と学校が一体となって八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催した。そして島民会議に参加した島民からの意見で出された課題を基に個別研究の実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証した。地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考えることで課題発見・解決能力や将来設計能力を育成した。

第3学年に設置し令和4年度に開講した「八丈学Ⅲ」は、これまでの探究の学びを土台に、個人研究として探究学習を行い、各自が設定したテーマによる研究を深め、保護者の方を含め地域の方々へポスター発表した。生徒の進路学習につなげ、進路希望の高いレベルでの実現に寄与した。

#### 5 令和5年度以降の研究計画

第1学年は「八丈学Ⅰ」を実施する。探究学習をより充実化させるとともに、年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に主体的に気付

くことに更に力点を置いて育成する。

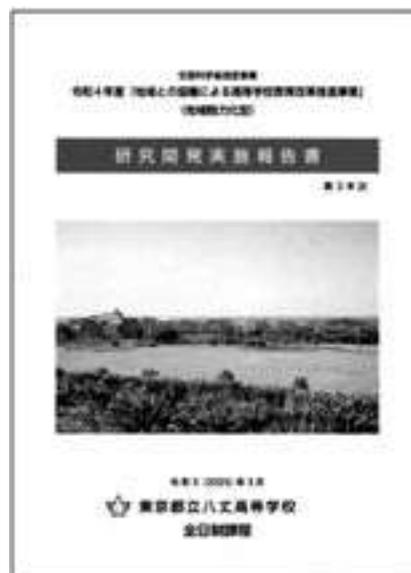
第2学年は「八丈学Ⅱ」を実施する。地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習をグループにより行い、専門家の指導助言を仰ぎながら解決策の提案を行う「島民会議」を実施する。そして島民会議で出された課題を基に個別研究で実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証していく。生徒が地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考え、深めることで課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

第3学年は「八丈学Ⅲ」を実施する。個人研究により、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けさせ、持続可能で実現可能な行動計画を立て実践する。様々なコンテスト等に応募し、具体的な行動計画を発信する。年間を通して課題を解決するための実践力を養い、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表することにより、探究学習の成果を広く伝える力を育成する。

これら3年間の地域と協働した探究学習の推進により、本校の教育目標等に基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けさせる。

#### 6 むすびに

本事業採択3年目の研究はコロナ禍を経て、文部科学省、東京都教育委員会、八丈町や町教育委員会、島内外の小・中学校、高校、大学、企業など、コンソーシアムの方々に御理解、御協力いただく中、生徒も担当教員も懸命に取り組んできた。これまで培ったことを土台に、本事業指定校の終了後も八丈島と本校の発展のため、取組を継続していく。





## 第 22 回全国中学生創造ものづくり教育フェア

全日本中学校技術・家庭科研究会 フェア事務局長

世田谷区立玉川中学校長 奥平 雄二

- 1 **主催** 全日本中学校技術・家庭科研究会  
**共催** 文部科学省 他
- 2 **後援** 厚生労働省 林野庁 特許庁 他
- 3 **日時** 令和 5 年 1 月 28 日 (土)・29 日 (日)
- 4 **場所** 中央区立総合スポーツセンター 他
- 5 **対象者** 全国の中学生、技術・家庭科担当教諭、ものづくり教育に係る関係者

### 6 内容

- (1) 生徒作品コンクール
- (2) 木工チャレンジコンテスト
- (3) 「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクール
- (4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール
- (5) 創造アイデアロボットコンテスト
- (6) プログラミングコンテスト (新設開設)

### 7 開催に向けて

この大会の「開催の趣旨」は 3 点あります。

①中学生が知識や道具を駆使していろいろな条件のもとに最適解を見つけ進んで生活を工夫し創造することを学んだ技術・家庭科の実践発表の場とする。

②未来への飛躍を実現する人材を養成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作意欲の向上を図る。

③優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を広く国民に知らせるとともに、全国の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

上記の「開催の趣旨」を踏まえて、全国各地で行われる厳しい予選大会を勝ち抜いた競技者が、東京で行われる全国大会に歩みを進め、そこに

集った競技者たちが多様な体験と切磋琢磨する機会をもつことで、未来への飛躍を実現する人材の養成を目指す大会です。

令和 4 年度の大会では、各部門責任者と協議を重ねた結果、令和 3 年度の大会に倣い、感染症対策を取り入れたルールを基に、オンラインを中心とした開催方法を採用しました。

開催期間は新型コロナウイルス第 8 波の時期と重なりましたが、オンラインを中心とした開催方法が功を奏して、無事に開催することができました。偏に関係者皆様のご尽力のお陰です。

### 8 開催結果

#### 【生徒作品コンクール部門】

教科の授業中に創造製作した作品を「I 部門」、技術・家庭科で学習した知識や技術を生かして製作した創造作品を「II 部門」としてコンクールを行いました。



#### 【木工チャレンジコンテスト部門】

ブロック大会より推薦、全国一次審査により選出された 11 名の選手が、与えられた所定の材料を使用し、課題に従って 4 時間以内に作品を製作し、作品のプレゼンテーションを 2 分以内で行う形式でコンテストを行いました。

#### 【「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクール部門】

全国 4 ブロックから選抜された 9 名の選手が事前に製作したアイデアバックをオンラインにてプレゼンテーションを行う形式でコンクールを行いました。

### 【「あなたのためのおべんとう」コンクール部門】

各地区大会で選ばれた12名が、50分間の一人調理で「魚を使った調理」を献立の中心とするお弁当作りを行い、レポートを作成し、その内容を90秒のプレゼンテーションをする形式で競技を行いました。

### 【創造アイデアロボットコンテスト部門】

基礎部門は、「Ace in the hole 2」と銘打って、競技時間90秒で自陣コートにまかれたカラスティック6本を自陣の中央スポットにシュートする競技を行いました。

計測制御部門では、「ドキドキ！ロボット収穫祭」と銘打って、作物に見立てた3つのカラーボールを収穫するロボットを作り、その収穫したアイテムの個数を競う形式で行いました。ロボット技術やICTの活用が労力解消の解決策になる「スマート農業」をイメージさせる競技としました。

応用・発展部門では、「ロボットレスキュー隊出動！」と銘打って、有線操作によるメインロボットとプログラミングによる自律制御による運搬ロボットを組み合わせ、「自律運搬ロボと協働で救助せよ！」をテーマとした対戦形式で行いました。災害時に人が立ち入れない現場でも救助活動が行えるレスキューロボットをイメージさせる競技としました。

### 【プログラミングコンテスト部門（新規開設）】

平成29年告示の学習指導要領に示された「生活や社会における問題の計測・制御プログラミングによる解決」と「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツによる問題解決」に資する競技部門として、今大会から新規開設しました。全日本中学校技術・家庭科研究会と毎日パソコン入力コンクール事務局が共同開発した、授業で利用できるプログラミングの学習教材「生活や社会の問題を解決するチャットロボットの制作」を用いた競技を行いました。予選大会を経た上位通過者12名が全国大会に挑みました。全国大会の競技内容は、「地域の特性についてのプログラミング」を課題として、90分間で実際のチャットロ

ボットを制作する難易度の高い競技です。制作後には、どのような視点でチャットロボットを制作したのか、3分間のプレゼンテーションがあり、それぞれの競技者がアピールをしました。

## 9 成果と課題

今大会も、参加する中学生・保護者・大会運営役員の全ての皆様を新型コロナウイルス感染症から守る配慮を最大限に行うために、「オンライン(ZOOM)」を活用した大会としましたが、【生徒作品コンクール部門】では、3年ぶりに生徒作品を東京会場（墨田区立墨田中学校）に集めて、審査委員が作品を直接見たり触れたりすることができる開催方法で行いました。秀作を見ることが出来た審査委員や大会関係者からは喜びの声があが



りました。通常開催の大切さが改めてわかる機会となりました。

そして、第23回全国中学生創造ものづくり教育フェアは、令和6年1月20日（土）・21日（日）に、中央区立総合スポーツセンター等を会場として行います。

なお、第23回大会では、「ハイブリッド方式（オンライン方式と対面方式の併用）」の開催を目指します。

引き続き、中学校技術・家庭科の振興に努めていく大会として開催してまいりますので、関係者の皆様のご支援・ご協力・ご参加をどうぞよろしくお願いいたします。



## 第 20 回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長  
大田区立大森第八中学校長 保谷 満

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学生が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、互いの創造性を伸ばす場として開催している。

- 1 **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会  
**共催** 学校法人香川学園 女子栄養大学  
公益財団法人東京都学校給食会
- 2 **後援** 東京都教育委員会  
東京都産業教育振興会  
東京都中学校長会
- 3 **日時** 令和 5 年 10 月 28 日 (土)  
令和 5 年 11 月 11 日 (土)
- 4 **場所** 板橋区立加賀中学校  
学校法人香川学園 女子栄養大学
- 5 **対象者** 東京都内中学校に通学する中学生

### 6 内容

- (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選 (基礎部門・計測制御部門・応用発展部門)
- (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
- (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
- (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
- (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
- (6) 東京都中学校ロボットコンテスト (二足歩行ロボット格闘部門)

### 7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も今回で 20

回を数えることとなった。令和 6 年で第 23 回を数える全国創造ものづくり教育フェアの東京都大会版として記念すべき 20 回目となる今大会は、ようやく新型コロナウイルスの渦から抜け出した大会となった。全国フェアではやむを得ずロボコンも数年間オンライン対決になっていたが、この大会では対面による直接対戦にこだわり続け、生徒の楽しみ合い、喜び・讃え合い、学び合いといった生の実経験をさせたいという運営側や指導の先生方の思いで乗り切ってきた。会場校の校長先生をはじめ、ご来賓の方や運営に当たってくださった先生方のご理解ご協力とご支援があり今年も実施にできたことがありがたい。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に加賀中学校会場 43 名、深沢中学校会場 16 名の体制で進められた。

### 8 開催結果

今年の会場は、昨年同様に女子栄養大学と板橋区立加賀中学校をお借りして開催。加賀中はロボコン対戦会場と木工コンテスト会場、生徒作品コンテスト展示場がとても近くて利便性が良い。今年から保護者等の見学も可能としたため、多くの保護者の方に見に来ていただいた。

#### < 関東甲信越大会に向けての予選大会 >

##### ○ 「創造アイデアロボットコンテスト」

基礎部門: 「Ace in the hole2」というタイトルで競技時間 90 秒に自陣コート内のアイテムを得点スポット 8 か所にアイテムを立てる競技である。



自陣の得点スポット全てにアイテムを立てるとパーフェクトゲームとなる。昨年より5項目ほどルールをマイナーチェンジして行われたが、26チームの生徒が参加した。

計測制御部門:「ワクワクロボット定植 ～スマート農業に挑戦」というタイトルに変更され、制限時間90秒で苗に見立てたアイテムを定められた場所に定植(ゴール)するもので、今年度も対戦形式でなく数回の試技による競技として20チームが参加した。



応用発展部門:教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作される部門で、タイトルは「もっと支援物資を運搬せよ!」である。新たな場所で災害発生し、困っている人々が待っている所に再び支援物資を届けることをイメージし有線リモコンによるメインロボットの他に動きの制限があるビックリドッキリメカを加えるなど、問題に対して今までの経験や新たなひらめきを活かして想像力を豊かに働かせる競技である。難関を突破しようと意欲に溢れた7チームが切磋琢磨した。



○「木工チャレンジコンテスト」には示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくるため4名が参加した。



○「生徒作品コンクール」は、各地区選抜の授業内・授業外部門の技術分野28品と家庭分野48品で、合計76の作品が会場である柔剣道場を華やかにした。



○「あなたのためのおべんとうコンクール」は

57名が応募し、事前のレポート審査を経て本選考は10月28日に17名で行われた。魚を主菜にしたおべんとうを90分以内でつくり、完成後にプレゼンテーションも行うコロ

ナ前の形式での競技を4年ぶりに、開催することができた。



○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では、レポートと作品提出で25作品の参加があった。



### <東京都ロボットコンテスト>

○東京都独自に実施している対戦型ロボコンで、毎年、参加チーム数も非常に多い。去年は期日を別に設けて実施したが、今回からは例年通りに戻し午前中に実施し85チームが参加した。受験を間近に控えた3年生も出場しており、その輝く表情からも、つかの間の休息、楽しみとなっていた。



## 9 成果と課題

創造ものづくりフェア in TOKYO はルール次第で実際に会場に足を運ばなくても競い合いができることが分かったが、やはり生徒の緊張感や情熱、活気など画面越しや完成しただけを採点するにはナマの臨場感が味わえない。今回は、コロナ明けということもあり、参加生徒が昨年より増加していることが何より嬉しい。参加する生徒が増えても、技量や作品完成度、参加のマナーなど質の低下にならないようにより向上させていきたい。

開催会場の板橋区立加賀中学校、女子栄養大学、東京都学校給食会にご協力を仰ぎ、多くのご来賓の皆様にも応援に駆けつけていただいた。さらには、東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会からも表彰状をいただき感謝申し上げる次第である。

# 第33回全国産業教育フェア福井大会 さんフェア福井2023

事務局

第33回全国産業教育フェア福井大会（さんフェア福井2023）は、令和5年10月28日（土）・29日（日）に開催されました。本会からは会長、事務局長、都立新宿山吹高等学校、都立農業系高等学校、日本工学院専門学校が参加しました。



- 1 期日 令和5年10月28日（土）・29日（日）
- 2 会場 福井県生活学習館、福井県産業会館、福井県中小企業産業大学校、福井県営体育館、福井県織協ビル、福井県立奥越明成高等学校

### 3 開催内容

- (1) 総合開会式・総合閉会式
- (2) 作品展示

東京都の農業系高校は写真のように合同展示をし、島しょの高校や定時制課程の紹介もしました。



展示物は代表校である農産高校が作りました。

- (3) 体験・実演コーナー
- (4) 展示販売
- (5) 作品・研究発表

情報科では、東京都立新宿山吹高等学校（情報科）の生徒が引率の先生と一緒に参加していて、丁寧に説明していました。生徒作品がたくさん展示されており、日頃の学習成果を見ることができました。



- (6) 意見・体験発表
- (7) 文部科学省事業発表会
- (8) 参加・交流イベント
- (9) ファッションショー
- (10) 看護技術発表会
- (11) 特別支援部コーナー
- (12) 記念講演
- (13) 企業・大学・専門学校等の展示

日本工学院専門学校が展示していました。



- (14) ミニツアー（高校生が案内）
- (15) 競技大会等
- ア 第22回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
- 都立園芸高校園芸科3年 沼畑 和奏さんが出場し、未来へ向かう姿を表現しました。



- イ 第31回全国高等学校ロボット競技大会
- ウ 全国高校生ビジネスアイデアコンテスト
- エ 全国高校生クッキングコンテスト
- オ 第10回全国高校生介護技術コンテスト
- (16) 第65回全国産業教育振興大会

## 第65回全国産業教育振興大会 (福井大会)

事務局



令和5年10月28日(土)15:30~17:00、第65回全国産業教育振興大会(福井大会)が福井県織協ビル10階ホールA・Bで開催されました。

この振興大会は、「全国産業教育フェア」にあわせて毎年開催されるもので、全国の産業教育振

興会等から、教育界、産業界の関係者が参加しました。本会からは西澤宏繁会長、山川樹林事務局長が参加しました。

振興大会では、教育界と産業界の強い関係の下、専門高校等の一層の充実・発展を期することとし、「大会決議」(次ページ参照)を採択しました。決議文は、文部科学省はじめ関係する省庁や、各経済団体、高等教育関係団体、全国都道府県教育委員会連合会等に「決議」として提出されました。

【決議】

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校等」）は、実践的・体験的な学習活動を通して、専門的知識、技術・技能を身に付けた人材を育成・輩出することにより、我が国の社会や経済の発展に大きな役割を担ってきた。

今日、世界は通信の高速化とともに、人工知能 AI や IoT など情報技術が急速に進展し、様々な分野への応用範囲が広がり、SNS の普及により簡単に自らが情報発信できると共に、ChatGPT などの対話型の生成 AI が身近なものとなってきた。そして、情報化、グローバル化が急速に進展する中で、産業構造も大きく変化し、職業に求められる知識、技術・技能も急速に高度化してきている。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻に象徴されるように、将来の予測が困難な時代になってきた。このような現状を踏まえ、新たな教育振興基本計画では、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という 2 つのコンセプトが掲げられた。

このように、予測困難で変化の激しい時代だからこそ、我が国が将来にわたり豊かな社会を築いていくためには、自らの将来の仕事に対し、明確な目的意識を持って専門高校等で学ぶ生徒たちの力が不可欠である。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校等の一層の充実・発展に全力を尽くし、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続的な成長・発展に欠かせない専門高校等の充実・発展に格段のご理解とご支援をお願いする。

- 一、学習指導要領の趣旨を実現するための ICT 教育環境を含めた教育施設・設備を整備するため、地方財政措置の拡充及び都道府県等における計画的整備の推進並びに私立学校に対する国庫補助の充実、特に専門学科に必要なソフトウェア、高性能なコンピュータ及び周辺装置の導入等の措置
- 一、少人数指導を可能とする専門教科担当教職員の定数等及び処遇の改善、養成・採用・研修等の充実、社会人実務経験者の積極的な任用などの教育実施体制の充実・強化及び長時間労働是正方策の推進、地域企業等との連携のためのコーディネーター等の配置
- 一、専門高校等の教育内容の充実のため、地域や企業等との連携などの特色ある教育活動や、職場体験やインターシップ等の体験活動を取り入れた、実践的能力等を身に付ける仕組みづくりの推進と支援
- 一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への雇用機会の拡大、女子採用の促進、生徒の各種発表会等での活動及びインターシップ等の体験活動を評価した採用、健全な学校教育を担保する地域の実情に応じた就職制度の適切な運用
- 一、専門高校等での学びを積極的に評価する大学等入学者選抜の実施・拡大、特に導入の進んでいない国公立大学における「専門学科・総合学科卒業生選抜」の積極的な導入並びに高等学校専攻科からの大学等への編入学の積極的受入
- 一、専門高校等の生徒（専攻科生徒を含む）の保護者の経済的負担軽減を図るため、就学支援の充実、及び教科用図書等をはじめ、専門教育を受けるためにかかる経費軽減に向けての方策実現
- 一、専門高校等についての理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援、中学校における技術・家庭の免許を持った教員の配置拡充、専門高校等と小・中学校及び大学等との連携した取組の推進とその支援

以上決議する。

令和 5 年 10 月 28 日

第 65 回全国産業教育振興大会（福井大会）

# 令和5年度葛飾区産業教育懇談会報告

事務局

## 1 日時

令和5年6月30日（金）

15時00分～17時30分 懇談会

17時30分～18時00分 名刺交換会

18時00分～19時00分 懇親会

## 2 会場

テクノプラザかつしか2階 大ホール

## 3 趣旨

葛飾区内の企業、専門高校・総合学科高校・中学校、葛飾区、教育委員会（東京都・葛飾区）、東京商工会議所葛飾支部、東京都産業教育振興会が一堂に会し、情報交換を行うことにより、相互の理解を深め、葛飾区や葛飾区の産業を担う人材の育成に貢献する。

## 4 主催

東京商工会議所葛飾支部

## 5 共催

東京都産業教育振興会

## 6 参加者

（企業）21名

- ・東京商工会議所葛飾支部所属企業  
21社21名

（学校）22名

- ・葛飾区内の専門高校等 4校10名
- ・葛飾区内の中学校 12校12名

（行政）5名

- ・葛飾区役所 1名
- ・葛飾区教育委員会 3名
- ・東京都教育委員会 1名

（団体）22名

- ・東京商工会議所葛飾支部 9名
- ・東京都産業教育振興会 8名
- ・東京商工会議所本部 4名
- ・公益財団法人産業教育振興中央会 1名

（計）60名（重複分を除く）

## 7 時程

（1）15時00分～15時30分 全体会Ⅰ

- ・開会挨拶  
浅川弘人東京商工会議所葛飾支部会長  
小林治彦東京都産業教育振興会副会長



- ・来賓挨拶  
青木克徳葛飾区長
- ・趣旨説明  
金子昌男東京商工会議所葛飾支部副会長・東京都産業教育振興会副会長
- ・発表Ⅰ「葛飾区立中学校におけるキャリア教育の取り組み」  
小澤拓葛飾区立青戸中学校副校長



- ・発表Ⅱ「東京商工会議所や葛飾区における産業振興」  
渋谷貴司東京商工会議所葛飾支部事務局長
- （2）15時40分～16時40分 分科会
  - ・3分科会に分かれて情報交換、意見交換
  - ・分科会の構成  
企業8～10、高等学校3～4、中学校4、葛飾区・葛飾区教育委員会1、東京商工会議所葛飾支部1～2、東京都産業教育振興会1
  - ・分科会の内容  
参加者自己紹介 所属・役職・氏名  
意見交換  
テーマ「葛飾区の産業を担う人材を育成す

るにはどうすればよいか」

(3) 16時50分～17時30分 全体会Ⅱ

- ・挨拶  
小花高子葛飾区教育長
- ・各分科会の発表（各分科会より企業側1名、学校側1名が発表）計6名
- ・意見交換
- ・まとめ  
長谷克己教育庁都立学校教育部高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長
- ・閉会挨拶  
杉野行雄東京商工会議所葛飾支部工業分科会長



(4) 17時30分～18時00分 名刺交換会

(5) 18時00分～19時00分 懇親会（有志）

## 8 その他

アンケートの実施：懇談会終了後回収  
33部

## 9 アンケート結果

(回答33 回収率33/60 55.0%)

「2. 本日の産業教育懇談会は、いかがでしたか。」

- A とても良かった 15名(45.5%)
- B 良かった 16名(48.6%)
- C 普通 2名(6.0%)
- D あまりよくなかった 0名(0%)

## 10 まとめ

### (1) アンケートから（一部抜粋）

#### ①感想

- ・3つの分科会でバリエーションが豊富なアイデアが数多く出てきて非常に有意義な機会となった（企業）。
- ・具体性のある意見が出て大変参考になった（企業）。
- ・第1回よりも少し現実的な話ができたと感じます（企業）。
- ・職場体験先の情報を東京商工会議所に相談でき

- ることを知り大変勉強になりました（中学校）。
- ・学校側の意見も聞くことができてよかったです。どんな職業があるのか、また自分が住んでいる街のなりたち、葛飾区について小さい頃から学んでいくのが大切。青年部の「かつしか魅力発見委員会」の事業として葛飾区内の企業を紹介していく（企業）。
- ・全体会の中学校の発表が良かった。これを切り口に分科会の議論が活発に展開された。第1回に比べ分科会の意見が具体的になり実のある議論になった（団体）。
- ・まず知ること、理解してもらうことが大切である。企業も高校も同じ状況であることが分かった。意見交換する場は有意義であると感じた（高校）。

#### ②来年度の時期・内容・方法等について

- ・年1回7月ごろ、現在の方法でよい（企業）。
- ・今年度の会を受けて来年度は少しでも進展した内容で協議できるとよいと思いました。毎年同じ話にならないようにしてもらいたい（中学校）。
- ・今回の会からの進展を含め方向性が出たので、具体的な話ができればと思います（企業）。
- ・方法は分からないのですがPR動画作りたいです（企業）。
- ・月末は厳しい。月末当日は避けていただけると助かります（企業）。

### (2) 東京都産業教育振興会事務局

- ・アンケート結果によれば、「とても良かった」と「良かった」を合わせると94.0%であり、全体的に好評であった。
- ・会の趣旨を理解し、多くの企業・学校・行政の参加者を得た。
- ・区長という行政のトップから激励のメッセージをいただき参加者が勇気づけられた。
- ・「地域の子供は地域で育てる」という機運が生まれつつある。
- ・葛飾区の産業人材の育成について、産・学・官の関係者が一堂に会して情報交換する場は貴重であり、今後も東京商工会議所葛飾支部と協力していきたい

# 令和5年度「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」

事務局

## 1 はじめに

東京都産業教育振興会とあきる野商工会は、平成30年6月30日に「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」協定書を締結し、平成30年度から都立五日市高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩工業高等学校、都立多摩高等学校の都立高校4校とあきる野商工会管内の会員企業との産学連携事業を実施してきました。

同事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から令和4年度の3年間は活動を休止せざるを得ませんでした。平成5年度から活動を再開しました。

## 2 事業の目的と活動内容

### (1) 事業の目的

西多摩地域を愛し、西多摩地域で働き、西多摩地域を活性化させていく人材の育成を目的とする。

### (2) 活動内容

#### ① 商工会・商工会議所が学校に対して実施するもの

- ・求人情報の提供
- ・企業紹介
- ・インターンシップ、長期就業体験、デュアルシステム受入先企業の紹介
- ・講演会講師の派遣
- ・教員対象研修会の実施
- ・キャリア教育資料の提供
- ・企業見学会の実施
- ・その他

#### ② 商工会・商工会議所が企業に対して実施するもの

- ・求職情報の提供
- ・インターンシップ、長期就業体験、デュアルシステム希望者の斡旋
- ・インターンシップ等のハンドブック・パンフレットの紹介
- ・講演会講師の派遣依頼

- ・教員対象研修会講師の派遣依頼
- ・企業見学会の依頼
- ・その他

#### ③ 連絡協議会の開催

- ・年2回開催
- ・情報交換、1年間のまとめ、その他

#### (3) 連絡協議会の開催

- ・年1～2回開催
- ・情報交換、1年間のまとめ、その他

## 3 「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」の再開

### (1) 連絡協議会（第1回）の開催



令和5年8月7日に第1回「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」連絡協議会を開催し、同事業の再確認と情報交換を行いました。

○出席者は以下の方です。(敬称略)

あきる野商工会会長	松村博文
あきる野商工会副会長	峰岸良夫
あきる野商工会副会長	平野寿一
あきる野商工会事務局長	山口 純
あきる野商工会指導課長補佐	齊藤政幸
都立五日市高等学校校長	松崎真理子
都立秋留台高等学校統括校長	中村勝徳
都立多摩工科高等学校校長	前田平作
都立多摩高等学校校長	上村礼子
東京都産業教育振興会事務局	花野耕一
東京都産業教育振興会事務局	並木 修

○自己紹介の後、松村博文あきる野商工会会長か

ら、「西多摩地域を愛し、西多摩地域で働き、西多摩地域を活性化させていくため、就職希望者に地元企業の情報を伝えたい。」という趣旨の挨拶がありました。

○続いて、事務局からこれまでの取組の報告、あきる野商工会からあきる野商工会の概要、各校から産学連携の報告がありました。

○意見交換では、連絡協議会の組織拡大を図るべきという意見が出されました。

「西多摩」として活動していくためには、西多摩にある他の商工会、商工会議所、都立高校にも参加を呼び掛けていく必要があるというものです。

その結果、都立羽村高等学校、都立福生高等学校、都立瑞穂農芸高等学校、都立青梅総合高等学校、福生市商工会、羽村市商工会、瑞穂町商工会、日の出町商工会、青梅商工会議所に参加を呼び掛けることになりました。

## (2) 組織拡大の歩み

○以下のように、各商工会・商工会議所・都立高校を訪問し、連絡協議会への参加を依頼しました。

令和5年6月28日(水) 福生市商工会

令和5年8月18日(金) 羽村市商工会

令和5年9月21日(木) 瑞穂町商工会

令和5年9月21日(木) 日の出町商工会

令和5年9月29日(金) 青梅商工会議所

令和5年8月18日(金) 都立羽村高等学校

令和5年8月22日(火) 都立青梅総合高等学校

令和5年8月28日(月) 都立瑞穂農芸高等学校

令和5年8月29日(火) 都立福生高等学校

○その結果、令和5年10月末までに、各商工会・商工会議所・都立高校から連絡協議会に参加するとのお返事をいただきました。

## (3) 連絡協議会(第2回)の開催

○第2回連絡協議会を令和6年3月15日(金)15時～17時にあきる野ルピアを会場に開催する予定です。

○参加校：都立五日市高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩工科高等学校、都立多摩高等学校、都立羽村高等学校、都立福生高等学校、都立瑞穂農芸高等学校、都立青梅総合高等学校の8校

○参加商工会・商工会議所：あきる野商工会、福生市商工会、羽村市商工会、瑞穂町商工会、日の出町商工会、青梅商工会議所

○内容 ①各校における産学連携の情報交換

②来年度の連携事業についての意見交換

## 4 連絡協議会の参加団体と代表者(敬称略)

あきる野商工会会長	松村博文
福生市商工会会長	山下真一
羽村市商工会会長	島田哲一郎
瑞穂町商工会会長	高水英夫
日の出町商工会会長	原田輝和
青梅商工会議所会頭	中村洋介
東京都立五日市高等学校校長	松崎真理子
東京都立秋留台高等学校統括校長	中村勝徳
東京都立多摩工科高等学校校長	前田平作
東京都立多摩高等学校校長	上村礼子
東京都立羽村高等学校校長	神谷画歩
東京都立福生高等学校校長	藤原政広
東京都立瑞穂農芸高等学校校長	大畑哲也
東京都立青梅総合高等学校校長	川口元三
東京都産業教育振興会会長	西澤宏繁
東京都産業教育振興会常任理事	長谷克己

(教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長)

東京都産業教育振興会理事・事務局長

山川樹林

(教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理)

## 5 まとめ(参加者の声から)

- ・西多摩地域の企業にとって人材確保は大きな課題である。特に中小企業にとっては、これまで高等学校と連携する機会が少なかったため、このような機会ができてよい。
- ・「地域の人材は地域で育てる」という機運が生まれつつある。
- ・西多摩の産業人材の育成について、産・学の関係者が一堂に会して情報交換する場は貴重である。
- ・今まで、学校単独で企業と連携してきたが、西多摩という地域が一体となって学校と企業が連携する取り組みは画期的である。今後は、行政も関わり、産・学・官連携に発展できるとよい。
- ・西多摩にも優良企業が沢山ある。高校生にもっと知ってもらいたい。
- ・この事業によって西多摩を愛する人材を育てたい。



## 令和5年度教員海外産業教育事情研修報告 —日本とドイツの専門教育の比較—

東京都立八丈高等学校家庭科教諭 網淵 ひかり

### 1 はじめに

令和5年11月12日（日）から18日（土）の7日間、公益財団法人産業教育振興中央会主催の「教育海外産業教育事情研修」として、ドイツ連邦共和国（以下ドイツ）を訪問した。本研修の目的は、専門学科の教員が海外の専門教育に関する学校や教育関係施設等での研修及び研修国の文化や社会生活に触れることにより、産業教育の充実・振興、国際交流等に寄与することである。

今年度は、全国の農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉等の教員計18名で訪問した。

ドイツの教育制度は、日本とどのように異なるのか、専門高校で指導に当たる一教員として海外の現場を見学したいという思いで訪問した。日本とドイツの教育制度や勤労観・職業観の比較を中心に報告する。

### 2 研修日程・概要

11月12日（日）移動日・出国

11月13日（月）

ハンナーアレント職業学校【フレンスブルク】

グリーンテック・キャンパス【フレンスブルク】

11月14日（火）

エアバス社【ハンブルク】

11月15日（水）

エッセン市経済振興部門【エッセン】

ツォルフェアアイン炭鉱業遺産群【エッセン】

11月16日（木）

REWE ヴィースバーデンマーケット

【ヴィースバーデン】

11月17日（金）・18日（土）移動日・帰国

### 3 日本とドイツの教育制度と専門教育

日本の教育制度では、既知の通り、小・中学校を義務教育としている。高等学校のひとつとして、専門高校がある。令和4年時点で、日本の専門高校の生徒数は51万人、高等学校生徒数全体の17.4%を占める。文部科学省HPの専門高校の現状学科別進路状況では、令和4年度専門高校卒業生177,953名のうち、就職47.8%、専修学校等25.6%、大学・短大等24.0%である。また、東京都教育委員会の令和5年度公立学校統計調査報告書では、令和4年度都立高校学科別の上級学校への進学率が、「農業科」30.8%、「工業科」24.0%、「商業科」36.3%、家庭・福祉・音楽・美術・保健体育・体育・国際・海洋国際・産業・舞台表現科の「その他学科」が47.1%である。専門高校を卒業しても、大学・短大、専修学校等へ進学する生徒が3割から5割程度存在するのが特徴である。

一方ドイツの教育制度は、義務教育は9年以上であり、初等教育である基礎学校（小学校）を修了した原則10歳の時点で将来の進路を選択する。小学校卒業後の進路は、主に3パターンであり、

- ① ハウプトシューレ（基幹学校 Hauptschule）：就職して職業訓練を受ける者（原則5年）
- ② 実科学校：卒業後に専門学校に進む者や中級の職に就く者（原則6年）
- ③ ギムナジウム（Gymnasium）：大学進学希望者（原則9年）

日本の専門高校に相当するのは、職業学校であり、職業学校へは、基礎学校（小学校）4年、①のハウプトシューレ5年の後に入学し、3年間の学びの上就職することが原則である。（図1）

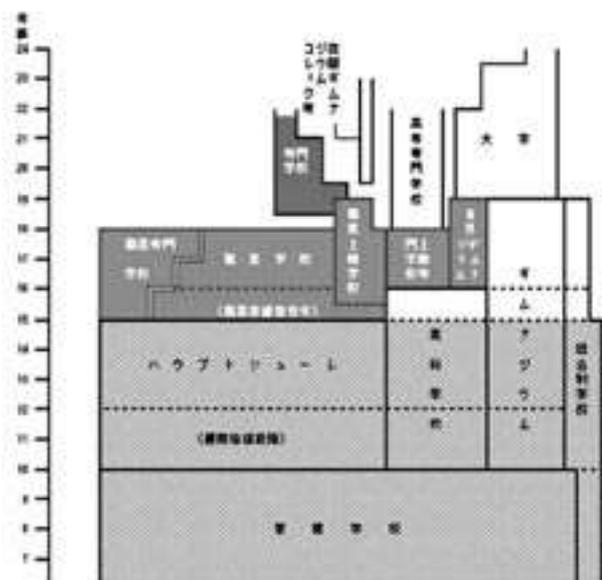


図1 ドイツの学校系統図（文部科学省HPより）

#### 4 「ハンナーアレント職業学校」視察

「ハンナーアレント職業学校」（以下ハンナーアレント）は、食品、健康（医療助手、歯科助手）、福祉、家政等を専門としている、生徒数約1,800名、教員数約120名の職業学校である。（図2）

ホテルやレストランの調理やサービス業の専門教育にも力を入れており、サービス実習の授業を見学した。教員は生徒に寄り添い、個に応じた助言を行う割合が多い印象を受けた。合間に生徒へ話を伺うと、「職業学校での訓練を受けることで、飲食店の中でもハイクラスのホテルに就職できるので頑張っている。」ということであった。

また、医療助手の専門教育についても話を伺い、血圧測定の実習の授業を見学した。生徒2名に「何歳からこの職業に就こうと思ったのか？」を尋ねたところ、「幼い頃から人に役立つ仕事をしたいと思っていて、必然的であった。」と答えてくれた。基礎学校（小学校）卒業時の10歳で大きな進路選択をするがゆえかもしれないが、自らの意思で進路選択を行い、目的意識が明確な傾向があり、主体的に学習している生徒が多い印象であった。

アンドレアス・コツィオル(Andreas Koziol) 校長(OstD [研究担当シニアディレクター; 校長]) の話によると、ドイツの学校制度の特徴は、国公立校の場合、小学校から大学院まで国籍に関わらず学費が原則無料（私立や一部の州を除く）で、「誰

もが平等に教育を受ける権利がある」ことと、ドイツの教育制度は接続性があり、進路決定して職業学校に入学後も、専門大学に入学できること（例看護助手から看護師専門大学）である。

校長自身は、情勢の変化する現代では、生徒に「何」「どうやって」そして最も重要な「なぜ」学ぶかを教職員に理解してもらい、実践してもらうことに注力されていると伺った。

更に、日本同様 SNS の普及により、若者が憧れる職業は、Youtuber 等が多い傾向があり、毎日勤勉に労働しても初任給（年間）が約3万6,000€であることにに対し抵抗がある若者が多い。加えて、少子化に伴い、1人当たりの求人件数が多いため、就職できることが当然と思っている生徒が多い。

今後の課題としては、企業と学校とが連携して就職へと繋げること、企業側も学校卒業後の若者を指導する人材育成の方法を変える必要があることと熱弁されていた。



図2 ハンナーアレント職業学校での集合写真

#### 5 まとめ

ドイツの職業教育では、10歳での大きな進路選択により、将来への目的意識が明確な生徒が多い傾向があると考えられる。日本とドイツの共通項としては、SNS 普及や少子化等情勢の変化により、人生における仕事の優先順位が低い傾向があることである。既存の授業を見直し、生徒が働くことへの興味・関心を高める授業改善を推進するとともに、現場である産業界と、各職業で求められる人材像・能力を共有することが必要となると考える。



## 第74回関東地区学校農業クラブ連盟大会 令和5年度東京大会報告

東京都立園芸高等学校副校長 小野寺 伸樹

### 1 はじめに

学校農業クラブとは、School Agriculture Clubの直訳で、戦後米国から全国の農業関係高等学校に紹介されたものです。同様なものに学校家庭クラブがあります。

全国の農業関係高等学校の生徒約7万3千人は、全員が学校農業クラブ員となり、日本学校農業クラブ連盟 Future Farmers of Japan「FFJ」に加入しています。一方、米国では、Future Farmers of America「FFA」として全米95万人の高校生・大学生が加入しています。

学校農業クラブ活動は、高等学校学習指導要領に示されている教育活動で、生徒は学校農業クラブ員として学校内外で学校農業クラブ活動を行っています。その目的は、日頃の学習活動を通じて、生徒の科学性、社会性、指導性を育成することにあります。

学校農業クラブ活動では、生徒の日頃の学習活動を発表する機会を設けており、各学校でプロジェクト発表会、意見発表会、農業鑑定競技会、平板測量競技会などを行っています。各学校での最優秀者は都道府県大会に参加し、そこでの最優秀者は北海道、東北、関東、北信越、近畿、中国、四国、九州のブロック大会に参加します。そこでの最優秀者は「農業高校生の甲子園」と呼ばれる全国大会に参加します。

令和5年度の関東ブロック大会は「第74回関東地区学校農業クラブ連盟大会令和5年度東京大会」として東京都世田谷区で開催され、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県の1都8県の代表が参加し、大会の運営は学校農業クラブ東京都連盟が担当しました。以下に概要を報告します。

### 2 第74回関東地区学校農業クラブ連盟大会令和5年度東京大会

#### (1) 日時

令和5年8月24日(木)

発表者・競技者打合せ、リハーサル

12:30～16:30

令和5年8月25日(金)

各種発表 8:30～14:20

レクリエーション 14:30～15:20

大会式典 15:30～16:30

#### (2) 会場

東京農業大学世田谷キャンパス「百周年記念講堂」及び東京都立園芸高等学校コンピュータ室

#### (3) 参加者

関東地区学校農業クラブ員 約1,000名

関東地区農業関係高等学校校長・顧問教師  
約200名

### 3 大会式典



開式のことば

司会は都立園芸高等学校生徒、ファンファーレは都立瑞穂農芸高等学校吹奏楽部が行う等、式典の運営は生徒が中心となって行いました。

(式典の内容)

- ①開式のことば
- ②ファンファーレ
- ③連盟旗入場
- ④FFJの歌斉唱
- ⑤あいさつ

関東地区学校農業クラブ連盟大会会長

東京都立園芸高等学校 3年 小島 颯

関東地区学校農業クラブ連盟大会代表

東京都立園芸高等学校 校長 並川直人

- ⑥祝辞及び主な御来賓の紹介

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長

信岡新吾

世田谷区長

保坂展人

日本学校農業クラブ連盟会長  
東京農業大学理事長・学長  
東京都産業教育振興会副会長

鈴木来夢  
江口文陽  
金子昌男

- ⑦成績発表及び審査講評
- ⑧表彰
- ⑨次期開催県代表あいさつ
- ⑩閉式のことば



最優秀者の表彰

#### 4 東京都代表生徒

東京都代表生徒は、残念ながら全国大会へと進むことはできませんでしたが、立派に参加することが出来ました。東京都代表生徒の発表分野、発表題目、発表要旨は以下の通りです。

##### (1) プロジェクト発表会

〈分野Ⅰ類「生産・流通・経営」〉

学校名 都立園芸高校定時制園芸科  
発表題目 地域の子ども食堂へ～JGAP 認証  
キュウリ流通プロジェクト～

##### 発表要旨

本校定時制農場がJGAP 認証を取得したことを機に、安心・安全な農産物を、地域の子ども食堂に届けるために生産だけでなく、流通まで自分たちで行いたいと考えた。また、関係機関と連携し使っていただくための配布活動を行った。

〈分類Ⅱ類「開発・保全・創造」〉

学校名 都立瑞穂農芸高校園芸科学科  
発表題目 AIを用いたストックの八重鑑別～  
東京の農家が使えるアプリの開発を  
目指して～

##### 発表要旨

東京都内では、多品目を栽培する農家が多く、ストックのみに手間をかけられないため、AIを使った八重鑑別アプリの開発に取り組んだ。ストックの開花を早めることによって、効率よく、多くのデータを収集する方法の確立ができた。

〈分類Ⅲ類「ヒューマンサービス」〉

学校名 都立園芸高校園芸科  
発表題目 学び発信で日本の農業を応援！

##### 発表要旨

日本の農業が抱える問題の改善に向け、東京都

の大消費地であるという性質を活かした積極的な発信・販売活動を行い、消費者の意識向上や農業教育の推進、そして国内農業の支援を目指します。

##### (2) 意見発表会

〈分野Ⅰ類「生産・流通・経営」〉

学校名 都立農芸高校食品科学科  
発表題目 もったいないで起業する

##### 発表要旨

高校生起業スタートダッシュというプログラムに応募し、規格外作物を利用する会社を起業するための取り組みを行っています。この考えに至った経緯や農業生産上の「もったいない」の現状、今後の展開を発表します。

〈分類Ⅱ類「開発・保全・創造」〉

学校名 都立瑞穂農芸高校畜産科学科  
発表題目 減らすをプラスに～ムクドリと人間の共生に向けて～

##### 発表要旨

ムクドリに着目し、持続的で効果があり生態系を守りながら出来る対策はないのか考えた。そこで去勢を提案する。去勢を行い適切な数に保ち、被害の減少と保全が期待できる。私は人間とムクドリの共生が最も重要だと考える。

〈分類Ⅲ類「ヒューマンサービス」〉

学校名 都立園芸高校動物科  
発表題目 あの頃の私に誇れる私—動物飼育を通して—

##### 発表要旨

小学校の経験を通して学校飼育動物の在り方について考えた。この問題を解決するためには子供達が自分事として向き合う必要がある。そこで、農業高校生が取り組み始めた飼育環境改善プロジェクトの活動について発表します。

##### (3) 農業情報処理競技会

都立農芸高校食品科学科、都立園芸高校園芸科の生徒が参加しました。

#### 5 おわりに

東京大会には、都立園芸高等学校、都立農芸高等学校、都立農産高等学校、都立農業高等学校、都立瑞穂農芸高等学校の生徒が、東京都の代表としてプロジェクト発表会、意見発表会、農業情報処理競技会に参加するとともに、大会運営のスタッフとして参加しました。この経験は、農業高校だからこそ体験できる貴重な経験です。

今後も都立農業関係高等学校は、学校農業クラブ活動を充実させ、都内他校や関東地区の学校、全国の学校、米国の学校との交流を重ねていきたいと思います。



## 本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2023 第 42 回全国大会報告

あきる野市立東中学校長 齋藤 真

### 1 学校の概要

本校は、昭和 48 年に開校した。多摩川の支流である秋川と平井川の間広がる秋留台大地の中央に位置する、武蔵野の面影を残した田園風景に囲まれた学校である。通常の学級と特別支援学級の生徒 680 名が在籍しており、中学校で義務教育を終えることを念頭に置き、育てたい生徒像を「いつでもどこでも通用する人間」、「夢を持ち、その夢を言葉にし、実現に向けて努力を積み重ねる人間」として生徒の育成に取り組んでいる。

### 2 大会の概要

Honda エコマイレージチャレンジは、「1 リットルのガソリンで何キロ走行できるか」をテーマとして、42 年間に渡って開催されている燃費競技大会である。実際の競技では、規定周回数(距離)を決められた時間の中で走行し、燃料消費量から「燃費」を算出して、その燃費性能の高さを競うものである。各チームは、マシンの設計や形状、走り方など、ありとあらゆる要素の効率化を追求して、燃費性能の極限を目指している。Honda 製 50cc 4 ストロークエンジンを使用したオリジナルマシンで競われる中学生、高校生、大学・高専・専門生、一般、2 人乗りクラス等、計 7 クラスのレースが開催されている。

#### [2023 年度大会一覧]

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 6 月 3 日    | もてぎ大会：モビリティポートもてぎ |
| 6 月 10 日   | 鈴鹿大会：鈴鹿サーキット      |
| 8 月 5・6 日  | 九州大会：HSR 九州       |
| 9 月 9・10 日 | 全国大会：モビリティポートもてぎ  |

### 3 大会に向けての取組

技術研究部は、創部 14 年目。現在、部員 20 名が部活動指導員と部活動指導補助員の指導の下、「もてぎ大会」と「全国大会」に向けて活動している。毎年、複数台で大会に参加しているため、3 つのチームを編成し、役割を分担している。普段の校内での活動では、ボディ形状の見直しや制作、車両の調整や運搬方法、タイムの計測と燃費の計算、ドライバーとピットとのコミュニケーションの練習等を行っている。

実際にマシンを走らせての練習は校内ではできないため、夏休みや土・日に東京サマーランドやあきる野市役所の駐車場をお借りして練習してきた。エンジンを止めた状態でいかに長く走れるかが肝となるため、エンジンのオンオフを操作するドライバーの役割は重大だが、それ以上にチームの総合力が試される。スタッフ全員がそれぞれの役割を確実にこなさなければ、レースに出走することも完走することもできない。そのため、次に挙げる大会当日のスケジュールに合わせた作業を



繰り返し行い、作業効率や精度を高めるべく、限られた時間の中でチーム力を磨いてきた。

[決勝当日のタイムスケジュール]

※7クラスごと、それぞれ進行していく。

選手受付



燃料供給



スタート前燃料計測



車検



スタート前待機エリア集合



決勝：走行



ゴール後燃料計測



燃料計測の様子

#### 4 大会結果

中学生クラス、エントリー 16台

優勝 チーム A 燃費 808.63 キロメートル／リットル

2位 チーム B 燃費 545.35 キロメートル／リットル

3位 チーム C 燃費 478.07 キロメートル／リットル



これまでも、全国大会での入賞はあったものの、1・2・3位を独占したことは想像していなかった快挙であった。

#### 5 生徒の感想

1日目は久しぶりの大会だったので、気持ちのゆるみがでてしまい、注意されることもありました。しかし、そこから皆で反省し、気持ちを切り替え、決勝では部員一人一人が積極的に作業し、団結力が見られました。そのおかげで、作業もスムーズに進み、事故もなく終わることができました。(3年生)

緊張で頭が真っ白になったが、完走を目指して頑張った。来年は燃費をよくし、さらに記録を伸ばしたい。(1年生)

部員全員で優勝できたことがうれしい。来年は中学生最後のレースになるので、再び優勝旗を持ち帰れるよう頑張ります。(2年生)

結果は1位2位3位を独占する事となり、3年生にとって最高の思い出になりました。3年生はこれで引退となるので、ここからは、2年生、1年生で協力して頑張っていってほしいです。(3年生)

#### 6 今後の課題

創部当初は、専門的な知識をもった教員が顧問となり、部活動指導補助員と協力して運営していた。しかし、専門性の高い活動であることや競技場所が遠方であること、また、教員の異動に伴い、年々、顧問の配置が難しくなっている。部活動の地域連携・地域移行について、あきる野市教育委員会とも連携して検討していく必要がある。





## 本校の名産を活かした新商品の開発と商標登録 —令和4年度社会の人材を活用した教育を実現するための 授業支援研究指定校事業の発展—

東京都立園芸高等学校主幹教諭 大津 里恵

### 1 都立園芸高校の概要

本校は、明治41年に東京府立園芸学校として開設され、今年度で創立115年を迎える伝統校である。園芸科、食品科、動物科があり、生徒はそれぞれの学科の専門的な内容を体験的に学んでいる。

校内には日米友好のハナミズキや江戸幕府三代将軍徳川家光公遺愛の松等の貴重な教育財産があり、生徒の母校愛を育んでいる。



【東京ドーム2.3個分の広い校地】

また、令和4年度から教育庁指定の「TOKYO デジタルリーディングハイスクール」として、IoTセンサーの設置、動画カメラを含めたクラウド上にデータを集約し、データに基づく精密農業の基盤を整え、一人1台端末の活用と連動して授業を展開している。さらにNPOと連携し、ソーラーシェアリングシステムをいち早く導入するなどスマート農業の導入・活用を推進し、魅力ある農業教育の創造を図っている。



【ソーラーシェアリングシステムと取得データ】

### 2 社会の人材を活用した教育を実現するための授業支援研究指定校事業について

本事業は、キャリア教育及び産業教育の一環とし

て、実際のビジネス活動を体験する機会を設けるなどの取組等を行い、探究的な学習やアントレプレナーシップ教育等を推進するため、研究校を指定しているものである。

本校は、以前より校内や校外を問わず各イベントで様々な実習生産品を販売してきた。しかし、従来の方法では、教員がアントレプレナーシップ教育を推進することに課題があった。具体的には以下の通りである。

- ① 習得した基礎的な知識や技術を生かす発展的な学習の場面が不十分
- ② プロジェクト学習等の課題解決型のカリキュラムの充実、深化が必要
- ③ 企業等と連携した実践的な取組が不足

これを踏まえ、本校に求められる取組は以下の通りである。

- ① マネジメントや先進的な技術を学び、基礎的な知識や技術のさらなる深化
- ② 新学習指導要領に即した課題解決型の授業の充実
- ③ 企業等と連携し、社会や産業界で求められる資質や能力を育成する取組の実践

事業実施に向け、本校のテーマを「広がり、繋がる園芸高校生が生み出す『食と農』のイノベーション」と設定し、食品科2学年の「課題研究」の時間を中心に、アントレプレナーシップ教育の推進を図ることとした。



【有楽町交通会館マルシェでの販売実習】

### 3 取組内容

令和4年度6月から現在まで、商品の開発・販売の視点を取り入れ、「世の中で売れるような商品と

は何か」「園芸高校自慢のマーマレードを活用して新しい商品の開発はできないか」をテーマに、企業のデザイナーや洋菓子店のパティシエと連携し、新たな商品開発やブランディングなどの実践的な活動を行ってきた。

新しい商品開発というテーマでは園芸高校の静岡県下田農場産の柑橘を使用したマーマレードを活用し、生徒自ら考案した新商品のコンペティションを実施した。企業ゲスト2名を迎え、審査をしたところ、フランス菓子である「カヌレ」と「マーマレード」を融合させて誕生した「カヌレード」が最優秀賞に選ばれ、商品化が決定した。



【下田農場での柑橘収穫の様子とマーマレード】



【生徒が考案したカヌレード】

世の中で売れる商品とは何かというテーマでは、最優秀賞に輝いた「カヌレード」のパッケージデザインについてコンペティションを行った。商品のブランディングとして、「商品を目見たときにストーリーを感じられるような物であるか」が大切であり、カヌレードの誕生ストーリーから製品の美味しさ、可愛いシルエットが分かるデザイン、SDGsの取組として地球環境への配慮をしたパッケージが考案された。この取組みにより、生徒有志による「食品科商品開発チーム」が発足され、起業家精神を生徒が主体的に学習している。



また、知的財産教育の一環として、生徒が考案した「カヌレード®」の商標登録を試み、令和5年7月、特許庁長官により商標登録原簿に登録することがで

きた。都立校として学校自身が取得した初めての登録商標となった。



【パッケージデザインの講演】



【カヌレードの商標登録証】

#### 4 今後の展望

今回「カヌレード®」が商標登録されたことで、商品化だけに留まらない「スタートアップチーム」を目指し、アントレプレナーシップを学ぶことができる場をさらに広げるための基礎ができた。令和5年11月には、生徒が教育庁に対して直接事業の報告をすることができた。

今後は、生徒が問題発見能力やリーダーシップ、創造性を身に付けるとともに、実際に企業が抱えている課題を題材にするなどして、その解決方法についても考えることができる様々な機会を設けていく。スタートアップと共に、新しい時代を切り拓き、課題解決と生徒の成長につなげる取り組みを今後も進めていく。



【教育庁に対しての事業報告の様子】

## 報 告

## 令和5年度 総会・講演会 報告

令和5年度の東京都産業教育振興会総会及び講演会は、6月27日（火）に全商会館で、会場参加とオンライン参加を併用したハイブリッド方式で開催いたしました。参加者は会場参加28名、オンライン参加5名、計33名でした。

総会の開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の村西紀章都立学校教育部長から挨拶がありました。



続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長の江森忍様（東京都立農産高等学校長）、東京都中学校長会副会長の齋藤真様（あきる野市立東中学校長）から御挨拶を頂きました。

次に西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の3件の報告事項と6件の議案を提案いたしました。

会員各位の慎重なる御審議の結果、報告事項及び議案は全て原案通り承認されました。

- ・報告事項(1) 令和5年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項(2) 令和5年度 教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項(3) 令和5年度 産業界会員功労者永年会員)の表彰について
- ・第1号議案 令和4年度事業報告(案)
- ・第2号議案 令和4年度決算書(案)
- ・第3号議案 令和4年度監査報告
- ・第4号議案 令和5年度東京都産業教育振興会役員(案)
- ・第5号議案 令和5年度事業計画(案)
- ・第6号議案 令和5年度予算書(案)

総会資料は会員に配布済みです。

また、今年度の表彰企業は該当なしでした。続きまして、本年度の役員を紹介いたします。

会 長	西澤 宏繁 (留任)
副 会 長	金子 昌男 (留任)
同	小林 治彦 (留任)
同	池上 信幸 (新任) (東京都立町田工科高等学校長)
理 事 長	浜 佳葉子 (留任)
常任理事	村西 紀章 (留任)
同	白井 宏一 (留任)
同	長谷 克己 (新任)

総会終了後、講演会を開催しました。

演題：「コロナ禍を経て、若者はいま」

講師：宮本みち子 氏

放送大学・千葉大学名誉教授、労働政策審議会委員、中央教育審議会委員、社会保障制度審議会等の委員

参加者は、会場参加31名、オンライン参加6名、計37名でした。



(講演要旨は50ページから62ページに掲載)



講演会・講演要旨

「コロナ禍を経て、若者はいま」

講師：宮本みち子 氏  
放送大学・千葉大学名誉教授



○不安定雇用、資困、引きこもりの増加等、コロナ以前から、若者・子どもたちの厳しい状況は指摘されていた。

○いわゆる「失われた 20 年」の間に、「若者のアンダークラス化」と呼ばれる「不安定な雇用」、「際立つ低賃金」、「結婚・家族形成の困難」という三つの困難に直面する若者たちが増加した。

○こうした状況に追い打ちをかけるように、コロナ禍は若者・子どもたちの暮らしにも大きな影を落とし、若者・子どもたちを過酷な状況に突き落とした。

○コロナ禍以前から気になっていた若者・子どもが真っ先にダメージを受けた。自殺は、女性と 20 代、10 代で顕著に増加した。

○コロナ禍の負の影響は格差が大きくなり、教育格差が生じている。また、社会的孤立・関係性の希薄化という問題もコロナ禍でさらに進んだ。

○学校では厳しい状況にある子どもたちの生活をトータルに把握し、さまざまな社会資源を結び合わせるということを、寄り添いの中で継続的に行ってゆく生活モデル的支援が必要であり、スクールソーシャルワーカー等のネットワークを学校を中心に築く必要がある。

○アフターコロナを見据え「つながり」を再構築していくべきである。

○厳しい状況に置かれ、孤立している人たちの社会的絆をつくり、多様な形で社会参加ができる環境づくりが必要である。

○困難な状況にある若者を支える方法は多様であり、それらの人々が生きられるコミュニティ形成こそめざすべきものである。具体策には、「低所得者への多様な所得補償」「不利益をカバーする職業訓練や就職支援」「無業者を含む就職困難層への支援」「女性の就労支援、子育て支援」「こどもの貧困解消の取組」「居住支援」などがある。

○就労困難な若者の就労支援は、社会への参加を担保するものとして重要である。

○ブラック企業を渡り歩く若者を生まないこと、人間らしく生きる道を見つける支援が必要である。

○困ったら親に頼るしかないという社会状況は限界に達している。

<宮本みち子氏 プロフィール>

1947 年生まれ、長野県出身。東京教育大学文学部卒業、お茶の水女子大学大学院修了。1975 年、千葉大学助手、助教授を経て教授。1997～98 年、英国ケンブリッジ大学客員研究員。2005 年、放送大学教授を経て、14 年同副学長。2018 年に退職。労働政策審議会委員、中央教育審議会委員、社会保障制度審議会等の委員を務める。

著書に『すべての若者が生きられる未来を』（岩波書店）、『下層化する女性たち』（勁草書房）、『アンダークラス化する若者たち』（明石書店）等。

\*次ページから当日配布資料を掲載します。

東京都産業教育振興会主催講演会

日時:2023年6月27日  
会場:全商会館

# コロナ禍を経て、若者はいま

宮本みち子  
放送大学/千葉大学名誉教授

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

1

## 若者と若者問題

- “失われた20年”で、いくら働いても暮らしが成り立たない人々が増加する社会へ
- “暮らしが成り立つ”という観念さえもてない例も目立つ
- 「結婚・持ち家・子どもの教育」がセットになった標準生活＝中流生活、の衰退
- “若者の生活保障”が必要  
経済・非経済の両面で人としてあるべき質を兼ね備えた生活水準を担保する生活の保障  
一定数の若者が、雇用からも社会保障からも排除されて生計を立てることの困難に直面しているから

2023年6月27日

東京都

2

## アンダークラス の拡大

2023年6月27日

- 不安定な雇用、際立つ低賃金、結婚・家族形成の困難という特徴をもつ一群
- 従来の労働者階級とも異質なひとつの下層階級を構成しつつある社会階層
- 学卒、就職、結婚・出産による社会への参入(職業人として、家庭をもつ人として、親としての参入)にともなうシティズンシップの獲得が不明確な人が若年期を経て増加

参考：宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち—生活保障をどう立て直すか—』明石書店2021年

3

## コロナ禍のなかのこどもの状態

- 自分に満足 45.1% 自分には長所がある 62.3%  
自分で国や社会を変えられると思う 18.3%
- 児相の虐待相談件数は2019年16万件、80倍
- いじめ件数は5万6000件から54万件へ10倍
- 小中高生の自死 500人超
- 小中学生不登校 約24万人
- 子どもの数は38年連続減少
- 労働力不足の顕在化 介護、教師、保育士、公務員、ドライバー、建設労働者・・・
- DXの進展により、大幅に人員削減される部門が生まれる

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

4

## 女性と10代20代の自殺者の増加

- 自殺は、女性と20代、10代で顕著に増加。2022年の小中高校生516人
- コロナの多いところで自殺が多く発生するわけではない(香港の研究)
- 子どもの自殺は、学校閉鎖時には上がっていないが、閉鎖が終わった後で上がった
- 女性の自殺は、失業が原因ばかりではない。DVの増加その他  
外出できないこと、コミュニケーションができなくなってしまったことが、男性より女性に影響

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

5

- ・ 母子世帯の母親は仕事を続けられなくなる  
母子世帯の貧困化がよりいっそう進む
- ・ 給食がなくなったことによる家計負担、昼食を抜く家庭の増加
- ・ 共働き家庭は、子どもの世話と仕事の二重負担  
母親の負担が過重に
- ・ DVの増加、児童虐待とネグレクトが増加
- ・ 若い女性の望まない妊娠の増加

既存の相談機関や支援団体は、感染防止のためにサービスを中止  
その後、新しい方法で支援活動を再開

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

6

# 新型コロナ禍のもとで生じた教育格差

## オンライン教育の機会格差

	600万円未満	600万円以上
学校のオンライン教育を受けている	20.60%	> 40.4%
学校外のオンライン教育を受けている	19.60%	> 40.4%
受けていない	55.10%	> 33.6%

高所得家庭の居住地では、多くの家庭にネットワークや端末の環境があり、学校が対応しやすかった

三大都市圏ほど高い。親の学歴によるもの

学校外のオンライン教育は、親が大卒以上だと約45%、非大卒だと20%と差が大きい(中学生の場合)

内閣府調査 グラフは中学生の場合

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

7

# コロナ禍以前から気になっていた子ども・若者が真っ先にダメージを受けた

## コロナ禍の負の影響は格差が大きい

事例： よりそいホットラインの相談事例から

- ・失職して地方の実家に帰った若者の例
- ・70代の祖母(介護ヘルパー)と、解雇された孫の困窮世帯
- ・50代男性: コロナ禍で大学生の息子がリモート授業になり、孤立し学業や就活に意欲が無く、精神疾患を発症した。妻は息子の心配のため自殺未遂して入院中。息子と妻の間で、今後どのように生活したらよいか相談相手もなく孤立している父親
- ・30代女性。子どもを連れて別居。その後コロナの影響による失職・生活困窮。家賃や学費を滞納。小学生の子どもは不登校になった。ストレスで病気になってしまった。
- ・40代女性。コロナ禍で夫の在宅が増え、暴力がエスカレート。子どもに暴言。別居を考え仕事を探したいができない。勧められる相談窓口にも夫が家にいるので出かけられない。

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

8

続き

・コロナ禍で人と触れ合う機会が減り、ストレスが溜まっている。また雇用先との契約が切れるため就活もしていて苦しい

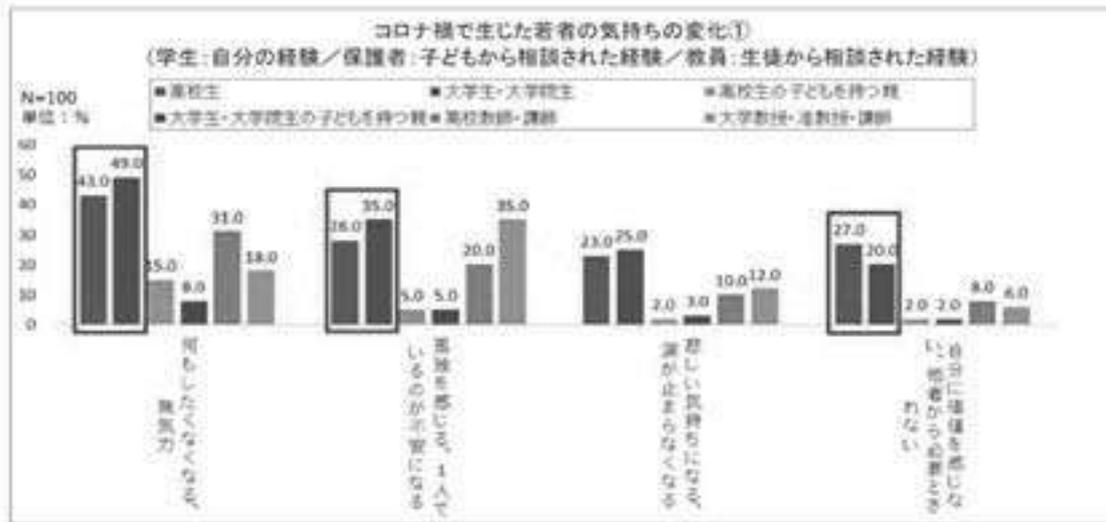
・勉強以外にも体育や歌などが得意など、学校では多様な価値観が道められていた。コロナ禍でその多くができなくなり、テストの点数や偏差値だけが価値基準になりがちなのが、子どもの心理状態を悪化させている  
 (国立成育医療研究センター 田中恭子氏)

感染拡大で家の外に出られない時期が続き、もともと家庭に居づらかった子は追い込まれている

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

1

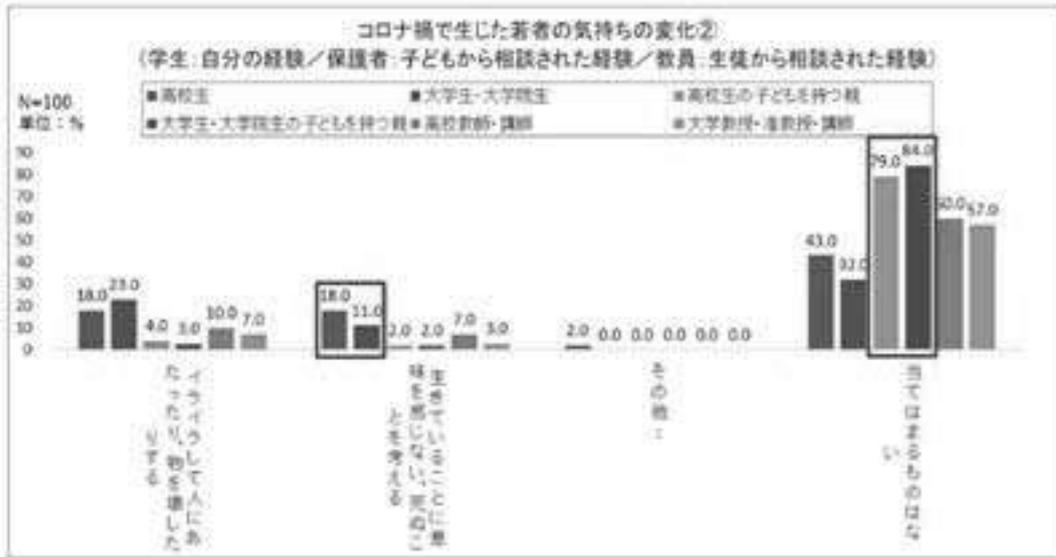


調査名 新型コロナウイルス禍と若者の将来不安に関する調査 実施者 日本赤十字社  
 調査対象 日本全国の男女600名  
 高校生100名/大学生・大学院生100名  
 高校生の保護者100名/大学生・大学院生の保護者100名  
 高校教員100名/大学教員100名

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

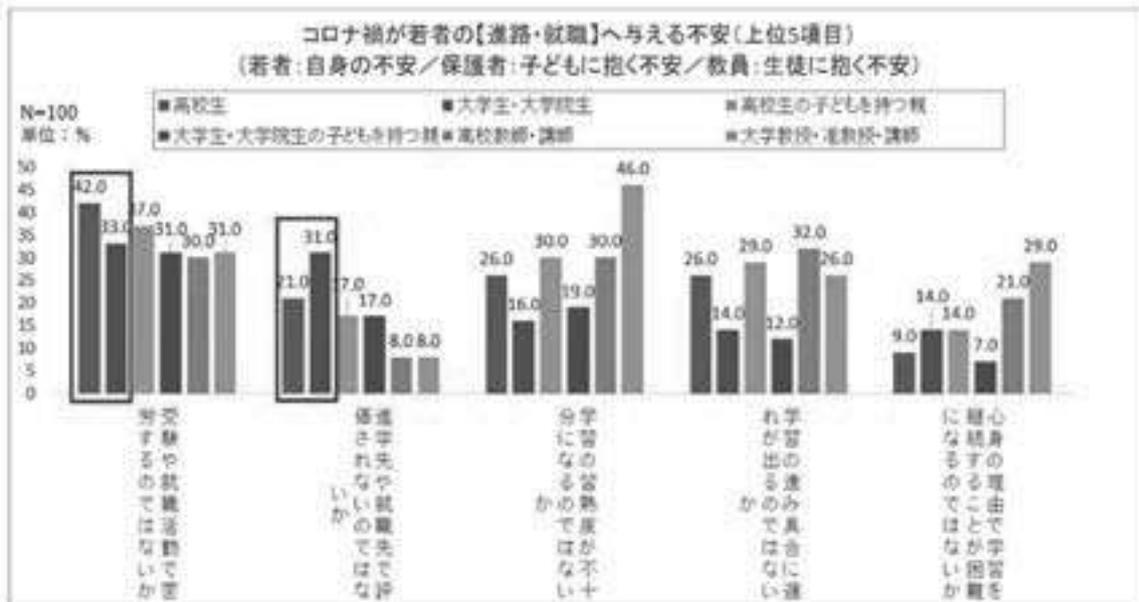
2



2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

3



2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

4

## 社会的孤立・関係性の希薄化という問題 コロナ禍でさらに進んだ

- 日本は先進国のなかで孤立度が高い国  
“家族以外の他者”との交流が希薄な人々が多い
- 家族関係：小規模、きょうだいがいない、ひとり親など
- 友人関係に悩む子どもが少なくない

全般的に、居場所のない子どもの問題は最優先課題  
**こどもの居場所づくり、シェルター事業の広がり**

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

5

## 新型コロナ禍の先に何が起こるか

- 少子高齢社会を支えるべき現役年齢層の弱体化
- 中間層の弱体化、アンダークラスの増加
- 安定した仕事について力を発揮することや、結婚して家族で支え合いながら子どもを養育すること自体が容易でない人々が増加。コロナ禍で一気に加速化
- 【支援する側】が衰退し、核となる人々が育たない

例：中年単身の低所得者、親と同居する中年未婚者、貧困化する母子世帯

＝従来の社会保障・福祉制度ではカバーできない人々の増加

コミュニティの持続性を担保することは困難

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

6

## アフターコロナ禍の後の「つながい」

- 孤立している人たちの社会的絆をつくり、多様な形での社会参加ができる環境づくり
- 学校を中心にネットワークを築けないか
- 就労困難な若者の就労支援は、社会への参加を担保するものとして重要
- ブラック企業を渡り歩く若者を生まないこと。人間らしく生きる道を見つける支援
- 困ったら親に頼るしかないという社会状況は限界に達している

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

7

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

8

## 教育相談事業の限界

- 教育機能は、生活の安定・安心の基盤なしには発揮できない
- 教育相談事業は、子どもとその親の生活全般を理解し、必要な対策を取ろうとしているか？
- 教育相談事業の範囲でできなければ、関係機関と連携することが必要
- 現代生活の複雑性に対抗し得る支援方法＝生活モデル  
＝ソーシャルワークやケア/ケアリング

生活モデル的支援は、当事者の生活をトータルに把握し、さまざまな社会資源を結び合わせるということを、寄り添いの中で継続的に行ってゆく方法  
〈スクールソーシャルワーカーの役割〉

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

1



横浜市内高校での取り組み  
＜校内居場所カフェ＞  
特定非営利法人パノラマ



2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

2



2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

3



### 県立田奈高校での朝食提供事業にご協力ください!

緑法人会は、神奈川県立田奈高等学校での朝食提供事業を神奈川県より委託され実施しています。学校での朝食提供を通じて生徒たちの生活習慣の改善とともに、心身の健康の改善を図り、学習に取り組む姿勢につなげることや、生徒が教職員以外の大人と話すことができる居場所を作り、生徒が抱える悩みや課題の解決を図る一助とすることを目的としています。

令和4年7月上旬から令和5年3月までの期間で週2日(火・木曜日)、午前7時30分から8時30分まで、田奈高校内のランチルームで朝食を提供しています。

既に事業がスタートし、生徒たちの間でも好評を博していますが、食材・資金が不足しがちのため、事業継続には会員の皆様のご協力が必要です。どうか趣意をご理解頂き皆様のご協力をお願い致します。

●お申込み・詳細はHPから <https://midorihoujinkai.or.jp>

2023年6月27日

東京都産業教育振興会主催講演会

4

10月27日はハロウィンパーティーを開催しました！  
集まったスタッフは18名、仮装もいろいろありましたよ？



Trick or Treat!!



ダンスパフォーマンスも披露!



皆でワイワイと楽しくおしゃべりしながらおしゃべり!



仮装もいろいろと披露もいろいろと披露!



お菓子もいろいろと用意しました!





## 令和 5 年度 東京都産業教育振興会後援事業

令和 5 年度は、下記の事業に対して、後援を行いました。

番号	事業の名称	開催期間	主催	開催場所
1	第 74 回関東地区学校農業クラブ連盟大会令和 5 年度東京大会	令和 5 年 8 月 24 ～ 25 日	関東地区学校農業クラブ連盟、東京都学校農業クラブ連盟	東京農業大学 世田谷キャンパス
2	第 39 回葛飾区産業フェア	工業展・商業展・観光展 令和 5 年 10 月 20 ～ 22 日 農業展・伝統産業展 令和 5 年 10 月 27 ～ 29 日	葛飾区	・テクノプラザかつしか ・東京都城東地域中小企業振興センター
3	第 30 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	令和 5 年 11 月 18 日	東京都立工業高等学校長会	東京都立工芸高等学校
4	第 20 回中学生創造ものづくりフェア in Tokyo	令和 5 年 10 月 28 日 令和 5 年 11 月 11 日	東京都中学校技術・家庭科研究会	・板橋区立加賀中学校 ・女子栄養大学
5	第 9 回多摩地区専門学校チャレンジプログラムシンポジウム 2023	令和 5 年 12 月 8 日	多摩地区高等学校進路指導協議会 東京都専修学校各種学校協会多摩地区専修学校協議会	日本工学院八王子専門学校
6	第 11 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会	令和 5 年 12 月 16 日	東京都高等学校総合学科教育研究会	東京都教職員研修センター
7	第 23 回全国中学生創造ものづくり教育フェア	令和 6 年 1 月 20 ～ 21 日	全日本中学校技術・家庭科研究会	中央区立総合スポーツセンター

## 令和 5 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和 5 年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」13 名及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」3 名に対する表彰式を令和 5 年 11 月 9 日（木）に全商会館 3 階中会議室で挙行了しました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品を贈呈しました。

西澤会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して長谷克己教育庁都立学校教育部高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長が祝辞を述べました。続いて御来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長江森忍様、東京都中学校長会会長山本周一様（代読）から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立東高等学校山寺佳幸校長が謝辞を述べました。



表彰状授与



西澤宏繁会長



岩井宏専務理事



江森忍校長

今回の受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

### I 御下賜金記念産業教育功労者（13 名）

東京都立農芸高等学校	主任教諭	氏田	浩一
東京工業大学附属科学技術高等学校	教諭	岩城	純
東京都立足立工科高等学校	教諭	柴田	靖
東京都立足立工科高等学校	主任教諭	豊田	達也

東京都立橋高等学校  
 東京都立橋高等学校  
 東京都立八王子桑志高等学校  
 東京都立東高等学校  
 東京都立大島海洋国際高等学校  
 東京都立大島海洋国際高等学校  
 東京都立若葉総合高等学校  
 東京都立産業技術高等専門学校  
 東京都立産業技術高等専門学校

副 校 長 樋 口 裕 之  
 主 任 教 諭 横 山 昌 利  
 主 任 教 諭 高 橋 麻 実  
 校 長 山 寺 佳 幸  
 専修実習助手 小 坂 聡  
 前主幹教諭 平 塚 正 彦  
 前 校 長 鈴 木 光 俊  
 教 授 齋 藤 敏 治  
 教 授 三 隅 雅 彦

## II 中学校技術・家庭科教育功労者（3名）

世田谷区立尾山台中学校  
 豊島区立明豊中学校  
 北区立赤羽岩淵中学校

前主幹教諭 石 渡 由 美  
 副 校 長 桐 生 征 臣  
 前 副 校 長 水 木 淳 司

### 謝 辞

本日の教育功労者表彰式にあたり、受賞者を代表しまして、一言御礼を申し上げます。

本日は私ども16名のために、東京都産業教育振興会会長西澤宏繁様はじめ、御来賓の方々や本会役員の皆様のご臨席の中、教育功労者として表彰していただき、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

私ども16名は、校種や職種は異なりますが、それぞれの立場において、産業教育の指導を通して生徒一人一人に生きる力を育み、社会に貢献すべく有為な人材の育成に努めて参りました。

私個人としましては、教科水産の教員として18年間、大型実習船を活用した乗船実習やダイビング、小型船舶の操縦等の実習を中心とした体験的な学習に努めて参りました。校長としては工業高校を経て、再び4年間水産教育に関わりました。現在の大島海洋国際高校の実習船大島丸は五代目となり、令和2年3月に竣工しました。設計から建造迄の3年間、校長として関与できたことは私にとってはこの上ない喜びでございます。

今後、我々16名は在職中に培った知識・技術・経験を若手の教職員や生徒に可能な限り伝えていく所存です。

結びに、東京都産業教育振興会のますますの充実と発展、並びに本日ご臨席の皆様のご御健勝と御多幸を祈念しまして、受賞者代表の謝辞といたします。



令和5年11月9日

東京都立東高等学校長 山寺 佳幸

# 令和5年度 産学懇談会（第1回）

令和5年7月8日（金）14:00～17:00  
東京都立第一商業高等学校

令和5年度産学懇談会（第1回）は、東京都立第一商業高等学校を会場に、令和5年7月8日（金）午後2時から午後5時まで対面参加で開催しました。

参加者は、会場校教員、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて25名でした。

## ■開会

はじめに、当会副会長の小林治彦東京商工会議所常務理事から開会の御挨拶がありました。



小林治彦副会長

次に、東京都教育委員会を代表して山川樹林都立学校教育部高等学校教育課課長代理の御挨拶がありました。



平野篤士校長

続いて、会場校の平野篤士校長から御挨拶がありました。

## ■施設・授業見学

続いて、校内の施設・授業見学をさせていただきました。



総合実践室

## ■懇談会



懇談会

○はじめに、参加者の自己紹介をしました。

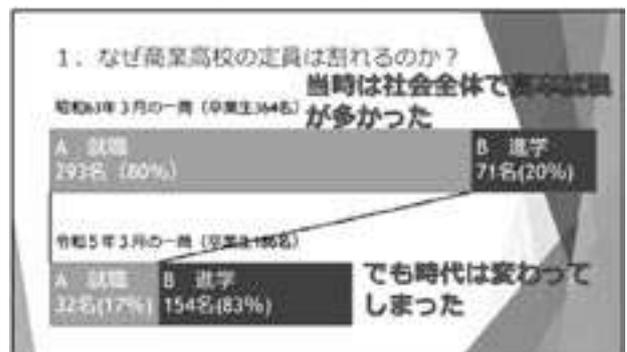
○続いて、平野篤士校長から学校概要と特色ある取組について説明していただきました。

### 1 都立第一商業高等学校の概要

都立第一商業高等学校（以下、第一商業高校）は、大正8（1919）年に開校した創立100年を超える商業の伝統校です。東京都の商業高校のリーダーとして、簿記部や珠算部など毎年多くの商業系部活動が全国大会に進出しています。

現在は、令和3年度から4か年計画で、東京都教育委員会から地域探究推進校に指定され、國學院大學研究開発センターと連携し、同大が実施する「渋谷学」を導入して、渋谷・代官山地域に関する探究学習を推進していることで注目を集めています。

### 2 渋谷を科学する『渋谷学』～商業高校が定員割れを起こす原因とその対策

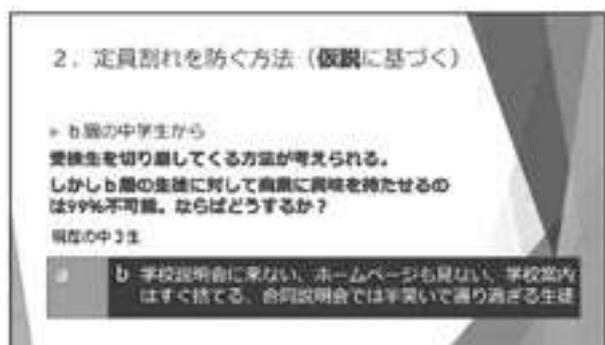


私が昭和63年に入都した時、第一商業高校は1学年9クラスで卒業生は364人もいて、しかもそのうち80%が就職でした。当時はまだまだ社会全

体では、高卒就職は多かった時代でした。しかしその後、進学志向の高まりで商業高校の人気は凋落し、毎年のように定員割れが続いています。

定年退職の2年前になって一商に戻ってきて驚きました。時代はすっかり変わっていました。生徒数が最盛期の半数に減っていることにも驚かされましたが、何より就職がわずかに17%ということにとっても驚きました。

昭和63年当時は、少しでも商業に興味のあるa層の生徒が一定数は中学校にいましたが、今や中学生の大部分はb層の生徒で、学校説明会に来ない、ホームページも見ない、学校案内はすぐ捨てる、合同説明会では半笑いで通り過ぎる生徒です。このままでは商業はまだ減ると思います。



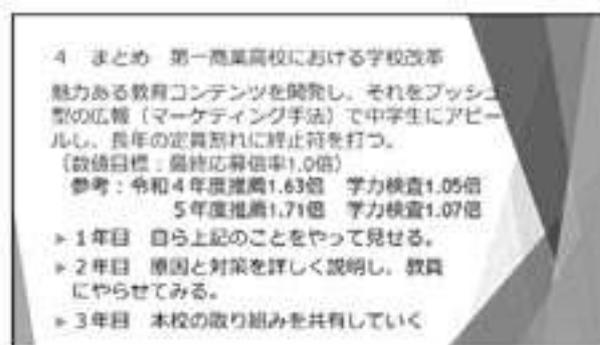
定員割れを防ぐには、b層の中学生から受検生を切り崩してくる方法が考えられますが、そのためには、魅力的な新メニューの開発と地道な営業活動が必要と私は考えました。

本校では、魅力的な教育コンテンツとして「渋谷学」を開発し、各教科・科目、「人間と社会」、特別活動の全てにおいて取り入れました。「渋谷学」導入後、大きく変わったのは、これまで教室の中で勉強し、資格を取ることが中心だった商業科目に、教室の外に出て、自分の足で調べ、自分の頭で考える科目が加わったことです。

一方で、地道な営業活動として、校長や教員が中学校に出向いて行う、「渋谷学」の出前授業を中心に、魅力ある教育コンテンツを直接中学生に紹介するプッシュ型の広報にも力を入れ、私自身も年40校程度の中学校で授業をしています。

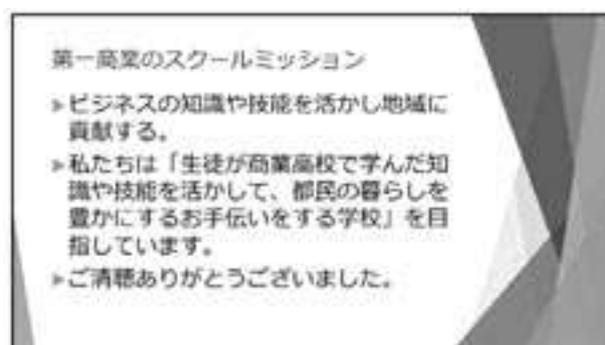
### 3 まとめ

魅力ある教育コンテンツを開発し、それをプッシュ型の広報（マーケティング手法）で中学生に



アピールした結果、長年の定員割れによようやく終止符を打つことができました。

一商のスクールミッションは「ビジネスの知識や技能を活かし地域に貢献する。」です。私たちは「生徒が商業高校で学んだ知識や技能を活かして、都民の暮らしを豊かにするお手伝いをする学校」を目指していきます。



#### ○意見交換

学校の説明の後、参加者から質問や意見が出されました。

#### ■参加者のアンケートから

- ・平野校長の取組は企業の採用活動でも実践すべきことであると感じ、貴重な学びとなった（企業）。
- ・校長のリーダーシップの重要性を痛感した（高等学校）。
- ・本校の現状を打破するヒントが多くあった（専修学校）。
- ・中学生への進路指導において非常に参考になった（中学校）。
- ・「渋谷学」の取組はとても素晴らしく、生徒の学びに大きな力になっている感じがした（高等学校）。
- ・企業や学校が抱える課題の解決に向け、多くの知見が得られた（その他）。

○都立第一商業高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。（事務局）

## 令和5年度 産学懇談会（第2回）

令和5年9月22日（金）14:00～17:00  
東京都立農業高等学校

令和5年度産学懇談会（第2回）は、東京都立農業高等学校を会場に、令和5年9月22日（金）午後2時から午後5時まで対面参加で開催しました。

参加者は、会場校教員、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて41名でした。



### ■開会

はじめに、当会の西澤宏繁会長から開会の御挨拶がありました。

次に、東京都教育委員会を代表して長谷克己都立学校教育部高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長から御挨拶がありました。

続いて、会場校の一ノ瀬淳校長から御挨拶がありました。

### ■施設・授業見学

続いて、校内の施設・授業見学をさせていただきました。



農場



製茶工場



調理室



被服室

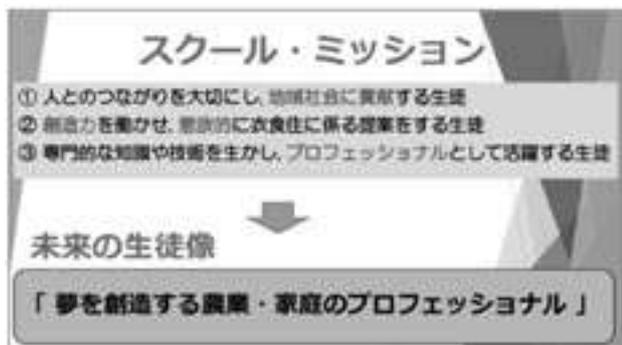
### ■懇談会

○はじめに、一ノ瀬淳校長から学校概要について説明していただきました。

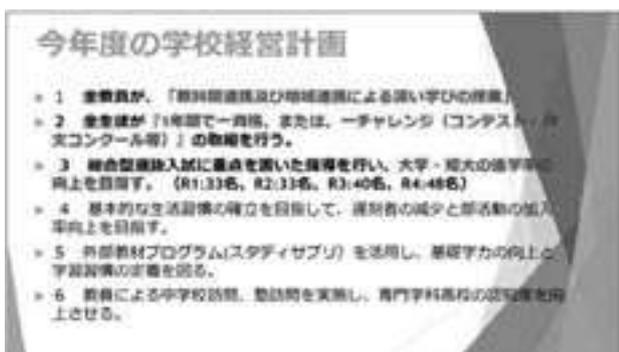
#### 1 都立農業高等学校の概要

・都立農業高等学校（以下、農業高校）は、明治42（1919）年に開校した創立114年の伝統と歴史のある専門高校である。

- ・全日制課程に都市園芸科、緑地計画科、食品科学科、服飾科、食物科、定時制課程に普通科、食品化学科を設置している。
- ・全日制課程は「夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル」の育成を目指している。



・令和4年3月卒業生の進路状況は5学科合計で大学24%、専門学校45%、就職24%、その他7%であるが、学科により進路先の割合は異なる。



・令和4・5年度西部学校経営支援センター特別指定校、令和5年度海外学校交流推進校となっている。

○続いて、特色ある教育活動について、3名の先生から説明がありました。

## 2 特色ある教育活動

### (1) 教科間連携及び地域連携の概要(塙枝里子主幹教諭)

- ・全ての普通科が専門学科と連携
- ・専門学科間の連携

### (2) 高大連携とプロジェクト活動(中里友紀主任教諭)

- ・東京農工大学、早稲田大学との連携
- ・馬場大門のケヤキ並木保護・更新プロジェクト
- ・名勝小金井サクラ復活プロジェクト

### (3) 教科間連携の取組(小野剛主任教諭)

- ・藍染プロジェクト他

### 3 参加者のアンケートから

- ・先生方が非常に熱意をもって教育に取り組まれていると感じた(産業界)。
- ・都立農業高校の施設・教育内容について深く知ることができた。まさに社会に開かれた教育課程であった(中学校)。
- ・中学3年時に専門高校への進路を決定するには余程の強い興味と関心が生徒には必要だと感じた(中学校)。
- ・進路指導をする上で、専門学科のことを知り、生徒・保護者に発信していくことが大切だと思った(中学校)。
- ・産業教育の重要性を改めて考える機会となった。中学校の技術・家庭科ともっと関係性を深め、進路指導・キャリア教育の発展を考えていく必要があると思った(中学校)。
- ・専門学科の様子を詳しく教えていただきとても貴重な時間となった。中学生の中には、本人自身、何が得意であるのかまだ未知数である生徒も多数いる(中学校)。
- ・高大連携や教科間連携はとても勉強になった(高等学校)。
- ・地域で生徒を育てることが大切と思った。教科横断的な学びを実践されている(高等学校)。
- ・学校の実践のすばらしさに感銘を受けた。指導される先生方は大変だと思った(短期大学)。
- ・学校の魅力化に向けた様々な取組を知ることができた(その他)。



○都立農業高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。(事務局)

## 令和5年度 産学懇談会（第3回）

令和5年12月7日（木）14:00～17:00

ハリウッド美容専門学校

令和5年度産学懇談会（第3回）は、ハリウッド美容専門学校を会場に、令和5年12月7日（木）午後2時から午後5時まで開催しました。

参加者は、会場校教職員、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて29名でした。



### ■開会

はじめに、当会の西澤宏繁会長から開会の御挨拶がありました。

次に、東京都教育委員会を代表して山川樹林教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理から御挨拶がありました。

続いて、会場校の山中祥弘学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長兼ハリウッド大学院大学学長から御挨拶がありました。



### ■施設・授業見学

続いて、校内の施設・授業見学をさせていただきました。



### ■懇談会

○はじめに、参加者の自己紹介をいたしました。  
○続いて、佐藤和彦副校長から学校概要について説明していただきました。

### 1 ハリウッド美容専門学校の魅力

#### ① History

・1925年に銀座でハリウッド美容講習所・美容室・ビューティサロン・化粧品を創業

- ・最先端のファッション・ヘア・メイク・ネイルエステのトータルビューティを日本に広める（パーマメントとマスカラも）。

## ② Location

- ・六本木ヒルズ内にあり地下鉄の駅にも直結したアクセス良好な校舎（ビューティプラザ）。
- ・ハイブランドからカジュアルブランドまで、流行の最先端のファッションセンスなどを体感。

## ③ Curriculum

- ・2年の専門課程（専門士）・4年の高度専門課程（高度専門士）・2年の大学院（修士）を設置。
- ・美容師養成指定施設専門学校（厚労大臣指定）や職業実践美容専門課程認定校（文科大臣認定）など公的指標の適合格



## ④ Diversity

- ・社会人専門人材育成支援（無償化）認定校として、キャリアゲットやキャリアチェンジにも対応（10代から60代までの様々な年代が学ぶ学校）。
- ・アジアを中心とした多くの国々からの留学生（グローバルな学びを実現）

## 2 ハリウッドの学び

### ① 高度ビューティコース

- ・日本で唯一の美容の高度専門人材を育成する4年間の高度専門課程

### ② ヘアメイクビューティコース

- ・美容師免許を取得し、ヘアスタイリストやヘアメイクアーティストなどを目指すコース

### ③ ファッションビューティコース

- ・ファッションや芸能・映像分野のトータルビューティシャンなどを目指すコース

### ④ コスメビューティコース

- ・コスメのマーケティング・研究開発・製造・販

売までをトータルで学ぶコース

### ⑤ ビューティキャリアコース

- ・昼間1年制で美容の基礎と文化を学び、専門学校や大学などへの進学を目指すコース

### ⑥ 美容師通信教育コース

- ・3年制の昼夜間や夏のスクーリングで美容師免許の受験資格が取得できるコース

#### ○意見交換

学校の説明の後、参加者から質問や意見が出されました。

#### ■参加者のアンケートから

- ・美容専門学校の教育について大変勉強になりました（高等学校）。
- ・高校とは異なる緊張感をもった授業が印象的でした（行政機関）。
- ・施設の大きさや場所、環境にとっても感動した。同じ美容専門学校としてとても多くの学びになった（専修学校）。
- ・山中理事長の「モチベーションを上げていくプログラム」というお言葉に感銘を受けました（高等学校）。
- ・日頃接することの少ない業界の話や実技指導の様子が分かり参考になった（高等学校）。
- ・様々な分野の先生方のお話を聞くことができ、学びの多い懇談会でした（中学校）。
- ・ファッション・美容業界における教育や、理容師・美容師の資格に関する知識が深まり良かった（行政機関）。
- ・ハリウッド美容専門学校の経営方針、学生の人生にかける思いに感動しました（専修学校）。



○ハリウッド美容専門学校の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。（事務局）

## 令和 5 年度 第 34 回東京都産業教育振興会作文コンクール

### (1) 入選者一覧

令和 5 年度の応募作品数は、「中学校の部」が 26 校 139 作品、「高等学校・専修学校等の部」で高等学校が 19 校 131 作品、専修学校が 2 校 11 作品で、全体では 47 校 281 作品でした。昨年度（令和 4 年度）よりも全体で 9 作品増加しました。本年度は募集要項を改訂し、作文の制限字数や提出方法を変更しましたが、大きな混乱はありませんでした。

それぞれの部の選考委員による第一次選考及び第二次選考を経て、「中学校の部」では 22 作品（最優秀賞 1、優秀賞 3、佳作 18）、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が 20 作品（最優秀賞 1、優秀賞 2、佳作 17）、専修学校が 2 作品（優秀賞 2）、合計で 44 作品を入選作品として決定しました。

また、「イラストの部」には 15 作品の応募があり、3 作品（最優秀賞 1、優秀賞 2）を入選作品として決定しました。

令和 5 年度の入選作品は、以下のとおりです。

#### 中学校の部

最優秀賞	料理が教えてくれた大切なこと	江戸川区立二之江中学校	3 年	岩崎海春
優秀賞	わくわくを追いかけて	墨田区立両国中学校	2 年	田嶋玲奈
優秀賞	周りの人を笑顔にする物づくりの喜び	北区立稲付中学校	3 年	二村一颯
優秀賞	「仕事」の本質	東京都立大泉高等学校附属中学校	2 年	大場美遥
佳作	将来のものづくりに向けて	墨田区立両国中学校	3 年	尾形優太
佳作	職場体験で得た学び	墨田区立両国中学校	2 年	細田晴香
佳作	選択を正解にする。	世田谷区立三宿中学校	3 年	檜野莉穂
佳作	見えない仕事の大切さ	中野区立中野中学校	2 年	藤田晴
佳作	言葉	中野区立中野中学校	2 年	山崎彩花
佳作	身近にいる大切な存在	北区立稲付中学校	3 年	古本彩心
佳作	努力	北区立赤羽岩淵中学校	3 年	井出雫
佳作	2030 年を創る私たち	北区立赤羽岩淵中学校	3 年	川俣光紗
佳作	将来の夢	北区立赤羽岩淵中学校	3 年	小林未唯
佳作	ものづくりと豊かさ	北区立赤羽岩淵中学校	3 年	松本晏佳
佳作	働く意味	荒川区立南千住第二中学校	2 年	荒井識月
佳作	新たな私への第一歩	足立区立江南中学校	2 年	内池明陽
佳作	私と食事	足立区立伊興中学校	2 年	小林桃々
佳作	「技術」と「発電」	江戸川区立松江第四中学校	3 年	寺門寿菜
佳作	未来の自分へ	調布市立第八中学校	2 年	加藤大知
佳作	父から学んだこと	調布市立第八中学校	1 年	小林柚葉
佳作	ものづくりの基本	町田市立真光寺中学校	3 年	堀江真広

佳 作 すべての仕事にやりがいがある 東京都立大泉高等学校附属中学校 2年 島 田 純

### 高等学校の部

最優秀賞 成人看護実習で学び得たこと 愛国高等学校 3年 浪 打 優  
 優 秀 賞 現場で考え学びに向きあう 東京都立農産高等学校 3年 小 林 漣  
 優 秀 賞 生き物を守るために 東京都立農業高等学校 2年 大 里 優 羽  
 佳 作 わたしのしょうらいのゆめ 東京都立園芸高等学校 1年 ユスフィ ナジファ  
 佳 作 農業の魅力 東京都立農芸高等学校 2年 林 咲 希  
 佳 作 考えつづけて変えてく未来 東京都立農産高等学校 3年 今 本 静 穂  
 佳 作 インターンシップを通して学んだこと 東京都立農業高等学校 2年 上 田 愛 花  
 佳 作 喜び合うことに必要なこと 東京都立農業高等学校 2年 蟬 平 菜 月  
 佳 作 幸せを届ける職業に向かって 東京都立農業高等学校 2年 中 原 萌 音  
 佳 作 養豚体験の価値を届けたい 東京都立瑞穂農芸高等学校 3年 下 田 緩 乃  
 佳 作 私が目指す新しい酪農の形 東京都立瑞穂農芸高等学校 2年 吉 田 穂乃里  
 佳 作 心をつなぐ老人ホームでの職場体験 東京都立瑞穂農芸高等学校 1年 陶 浩 太  
 佳 作 ニワトリと私 東京都立瑞穂農芸高等学校 1年 竹 内 ひかり  
 佳 作 私の将来 東京都立第三商業高等学校 3年 小 木 曾 南  
 佳 作 新しい夢との出会いを 東京都立赤羽北桜高等学校 2年 稲 葉 真 琴  
 佳 作 何より大切なこと 東京都立赤羽北桜高等学校 2年 佐々木 心 那  
 佳 作 将来の夢 愛国高等学校 3年 昆 野 里 音  
 佳 作 私の夢 愛国高等学校 3年 谷 口 なご美  
 佳 作 理想の鉄道員を目指して 岩倉高等学校 2年 福 原 優 和  
 佳 作 私の学びと夢 昭和第一学園高等学校 3年 渡 邊 悟

### 専修学校の部

優 秀 賞 私になりたい将来像 青山製図専門学校 1年 間 真 子  
 優 秀 賞 私の目指す道と思い 青山製図専門学校 1年 山 本 駿 介

### イラストの部

最優秀賞 品川区立鈴ヶ森中学校 9年 宮 田 優 璃  
 優 秀 賞 品川区立鈴ヶ森中学校 9年 若 井 佐和子  
 優 秀 賞 江戸川区立二之江中学校 1年 前 原 椎 花

来年度（令和6年度）も作文コンクールを実施しますので、生徒及び学生の皆さんからたくさんのお応募があることを期待しています。

## (2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

### 料理が教えてくれた大切なこと

江戸川区立二之江中学校 3年 岩崎 海春

私の家族は父、母、姉、私、弟の五人家族です。両親は共働きで姉もアルバイトをしているため、夜に弟と二人になることはよくあります。そのような日は私が夜御飯を作っています。この話をすると友達に口を揃えて「かわいそうだね」と言うのです。ですが私からしたらかわいそうなところは一つもなく、むしろ嬉しいのです。

私は小さい頃から台所に立って料理をする父や母に憧れていました。そんな私が初めて台所に立って料理をしたのは小学五年生の夏でした。夏休みの宿題に御飯作りがあったからです。初めて作ったのは「夏野菜カレー」でした。たくさんの具材を切るのは難しく、いつも料理をしていた父や母のようにスムーズには作れませんでした。玉ねぎを切っていたら涙は出るし、じゃがいもは大きくて切りにくいので「もうやめたい」と言ってしまいました。すると母は私に「小さい頃はお母さんもスムーズに料理ができなかったんだよ」と言いました。その時私は自分のペースで作ればいいのだと気が楽になりました。

時間をかけて作り、みんなの前に出すと、みんな目をキラキラさせて「美味しそう、早く食べたい」と言ってくれました。その時私は「またみんなに作りたい」と思い、たくさん料理をするようになりました。

中学一年生になった頃、父と母が仕事で帰りが遅くなることが多くなってきました。ある日母は私に「今日は帰りが遅くなるから何かスーパーで買って食べて欲しいな」と言いました。その時私は無意識に「それなら今日の夜御飯私に作らせてよ」と言っていました。驚いた母は目を丸くしながらも「それなら今日はシチューとサラダをお願いできる？」と聞いてきました。私は母に頼られたことが嬉しくて「もちろん」と大きな声で返事をし、料理を始めました。

一時間が経ち、全ての料理が完成して弟の前に出して、使った道具の片付けをしているといつもより早く食べ終わっていました。「そんなに早く食べるとお腹壊すよ」と言うと弟は「だって美味しかったんだもん。おかわりしてもいい？」と聞いてきました。にんじん嫌いな弟がお皿に残すことなく食べ、おかわりしたいと言うのです。その時私は初めて、御飯作りをしてよかったと思いました。作った御飯の写真を撮り、メールで母に送ると、仕事の休憩中だった母から「すごく美味しそう、帰ったらすぐに食べるからね」と返ってきました。

中学三年生になった私は今でも御飯作りをしています。御飯作りを通して誰かのために何かを作ることの喜びや笑顔を見ることの嬉しさを感じられたからです。最近は祖母から教わった宮崎県の郷土料理「チキン南蛮」も作れるようになりました。

私の将来の夢はまだ迷っていて決められていません。ですが小学生の頃から続けている御飯作りで感じたように、人を笑顔にできたり、幸せを誰かと一緒に感じられるような仕事に就きたいと思っています。そのために、日頃からマイナスな気分になるようなことは言わないようにしたり、「ありがとう、ごめんね」などの言葉が意識しなくても言えるようにしたいです。

なぜ私は両親や姉がいないときに御飯を作るのが嬉しいのか、その理由は誰かに頼られることが嬉しいのと、御飯作りにはやりがいを感じられるからです。

\*\*\*\*\*

高等学校の部 最優秀賞

## 成人看護実習で学び得たこと

愛国高等学校 3年 浪打 優

「いい看護師さんになってね。ありがとう。」

これは実習最終日の挨拶の際に、受け持ち患者様が涙を流しながらも笑顔でおっしゃってくださった言葉です。

この方は四十歳代の女性の方で、小脳出血で緊急入院をされ、手術ではなく止血剤での保存療法を行っている方でした。家庭では主婦の役割を果たしながら、さらにお仕事も持っていらっしゃるのですが、入院から既にか月ほどが経過していたその当時は、休職中とのことでした。初めてお会いした際にご挨拶をすると、笑顔で温かく受け入れてくださり、とても明るく活気のある方という印象を受けました。三週間という短い期間ではありますが、患者様としっかりとコミュニケーションを取り、良好な関係を築こうと改めて心に命じ、実習に臨みました。

日々のコミュニケーションを通して、患者様の思いや治療に対する考えが伝わってくるように感じ、常に治療に前向きに取り組む患者様の姿に、私も嬉しくなりました。しかし、ある時私が「退院後は何がしたいですか？」と伺うと、「もう仕事は辞めようと思って。」という返答がありました。いつも前向きでポジティブな患者様からの予想外の返答に、私はどう反応したらよいのか分かりませんでした。そこで、その日のカンファレンスで議題に挙げ、グループメンバーや指導者さんと話し合いました。その際に指導者さんから「それって本心なのかな？」と言われました。確かに、患者様は仕事の話をする際は生き生きとして饒舌になり、約二十年もの間続けてきたその仕事が本当にお好きな様子でした。「なぜ本当のことを伝えてくれないのだろう。信頼関係が築けていなかったのかな。」と私は感じました。しかし、指導者さんは、「そうやって伝えてくれたのは、信頼関係の中でのありのままなんじゃないかな。」と助言を下さいました。それを聞いて私は、患者様のありのままを受けとめることで、患者様の心に寄り添うことが出来るのだと気付きました。

家庭復帰に向けての作業療法として料理訓練を行っていた際、ジャガイモの皮をむいていた患者様が「この震えはもう治らないって先生に言われちゃったの。仕方がないわね。」と仰いました。その言葉を聞き、私は胸が痛くなりました。しかし、この時指導者さんの言葉を思い出しました。患者様は「仕方がない」と仰いましたが、それは本心ではない、自分に言い聞かせているに違いないと思ったのです。治療に前向きで一生懸命な患者様だからこそ、出来ないことや残った障害を受け入れるのは本当に辛いことだからです。しかし、その感情もまた、患者様のありのままなのだと思います。

障害の受容とは、「諦めでも居直りでもなく障害に対する価値観（感）の転換であり、障害があることが自己の全体としての人間的価値を低下させるものではないことの認識と体得を通じて、恥の意識や劣等感を克服し、積極的な生活態度へと転ずることである」（上田敏著『障害の受容』）と定義されているように、その価値観（感）が変わる時、本当の意味で「仕方がない」と患者様が思える時が来るまで、メンタルの面からもしっかりと患者様を支援していくことが必要であると痛感しました。

今回の実習では、身体的な残存した障害、心理的な回復・復帰への不安、社会的な仕事についての三つの側面から患者様を見出し全人的に捉えることの大切さを学びました。患者様が仰った「いい看護師」とは、「患者様のありのままの心と身体により添う看護師」だと私は考えます。一人一人の個性性を考え、共感し、受けとめることの出来る看護師を目指して、これからも励んでいきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

(3) 応募校一覧

< 中学校の部 >

番号	区分	学校名	応募者数	入選者数
1	千代田区	九段中等教育学校	1	
2	中央区	銀座中学校	5	
3	新宿区	西早稲田中学校	3	
4		両国中学校	9	3
5	墨田区	吾嬬第二中学校	6	
6		吾嬬立花中学校	10	
7	江東区	第四砂町中学校	1	
8	目黒区	第七中学校	1	
9	大田区	大森第六中学校	6	
10		烏山中学校	3	
11	世田谷区	喜多見中学校	1	
12		三宿中学校	10	1
13	中野区	中野中学校	6	2
14	杉並区	松溪中学校	1	
15		稲付中学校	4	2
16	北区	赤羽岩淵中学校	10	4
17	荒川区	南千住第二中学校	6	1
18		第十三中学校	3	
19	足立区	江南中学校	3	1
20		伊興中学校	10	1
21	江戸川区	松江第四中学校	4	1
22		二之江中学校	9	1
23	調布市	第八中学校	10	2
24	町田市	真光寺中学校	10	1
25	東京都	大泉高等学校附属中学校	6	2
26	私立	愛国中学校	1	
合計			139	22

< まとめ > (イラストの部を除く)

番号	区分	応募校数	応募者数	入選者数
1	中学校	26	139	22
2	高等学校	19	131	20
3	専修学校	2	11	2
合計		47	281	44

< 高等学校・専修学校等の部 >

番号	学校名	応募者数	入選者数
1	東京都立園芸高等学校 (全)	10	
2	東京都立園芸高等学校 (定)	7	1
3	東京都立農芸高等学校	7	1
4	東京都立農産高等学校	9	2
5	東京都立農業高等学校	10	4
6	東京都立瑞穂農芸高等学校	10	4
7	東京都立大島高等学校	3	
8	東京都立八丈高等学校	5	
9	東京都立第三商業高等学校	6	1
10	東京都立第四商業高等学校	5	
11	東京都立葛飾商業高等学校	10	
12	東京都立忍岡高等学校	6	
13	東京都立赤羽北桜高等学校	10	2
14	愛国高等学校	6	3
15	岩倉高等学校	3	1
16	蒲田女子高等学校	9	
17	京華商業高等学校	4	
18	昭和第一学園高等学校	1	1
19	国際共立学園高等専修学校	10	
小計		131	20
1	青山製図専門学校	10	2
2	中央工学校	1	
小計		11	2
合計		142	22

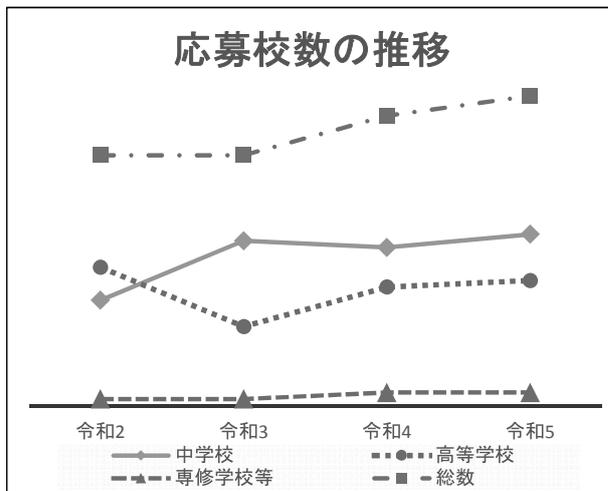
< イラストの部 >

番号	学校名	応募者数	入選者数
1	品川区立鈴ヶ森中学校	3	2
2	足立区立伊興中学校	5	
3	江戸川区立二之江中学校	3	1
4	町田市立真光寺中学校	4	
合計		15	3

(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移

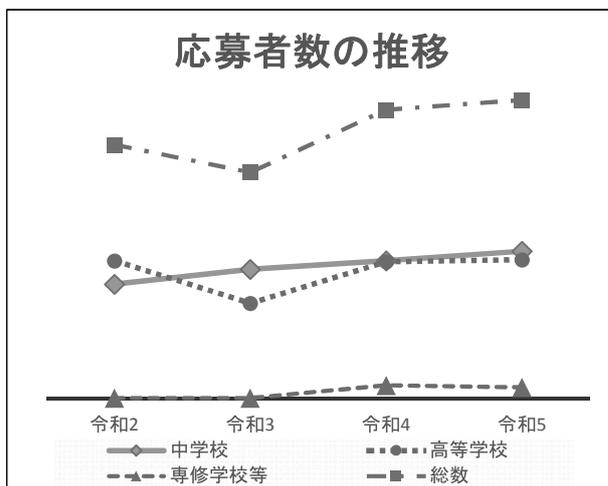
① 応募校数の推移

校種	令和2	令和3	令和4	令和5	平均
中学校	16	25	24	26	23
高等学校	21	12	18	19	18
専修学校等	1	1	2	2	2
合計	38	38	44	47	42



② 応募者数の推移

校種	令和2	令和3	令和4	令和5	平均
中学校	108	122	130	139	125
高等学校	130	90	129	131	120
専修学校等	1	1	13	11	7
合計	239	213	272	281	251



③ 入選者数の推移

校種	令和 2(2020)年度			令和 3(2021)年度			令和 4(2022)年度			令和 5(2023)年度			平均 %
	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	
中学校	108	18	17	122	19	16	130	20	15	139	22	16	16
高等学校	130	20	15	90	14	16	129	20	16	131	20	15	15
専修学校等	1	1	100	1	1	100	13	2	15	11	2	18	58
合計	239	39	16	213	34	16	272	42	15	281	44	16	16

**(5) 作文のテーマ別応募者数一覧****①作文の内容**

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- 中学校における技術・家庭科の学習
- 高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- 勤労に関わる体験的な学習

**②テーマ**

作文の内容について、次のテーマ番号（ア～コ）から関係するものを選択し記述する。

- ア 授業等を通して学び得たこと
- イ 就業体験や現場実習等によって学び得たこと
- ウ 職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- エ つくることの喜び、ものづくりの喜び
- オ 働くことの喜び
- カ 学習に対する心構え
- キ 私の生きがい
- ク 私の進路、将来の夢
- ケ 私の職業観
- コ その他（産業教育に関わる内容のもの）

**③テーマ別応募数とその割合**

テーマ 番号	中学校の部						高等学校の部						専修学校等の部					
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)
ア	23	(19%)	19	(15%)	16	(12%)	27	(30%)	35	(27%)	31	(24%)	0	(0%)	3	(23%)	4	(36%)
イ	0	(0%)	2	(2%)	10	(7%)	7	(8%)	11	(9%)	21	(16%)	1	(100%)	0	(0%)	0	(0%)
ウ	13	(11%)	19	(15%)	44	(32%)	3	(3%)	1	(1%)	8	(6%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
エ	13	(11%)	10	(8%)	11	(8%)	3	(3%)	6	(5%)	7	(5%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
オ	4	(3%)	3	(2%)	7	(5%)	0	(0%)	2	(2%)	4	(3%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
カ	2	(2%)	3	(2%)	7	(5%)	3	(3%)	4	(3%)	5	(4%)	0	(0%)	0	(0%)	1	(9%)
キ	12	(10%)	6	(5%)	5	(4%)	6	(7%)	10	(8%)	8	(6%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
ク	45	(37%)	55	(42%)	31	(22%)	36	(40%)	51	(40%)	44	(34%)	0	(0%)	4	(31%)	4	(36%)
ケ	5	(4%)	11	(8%)	8	(6%)	1	(1%)	6	(5%)	3	(2%)	0	(0%)	6	(46%)	2	(18%)
コ	5	(4%)	2	(2%)	0	(0%)	4	(4%)	3	(2%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
計	122	(100%)	130	(100%)	139	(100%)	90	(100%)	129	(100%)	131	(100%)	1	(100%)	13	(100%)	11	(100%)

## 本会の概要

# 令和5年度 事業経過報告

(令和6年2月20日現在)

### 1 会計監査

4月17日(月)午後3時～5時 都庁第二本庁舎15階3部共用会議室①を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施した(本会事務局長立合い)。

### 2 理事会

5月19日(金)会場参加(全商会館)とオンライン参加を併用したハイブリッド開催  
\*会場参加者10名、オンライン参加者9名、欠席者(委任状)16名

### 3 総会・講演会

6月27日(火)会場参加(全商会館)とオンライン参加を併用したハイブリッド開催

・総会 会場参加者28名、オンライン参加者5名、計33名

・講演会 会場参加者31名、オンライン参加者6名、計37名

演題:「コロナ禍を経て、若者はいま」

講師:宮本みち子 氏

放送大学・千葉大学名誉教授

(総会・講演会の報告は会報第164号、会誌第61号に掲載)

### 4 委員会

(1) 企画推進委員会(第1回) 7月14日(木) 都庁第二本庁舎16階 教育委員会室で開催

企画推進委員会(第2回) 11月24日(金) 全商会館で開催

企画推進委員会(第3回) 1月12日(金) 全商会館で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 9月15日(金) 都庁第二本庁舎15階3部共用会議室で開催

(3) 作文選考委員会

全体会 5月12日(金) 東京商工会議所で開催

分科会(高等学校・専修学校の部) 10月20日(金) 都庁第二本庁舎15階3部共用会議室で開催

分科会(中学校の部) 10月17日(火) 都庁第二本庁舎15階3部共用会議室で開催

### 5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:11月9日(木)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者13名、中学校技術・家庭科教育功労者3名の表彰式を挙行了。本会より表彰状と記念品を贈呈した。なお、本年度は専修学校・短期大学産業教育功労者の該当者はなかった。

(2) 産業界会員功労者(永年会員)表彰:本年度は該当者はなかった。

(3) 研究団体助成:産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の6研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(4) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は281点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞7名(中学校3名、高校2名、専修学校2名)、佳作35名(中学校18名、高校17名)計44名の入選者を選定した。

表彰式は12月15日(金)に東京商工会議所で開催し、入選者及び「明日に生きる 第34号—作文コンクール入選作品集—」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、作文応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。

入選作品は「明日に生きる 第 34 号 -作文コンクール入選作品集-」として令和 6 年 3 月上旬に発行予定。

- (5) 優良卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行う。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校	926 名	中等教育学校（前期課程）	12 名	
高等学校	193 名	専修学校	88 名	
高専・短大	14 名			計 1,219 名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校 計 106 名

- (6) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認した。本年度は 7 事業に対して後援名義の使用を承認した。

## 6 産学連携事業

- (1) 第 2 回葛飾区産業教育懇談会の実施

○日時 6 月 30 日（金）15 時～19 時 テクノプラザかつしか

○内容 「葛飾区の産業人材を育成するにはどうすればよいか」をテーマに全体会 I・分科会・全体会 II を開催

○参加者 企業 24 名、高校 10 名、中学校 12 名、行政・団体 14 名 計 60 名  
（本誌 p37-38 に掲載）

- (2) 「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」の再開

○連絡協議会（第 1 回）の開催

- ・日 時 8 月 7 日（月）15 時～16 時 30 分
- ・場 所 あきる野ルピア 3 階 あきる野商工会会議室
- ・内 容 事業の再確認、参加団体の拡大についての検討
- ・参加者 あきる野商工会、東京都産業教育振興会、都立五日市高等学校、都立多摩工科高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩高等学校

○連絡協議会（第 2 回）の開催

- ・日 時 令和 6 年 3 月 15 日（金）を予定
- ・場 所 あきる野ルピア
- ・内 容 各校における産学連携の情報交換、来年度の連携事業についての意見交換
- ・参加者 あきる野商工会、福生市商工会、羽村市商工会、瑞穂町商工会、日の出町商工会、青梅商工会議所、東京都産業教育振興会、都立五日市高等学校、都立多摩工科高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩高等学校、都立瑞穂農芸高等学校、都立青梅総合高等学校、都立羽村高等学校、都立福生高等学校

- (3) 都内工業・商業高校の進路指導教員と会員企業との交流会

○主催 東京商工会議所

○協力 東京都産業教育振興会

○後援 東京都教育委員会

○第 1 回

- ・日 時 令和 5 年 5 月 12 日（金）13 時 30 分～16 時 35 分
- ・場 所 東京商工会議所 東商ホール&カンファレンスルーム
- ・参加者 企業 55 社、高校 18 校

○第 2 回

- ・日 時 令和 5 年 11 月 14 日（火）14 時 45 分～17 時 45 分

- ・場 所 東京商工会議所 東商ホール&カンファレンスルーム
- ・参加者 企業 71 社、高校 16 校

## 7 産学交流事業

- (1) 令和 5 年度産学懇談会（第 1 回）の実施  
7 月 7 日（金）14 時～17 時 都立第一商業高等学校  
会場参加のみで開催した。参加者 25 名
- (2) 令和 5 年度産学懇談会（第 2 回）の実施  
9 月 22 日（金）14 時～17 時 都立農業高等学校  
会場参加のみで開催した。参加者 41 名
- (3) 令和 5 年度産学懇談会（第 3 回）の実施  
12 月 7 日（木）14 時～17 時 ハリウッド美容専門学校  
会場参加のみで開催した。参加者 29 名

## 8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」
  - ① 第 164 号を 7 月 26 日に発行
  - ② 第 165 号を 12 月 20 日に発行
- (2) 会誌「東京の産業教育」第 61 号を 3 月上旬に発行予定
- (3) 第 33 回全国産業教育フェア福井大会 10 月 28 日（土）～10 月 29 日（日）  
会長、事務局長参加
- (4) 第 65 回全国産業教育振興大会（福井大会）10 月 28 日（土）15：30-17：00  
会長、事務局長参加
- (5) ホームページのリニューアル・更新
  - ① 6 月 1 日にホームページのリニューアルを行った。
  - ② ホームページの更新を原則として毎月 1 回行った。

## 9 会員増加運動の推進

個人会員 1 名、学校会員 4 校が入会し、企業会員 2 社が退会した。

## 10 広報活動の推進

会報電子版を月末に発行した。

43 号 5 月 29 日、44 号 6 月 26 日、45 号 7 月 31 日、46 号 9 月 25 日、47 号 10 月 30 日、  
48 号 11 月 27 日、48 号 11 月 27 日、49 号 12 月 25 日、50 号 1 月 29 日  
51 号 2 月 26 日（予定）、52 号 3 月 25 日（予定）

## 令和4年度 決算

総収入額 ¥4,061,185  
 総支出額 ¥2,369,453  
 差引額 ¥1,691,732

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,393,000	2,343,000	△ 50,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,615,000
				① 国公立中学校 2,000 434校 868,000
				② 都立高校 全 6,000 52校 312,000
				定 3,000 31校 93,000
				③ 国私立高校 全 6,000 14校 84,000
				通 3,000 2校 6,000
				④ 短大・高专 3校 6,000 3校 18,000
				⑤ 専修学校 37校 6,000 39口 234,000
				2 産業界関係 728,000
				① 企 業 56社 10,000 70口 700,000
② 個 人 14人 2,000 14口 28,000				
会誌広告料	320,000	345,000	25,000	「東京の産業教育」第59号広告費4社(校)、第60号広告費 18/22社(校)
雑収入	833	18	△ 815	銀行利子
繰越金	1,373,167	1,373,167	0	前年度繰越
合 計	4,087,000	4,061,185	△ 25,815	

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要	
事務費	725,000	428,230	296,770		
項 目	需用費	25,000	11,000	14,000	消耗品費等、資料管理費、ICレコーダー
	役務費	650,000	417,230	232,770	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	50,000	0	50,000	全国産業教育フェア(青森大会)
会議費	60,000	59,309	691	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,650,000	1,816,914	833,086		
項 目	振 興 奨励費	985,000	691,864	293,136	①教育功労者表彰 162,129
					②研究奨励助成 122,000
					③作文表彰等 247,885
					④永年会員表彰 14,850
					⑤表彰状印刷等 103,290
					⑥表彰状筆耕料 41,710
					⑦ロゴマーク募集(2031年度に必要) 0
情 報 連絡費	1,655,000	1,117,300	537,700	①会報発行(162号、163号発行) 50,050	
				②会誌第60号発行 458,700	
				③作文集第33号発行 387,750	
				④HPリニューアル・更新費 193,600	
				⑤全産協参加費 3,000	
				⑥中央会図書費 0	
				⑦作文集・会誌合本費 24,200	
産学交流費	10,000	7,750	2,250	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	587,000	0	587,000	緊急対応	
合 計	4,087,000	2,369,453	1,717,547		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和5年度 予算

総収入額 ¥4,423,000  
 総支出額 ¥4,423,000  
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,411,000	2,393,000	18,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,611,000
				① 国公立中学校 2,000 438 校 876,000
				② 都立高校 全 6,000 52 校 312,000
				定 3,000 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000 14 校 84,000
				通 3,000 2 校 6,000
				④ 高専・短大 3 校 6,000 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 35 校 6,000 37 口 222,000
				2 産業界関係 会費 口数 800,000
				① 企 業 56 社 10,000 77 口 770,000
② 個 人 15 名 2,000 15 口 30,000				
会誌広告料	320,000	320,000	0	令和4年度広告料を含む
雑収入	268	833	△ 565	預金利息等
繰越金	1,691,732	1,373,167	318,565	前年度繰越
合 計	4,423,000	4,087,000	336,000	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要	
事務費	725,000	725,000	0		
項 目	需用費	25,000	25,000	0	消耗品費等、資料管理費
	役務費	650,000	650,000	0	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	50,000	50,000	0	全国産業教育フェア（福井大会）
会議費	160,000	60,000	100,000	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,650,000	2,650,000	0		
項 目	振 興 奨励費	985,000	985,000	①教育功労者表彰 200,000	
				②研究奨励助成 150,000	
				③作文表彰等 370,000	
				④永年会員表彰 0	
				⑤表彰状印刷 220,000	
				⑥表彰状筆耕料 45,000	
				⑦ロゴマーク(2031年度に必要) 0	
情 報 連絡費	1,655,000	1,655,000	0	①会報発行(2回分) 80,000	
				②会誌第61号発行 450,000	
				③作文集第34号発行 400,000	
				④HPリニューアル・更新費 720,000	
				⑤全産協参加費 3,000	
				⑥中央会図書費 2,000	
				⑦作文集・会誌合本費 0	
産学交流費	10,000	10,000	0	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	823,000	587,000	236,000	緊急対応	
合 計	4,423,000	4,087,000	336,000		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和5年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

会 長	ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長 (元・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長、元・株式会社東京都民銀行 頭取)	西 澤 宏 繁
副 会 長	株式会社カナック企画相談役	金 子 昌 男
〃	東京商工会議所常務理事	小 林 治 彦
〃	☆ 東京都立町田工科高等学校長	池 上 信 幸
理 事 長	東京都教育委員会教育長	浜 佳 葉 子
常 任 理 事	東京都教育庁都立学校教育部長	村 西 紀 章
〃	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	臼 井 宏 一
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長	長 谷 克 己
理 事	公益社団法人経済同友会常務理事	齋 藤 弘 憲
〃	一般社団法人東京経営者協会事業部長	海老澤 大 造
〃	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
〃	三和テクノロジーズ株式会社取締役会長	石 井 卓 爾
〃	株式会社昭和製作所取締役会長	舟久保 利 明
〃	新宿区教育委員会教育長	針 谷 弘 志
〃	荒川区教育委員会教育長	高 梨 博 和
〃	武蔵野市教育委員会教育長	竹 内 道 則
〃	☆ 世田谷区教育委員会事務局学務課長	斉 藤 洋 子
〃	☆ 豊島区教育委員会事務局学務課長	星 野 良 道
〃	東京誠心調理師専門学校理事長	廣 瀬 道 道
〃	学校法人小山学園理事長	山 本 匡 匡
〃	岩倉高等学校長	森 田 勉 勉
〃	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
〃	☆ 東京都立園芸高等学校長	並 川 直 人
〃	☆ 東京都立町田工科高等学校長	池 上 信 幸
〃	☆ 東京都立第五商業高等学校長	相 田 誠 一
〃	東京都立府中西高等学校長	小 川 直 哉
〃	☆ 東京都立青梅総合高等学校長	川 口 元 三
〃	墨田区立墨田中学校長	杉 浦 伸 一
〃	☆ 目黒区立第十一中学校長	田 井 俊 行
〃	東京都教育庁指導部長	小 寺 康 裕
〃	☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	信 岡 新 吾
〃	☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	西 牧 豊 実
理事・事務局長	☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当)	山 川 樹 林
常 任 監 事	☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括課長代理 (管理担当)	坂 元 郁 子
監 事	株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長	芦 澤 唯 志
〃	世田谷区立上祖師谷中学校長	柄 澤 茂 之

令和5年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	並川直人
東京都立府中工科高等学校長	鈴木誠
東京都立第三商業高等学校長	山田和人
東京都立東村山高等学校長	富川麗子
東京都立葛飾総合高等学校長	中村直樹
東京実業高等学校長	國分達夫
安部学院高等学校長	安部元彦
マリールイズ美容専門学校顧問	江原美規子
ハリウッド美容専門学校副校長	佐藤和彦
東京都立産業技術高等専門学校副校長	柴崎年彦
大田区立大森第八中学校長	保谷満
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	宗川良子
東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事	播摩靖文

作文選考委員会

東京都立瑞穂農芸高等学校長	大畑哲也
東京都立橘高等学校長	深澤栄次
東京都立江東商業高等学校長	智片将也
東京都立府中西高等学校長	小川直哉
東京都立晴海総合高等学校長	仁井田孝春
昭和第一学園高等学校工業部長	百瀬公博
京華商業高等学校教務主任	小口浩史
ハリウッド美容専門学校副校長	佐藤和彦
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	松尾守将
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課課長代理	林由美子
港区立三田中学校長	上原良枝
台東区立駒形中学校長	渡邊和彦
品川区立鈴ヶ森中学校副校長	大山剛史
世田谷区立上祖師谷中学校副校長	毛利慎治
世田谷区立三宿中学校長	濱川一彦
足立区立伊興中学校長	千葉千登勢
江戸川区立二之江中学校主幹教諭	吉見啓佑
調布市立第三中学校長	宇田川裕美
町田市立真光寺中学校長	矢島加都美
小金井市立小金井第二中学校長	川井まさよ
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	田中健太郎
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	福住貴夫

# 東京都産業教育振興会会則

## 第 1 章 総 則

第 1 条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第 2 条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

## 第 2 章 会 員

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

## 第 3 章 役員及び職員

第 5 条 この会に会長 1 名、副会長 3 名、理事 25 名以上 35 名以内及び監事 3 名をおく。

第 6 条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第 7 条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長及び東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の職にある理事をもって充てる。

3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。

4. 理事は理事会を組織する。

5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第 8 条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち 1 名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。

3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

#### 第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

#### 第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

#### 第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

#### 第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

#### 第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

#### 第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度、令和4年度

## 産 業 界 会 員 名 簿 ( 5 4 )

50 音順

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
1	株式会社 明石スクールユニ フォームカンパニー	〒103-0006 中央区日本橋富沢町 5-5 03-5695-5300 http://www.akashi-suc.jp	専修卒 四大卒	富士ヨット詰襟学生服及び、別注学校制服・体育着・実習服・企業ユニフォームを製造している制服メーカーです。 学校オリジナル制服としては、50校超の都立高校制服や、私立学校制服、公立中学校・小学校の標準服を製造しております。またデザート体育着も好評をいただいております。
2	株式会社 秋月電子通商	〒158-0095 世田谷区瀬田 5-35-6	四大卒	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用 応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接 販売。 世界各国の最新機器の日本への紹介。
3	あきる野商工会	〒197-0804 あきる野市秋川 1-8 あきる野ルピア 3階 http://www.akiruno.ne.jp/	四大卒	商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となっており、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。 現在 1500 を超える事業者が会員となっており、経営に関する相談、講習会等の実施、部会活動、地域カードの発行、創業支援施設やアンテナショップの運営など様々な活動を行っています。
4	有限会社 飯吉製作所	〒124-0023 葛飾区東新小岩 5-14-22 03-3697-5645	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	株式会社 エイコー	〒124-0024 葛飾区新小岩 2-7-4 サンシティ新小岩	高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	株式会社開倫塾	〒326-8505 栃木県足利市堀込町 145 0284-72-5945 http://www.kairin.co.jp	四大卒 大学院卒	創業 40 周年の学習塾。小学生・中学生・高校生を対象とします。北関東 3 県（栃木・群馬・茨城県）と東京都川の手地区（墨田・荒川・葛飾・足立区）に展開。自己学習能力の育成を教育目標とします。 毎年 5 月、全国模擬授業大会を開催。NIE に力を入れています。
7	株式会社 カナック企画	〒125-0054 葛飾区高砂 1-21-4 03-3692-7630 https://www.kinds.co.jp/	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒	弊社のカー AV 取付キット事業では市場シェア約 60% を占めており、最近ではカーナビの大画面化が進んでいることから、取付キットの需要が高まっております。また、安心・安全を製品テーマとした「園児バス置き去り防止装置」を 2023 年 4 月に販売開始致しました。今後もお客様のニーズを汲み取った製品づくりを行って参ります。 もう一つの事業であるカナレール事業では、新幹線をモチーフにした子供用の自転車ヘルメットやリュックサック、また大人でも使える腕時計や USB メモリなど様々な商品ラインナップを練り広げております。
8	亀有信用金庫	〒125-8508 葛飾区亀有 3-13-1 03-3603-0185 http://www.shinkin.co.jp/kameari/	短大卒 四大卒	当金庫は東京都東部、埼玉県南東部、千葉県戸田市に店舗を構える協同組織金融機関です。1920 年（大正 9 年）の設立以来、一度も合併することなく、事業を継続しており、令和 2 年 12 月に創立 100 周年を迎えました。金融機関の健全性や安定性を示す一つの指標である自己資本比率は都内信用金庫でトップクラスにあります。質の高い金融サービスをお客様に提供することにより、地域に愛され必要とされる信用金庫を目指して活動しています。
9	株式会社 川邑研究所	〒153-0063 目黒区目黒 1-5-6	専修卒 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。
10	株式会社キクチ	〒140-0013 品川区南大井 6-11-7 キクチビル 03-3767-0673 http://kikuchi-corp.com/	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス、設備管理サービス、電気計装工事、内装・補修工事、省エネソリューションビジネス。 キクチは、『人と地球と建物のより良い未来を切り拓く』ため、建物環境がいつでも安全・快適で省エネルギーであること、すなわち、『ビルの明日をまもる』ことを、企業使命と考えライフサイクルソリューションビジネスを展開しています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
11	株式会社 きらぼし銀行	〒107-0062 港区南青山3-10-43	四大卒	きらぼし銀行は、2018年5月に東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京の3行が合併し、新たなスタートを切りました。 「首都圏における中小企業と個人のお客様のための金融グループとして、総合金融サービスを通じて、地域社会の発展に貢献します。」という経営理念を掲げ、お客さまの新しい価値を創造する”東京発プラットフォーム”として、さらなる飛躍を目指します。
12	有限会社 光永ビルサービス	〒125-0062 葛飾区青砥6-4-9 03-3838-0341 <a href="https://koei-bs.com/">https://koei-bs.com/</a>	高校卒 四大卒	葛飾区で清掃業を営んでおります。 突然ですが、健康を守るためにキレイにすべきものは何でしょうか？弊社ではそれを「環境・カラダ・心」と考えています。そして清掃のプロとして環境をキレイにすることで、カラダと心をキレイにし健康に繋げていく。ただ目の前にある汚れをとるだけでなく、その先にある人々の健康や幸せを守ることこそが我々の仕事です。
13	株式会社 興銀不動産開発	〒125-0041 葛飾区東金町5-7-6 03-5699-5353 <a href="https://www.kougin-fudousankaihatsu.co.jp">https://www.kougin-fudousankaihatsu.co.jp</a>	短大卒	平成2年創業以来、地元を根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。仕事のデジタル化も進み、それを活用できるIT化に取り組んでおります。
14	株式会社 小葉印刷所	〒104-0042 中央区入船2-7-4	—	創業90年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
15	国光施設工業 株式会社	〒144-0041 大田区羽田空港1-7-1 <a href="http://www.kokko-shisetsu.co.jp/">http://www.kokko-shisetsu.co.jp/</a>	高校卒 専修卒 高専卒	創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光）を計画段階から建設、メンテ及び設備取り壊しまで長期に亘り担当するエンジニアリング集団です。
16	株式会社坂井電気	〒124-0023 葛飾区東新小岩2-22-1 03-5698-6426（代表） <a href="http://www.sakai-denki.com">http://www.sakai-denki.com</a>	高校卒 短大卒 四大卒	設立1979年 本社は葛飾区。支店は埼玉県さいたま市、千葉県佐倉市。電気通信工事業、電気工事業、電気定期調査 企業様との直接取引において長期の信頼関係を築いています。 経営理念は『社員のしあわせ』能力や、やる気もある残念な人（もったいない人）をなくすため、それぞれの潜在力を発揮できるように考えます。
17	三和テクノロジーズ 株式会社	〒102-8140 千代田区富士見1-6-1 03-5213-3035 <a href="https://sanwa-tech.co.jp/">https://sanwa-tech.co.jp/</a>	専修卒 四大卒 大学院卒	1947年に電気通信部品メーカーとして発足しました。光コネクタのパイオニアメーカーのひとつです。光コネクタのメーカーとしては日本及び海外のお客様に製品を提供しており、5G用製品など、現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。近年は信頼性の高さから、通信分野以外（新幹線等）で光トランシーバーが好評を博しております。今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。
18	三和電気計器 株式会社	〒101-0021 千代田区外神田2-4-4	高校卒	1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。 高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
19	実教出版株式会社	〒102-8377 千代田区五番町5 03-3238-7777 <a href="https://www.jikkyo.co.jp/">https://www.jikkyo.co.jp/</a>	四大卒 大学院卒	高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
20	株式会社昭和製作所	〒143-0015 大田区大森西2-17-8 03-3764-1621 <a href="http://www.showa-ss.jp">http://www.showa-ss.jp</a>	高校卒 四大卒	弊社は、昭和27年創立、現社長は3代目になります。インフラ等で用いられる材料の性質を調べるために様々な工作機械を用いて製作する「材料試験片」と、インフラそのものを壊さないで調べるための「非破壊試験片」を主として製作しています。その他に、工作機械加工以外の様々な社外技術を利用する試作品や特殊部品の製作も行います。2015年にISO9000、JISQ9100の資格を取得し、2020年に基準適合事業主（ユースエール）認定を受けています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
21	株式会社 スカイウェーブ	〒 124-0025 葛飾区西新小岩 4-7-8  03-5670-3168  <a href="http://sky-wave.co.jp/">http://sky-wave.co.jp/</a>		創立 65 年、住宅関連の金属加工を主として高い技術と豊富な実績があります。特に機械設備が充実しており、機械加工、板金加工、プレス加工、溶接などの金属加工の一連の工程をワンストップで受注できる体制があります。 葛飾区に本社工場を構え、茨城県にも工場を展開しています。
22	株式会社 杉野ゴム化学工業所	〒 125-0063 葛飾区白鳥 1-4-9  03-3691-5732 <a href="http://www.sugino-gomu.co.jp">http://www.sugino-gomu.co.jp</a>	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	個人・法人のお客様向けに、独自の技術を用いた高性能のゴム製品を開発・製造・販売している、東京都葛飾区の町工場（まちこうば）です。一般のお客様には、「ラバー君（熱を加えるとゴムになる、不思議な粘土）」「地震耐蔵（家具などの下に敷いて、地震の時に動いたり倒れたりするのを抑える製品）」などの自社製品を開発・製造・販売しています。事業者様向けには、防振ゴム、電気関連ゴム、その他各種のゴム製品を開発・製造・販売している他、ゴム製品に関わる、各種の技術的相談・技術指導も承っております。
23	株式会社 鈴木塗装工務店	〒 120-0022 足立区柳原 2-30-14  03-3882-2828  <a href="http://www.suzukitosou.com">http://www.suzukitosou.com</a>	高校卒 専修卒 短大卒 四大卒	鉄道橋梁の塗装工事を発祥とし、創業 85 年以上の歴史があります。現在は、全国主要都市に支店・営業所を構え、ビル・マンションや工場等のリフォーム工事から橋梁などの大型構造物の塗装工事まで、様々な建造物の改修工事を行っております。また、安全・品質・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、お客様のご要望にお応えしております。
24	株式会社 セイブ東京本店	〒 140-0013 品川区南大井 6-10-16  03-5471-5971	高校卒 四大卒	都内、神奈川県内の電気設備工事施工会社で社員数 50 名、創立 60 周年を迎える会社です。オフィスビルや商業施設などの受変電設備、照明設備、動力設備等をご要望に応じて技術力と機動力で新築からリニューアル工事まで施工をしており「信頼」と「実績」と「情熱」で全社一丸となり 100 年企業を目指していきます。大型再開発プロジェクト、学校、病院、テーマパーク等施工実績多数あり。国家資格の電気工事士、施工管理技士等の資格取得も入社後は全面バックアップしております。
25	青和信用組合	〒 125-0054 葛飾区高砂 2-40-4	高校卒 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。
26	株式会社関口製作所	〒 124-0025 葛飾区西新小岩 5-15-1  03-3692-0357		堅実経営を信条に皆様と共に歩み、刻々と変わる社会、経済、環境の中で『顧客が満足する物作りを通じ社会に貢献する』ことを経営理念に「高品質、短納期、低コスト」の実践で、当社の金属加工・製品に厚い信頼をいただいております。
27	第一科学株式会社	〒 113-0021 文京区本駒込 5-28-5	高校卒	小学校、中学校、高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売。
28	株式会社 第一成和事務所	〒 103-8214 中央区日本橋馬喰町 1-12-3 Daiwa 日本橋馬喰町ビル 3 階  03-3669-2831 <a href="https://www.d-seiwa.co.jp/">https://www.d-seiwa.co.jp/</a>	四大卒	1957 年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターシップ・ボランティア・キャリア教育等体験活動保険」を提供させていただいております。
29	ダイヤユーキ 株式会社	〒 125-0053 葛飾区鎌倉 4-33-7  03-3671-2181		1978 年の創業以来、一貫してアクリルとポリカーボネートの素材を扱っています。アクリルはプラスチックの中で、最も透明性が高く、ポリカーボネートは耐摩耗性に優れています。 これらの特性を生かした透明パイプ、丸棒、厚板、ブロック、半球ドーム等の製品の開発・販売をメインに、両素材を扱うプロの集団として、特色ある企業を目指しています。
30	有限会社 高橋木箱製作所	〒 124-0022 葛飾区奥戸 2-7-7  03-3692-5111		昭和 33 年に各種プラント、精密機器、産業機械など木箱梱包会社として創業し、半世紀を超える歴史と経験を有しております。他社に先駆けてコンピュータソフトを導入し、梱包見積・設計システムを構築し、ソフトウェア事業を開発しました。梱包・包装技術の知見を活用してツーバイフォー住宅パネルの工場生産へと進化させています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
31	株式会社 竹尾	〒101-0054 千代田区神田錦町 3-12-6 03-3292-3622 http://www.takeo.co.jp/	高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒	1899年の創業以来、「紙の専門商社」として、一般印刷用紙とファインペーパーの販売を通して環境と文化に貢献してきました。特にファインペーパーでは、メーカーと共同開発し、国内市場の60%をシェアし市場を牽引してきました。ファインペーパーとは色合いや風合いで人間の五感に訴える紙であり、書籍、パッケージ、カタログ、カレンダーやタグ等数多くの場面で使われております。また、神田の見本帖本店、青山見本帖、大阪の淀屋橋見本帖及び福岡見本帖にて紙の販売の他、紙、デザインとテクノロジーに関する情報を発信しています。
32	株式会社 チバダイス	〒125-0054 葛飾区高砂 1-26-2 03-3696-4441 http://www.chibadies.co.jp	高校卒 高専卒 専修卒 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
33	株式会社 ツバサ・ 翼学院グループ	〒125-0054 葛飾区高砂 8-28-12	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	発達障害のお子様をはじめとして約400名の塾生の学習指導を行なっています（青砥駅前校、青砥北口校、青砥西口校、高砂校、水元校）。児童発達支援・放課後等デイサービス、相談支援事業所、カウンセリングルームを併設。また第一薬科大学付属高校学習センター、ベネッセと連携した英語教室などを運営しています。「発達障害・グレーゾーンの子の受験を突破する学習法」（あさ出版）はアマゾン教育書ランキングNo1を獲得。第7回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成28年東京都経営革新奨励賞受賞。
34	鉄道機器株式会社	〒103-0021 中央区日本橋本石町 4-6-7 03-3271-5341	高校卒 高専卒 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。特に新幹線は東海道新幹線、山陽新幹線、上越新幹線、東北新幹線、九州新幹線、北陸新幹線、北海道新幹線いずれも高速分岐器の納入実績があり、海外にも最近ではミャンマー、インド等へ輸出をしております。
35	東京ガス株式会社	〒105-8527 港区海岸 1-5-20	高校卒 高専卒 四大卒 大学院卒	東京ガスグループは1885年の創業以来135年余りにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。エネルギー業界も変革の時代を迎えており、東京ガスも電力・海外・新規サービス等、多様な事業を展開し、様々な側面から「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。
36	東京商工会議所	〒100-0005 千代田区丸の内 3-2-2 6F https://www.tokyo-cci.or.jp/	四大卒	東京商工会議所は東京23区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。
37	東京書籍株式会社	〒114-8524 北区堀船 2-17-1 https://www.tokyo-shoseki.co.jp/	四大卒 大学院卒	1909（明治42）年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書やアプリなどのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。
38	公益社団法人 東京都専修学校 各種学校協会	〒151-0053 渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6F 03-3378-9601 https://tsk.or.jp	四大卒	東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は316校（2023年11月現在）
39	有限会社 東京プリンテック	〒154-0023 世田谷区若林 1-23-4	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
40	ドリームガーデンズ 株式会社	〒114-0003 北区豊島 8-1-1 03-3927-1123 http://www.angel-foods.com	四大卒 大学院卒	1965年創業、「あったらいいなを、明日の心ときめく暮らしに」を経営理念に幼稚園給食のリーディングカンパニーとして、一日3万食を提供しております。幼稚園給食としては日本一の製造数を誇っております。事業内容としましては、メイン事業のフードサービス事業、介護事業、教育事業、衛生事業、不動産賃貸事業があり、5つの事業を運営しています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
41	株式会社 日刊工業新聞社	〒 103-8548 中央区日本橋小網町 14-1	四大卒 大学院卒	「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とする我が国唯一の産業総合紙。創刊は1915年(大正4)。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。
42	日本広告株式会社	〒 170-0001 豊島区西巣鴨 4-19-1 03-3918-3161 http://nihon-ad.c.ooco.jp	高校卒 専修卒 四大卒	昭和20年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。
43	日本自動ドア株式会社	〒 165-0031 中野区上鷲宮 3-16-5	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
44	信川化学工業株式会社	本社：〒 124-0022 葛飾区奥戸 2-20-18 石岡工場：〒 315-0002 茨城県石岡市柏原 18-1 TEL: 0299-23-7181	高校卒	当社は、射出成形によるプラスチック製品の製造をしております。射出成形機を多数保有し、食品・医療・建設・機械・家電・自動車・日用品等様々な分野での実績がございます。現在は、特殊密閉容器製造に力を入れております。
45	株式会社 箸勝本店	〒 101-0021 千代田区外神田 3-1-15	—	明治43年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め300種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
46	株式会社 ハチオウ(八櫻)	〒 130-0004 墨田区本所 4-29-2 TEL :03-3625-8077 https://www.8080.co.jp	高校卒(予定) 高専卒(予定) 短大卒 四大卒 大学院卒	化学系廃棄物の処理、リサイクル、フロンガスの回収・破壊処理など、官公庁・大学・研究所・工場などから出る廃棄物の問題解決する会社です。化学系廃棄物処理というと、化学知識や専門性が必要と思われませんが、文系出身社員も多数活躍していて、今後は高卒、高専卒も採用して行く所存です。私たちの仕事は、環境や人体を守ることに直接的に関係し、皆さんの生活にはなくてはならない存在です。ハチオウは化学物質の恩恵が、持続可能な社会と調和するために挑戦し続けます。
47	日野自動車株式会社	〒 191-8660 日野市日野台 3-1-1	中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
48	株式会社 日之出製作所	〒 125-0052 葛飾区柴又 3-21-8 03-3607-1843		昭和33年創業、オイルシール及び工業用パッキンを主力にゴム成型加工、樹脂製品、機械加工の設計、製作を自社一環の生産体制のもとで、豊富な経験から技術を開発し、新しいニーズに着実に応えてきました。近年業界は益々多様化をたどり、適格な対応を必要とされています。生産現場から出る技術と開発力を生かし、徹底した品質管理の元でユーザーの立場に立って考える小回りのきくメーカーとして歩み続けます。
49	ベストワールド株式会社 (休会中)	〒 101-0047 千代田区内神田 1-7-4 03-3295-4111	四大卒	海外視察・研修旅行をお世話して50年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。
50	松川電気株式会社	〒 124-0023 葛飾区東新小岩 3-16-6 03-3691-8611 http://www.matsukawa-denki.co.jp	高校卒 四大卒	機械装置メーカー及び自動車メーカーの生産設備の電気工事・計装工事及び機械装置・試験装置をコントロールする制御盤の設計・制作を行っています。事業所として川崎営業所・相模原営業所及び本社工場があります。制御盤の制作についてはISO9001を平成17年に取得し現在まで継続しています。お客様の要望を的確に捉え対応することにより信頼を得ています。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
51	ミクニ化学工業株式会社	〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-7-20 03-3697-2121		透明石けん・化粧石けんの商品企画及び製造販売、トイレタリー製品の製造販売を行っています。培ってきた技術と次世代に求められる先進性とで、「売る商品」ではなく「売れる商品」を提供できるよう開発から製品まで社員全員で努力してきました。 私たちが作り出す石けんが「健やかで清潔でありたい」というお客様の思いに、少しでも役立つように製品作りに日々励んでおります。
52	山崎教育システム株式会社	〒189-0003 東村山市久米川町 5-33-24	四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売（全国代理店 350 社）。
53	読売新聞東京本社 (休会中)	〒100-8055 千代田区大手町 1-7-1	四大卒 大学院卒	「読売新聞」は 1874 年(明治 7 年)11 月の創刊。全国紙として成長し、1994 年に発行 1000 万部を達成した。発行部数は世界一。2011 年に「読売 KODOMO 新聞」、2014 年に「読売中高生新聞」を創刊した。
54	涼和総合法律事務所 弁護士 飯田 豊浩	〒105-0001 港区虎ノ門 2-2-5 共同通信会館 9 階 03-3586-2418 <a href="http://www.ryowa-law.com/">http://www.ryowa-law.com/</a>	—	2003 年に弁護士登録し、21 年目を迎えました。 2011 年以降、埼玉県内の地方自治体の教育委員会顧問として、学校や教育委員会からの様々なご依頼に対応すると共に、学校の法的対応に関する研修の講師も務めています。 学校で起きる諸問題への対応のほかにも、企業からのご依頼（契約書の作成・確認、債権回収、労務対応等）、個人からのご依頼（遺言・相続、離婚、不動産取引等）に幅広く対応すると共に、遺言や相続に関する講演も行っています。

## 私立高等学校会員名簿(16)

50音順

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国高等学校 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 <a href="https://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/">https://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/</a>	全	普通科 (160) 商業科 (80) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	昭和13年創立以来「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科・商業科の新入生は1年次は同一カリキュラムで学び、2年進級時に普通科A(一般教養)・B(進学)、商業科「会計」・「情報処理」の4コースから学科・コースを選択する。また卒業時に家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格・衛生看護専攻科(2年課程)は看護師受験資格を取得する。上級学校には上記衛生看護専攻科の他に大学(人間文化学部)・短期大学(家政科・栄養士資格)・保育専門学校(幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格)がある。
2	安部学院高等学校 〒114-0005 東京都北区栄町 35-4 <a href="https://www.abe-gakuin.ed.jp/index.html">https://www.abe-gakuin.ed.jp/index.html</a>	全	商業科 (200)	1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満81年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。令和4年度(2022年度)の新入生から、小型ノートパソコンを導入し、授業の中で活用していきます。2年生からは簿記や秘書検定など、興味・得意分野に分かれて授業を選択出来る「科目選択制」になります。商業科等の検定試験で資格を取得し、さらに上級を目指します。卒業後の進学や就職にも取り組みながら、家庭的な校風の中で過ごします。
3	岩倉高等学校 〒110-0005 台東区上野 7-8-8 <a href="https://www.tky-iwakura-h.ed.jp">https://www.tky-iwakura-h.ed.jp</a>	全	普通科 (300) 7 限制 (100) 6 限制 (200)  運輸科 (120)	我が国初の鉄道学校として明治30年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成26年度から「男女共学」、「普通科・運輸科の2科システム」を実施し、学校の変革を進めている。令和4年度に普通科を7限制・6限制と改編し、進学教育に注力している。「正心第一」の校訓のもと、「仲間とともに、主体的に学び、考え、創造し、そして行動していく力を身につける」という教育目標を達成するため、充実した環境で多様な教育活動を展開している。
4	NHK 学園高等学校 〒186-8001 国立市富士見台 2-36-2 <a href="https://www.n-gaku.jp/sch/">https://www.n-gaku.jp/sch/</a>	通	普通科 (3475)	昭和38年(1963年)にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送(NHK 高校講座)を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週3日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。
5	大森学園高等学校 〒143-0015 大田区大森西 3-2-12 <a href="https://www.omori-gakuen.ed.jp">https://www.omori-gakuen.ed.jp</a>	全	普通科 (280) 特選コース (40) 選抜コース (80) 総進コース (160) 英語コース(2年次より) 工業科 (80) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース	昭和14年大森地区中小機械業者62工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。平成17年に普通科を設置し大森学園高等学校と現在の校名に変更。現在普通科は4コース。特選コースは6教科8科目に対応するカリキュラムで国立大学、選抜コースは難関私立大学、総進コースは有名私立大学への進学を目指す。また英語コース(総進コースより2年次から選択)はグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。工業科は1年次に工業各分野の基礎を学び、2年次より機械・電気・情報の3コースに分かれ、各種資格も取得しながら専門的技術と知識の習得を目指す。
6	科学技術学園高等学校 〒157-8562 世田谷区成城 1-11-1 <a href="https://tsushin.kagiko.ed.jp/">https://tsushin.kagiko.ed.jp/</a>	通	普通科 (1,200) 電気科 (80) 機械科 (450)	昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和52年現校名に変更する。企業内訓練校を中心とした技能連携コースと個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「eラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。また、様々な分野で海外へ留学する生徒も多数在籍している。
7	羽田国際高等学校 ※令和6年度より校名変更 (蒲田女子高等学校) 〒144-8544 大田区本羽田 1-4-1 <a href="https://www.kanno.ac.jp/haneda/">https://www.kanno.ac.jp/haneda/</a>	全	特別進学 40 総合進学 144 幼児教育 36	「グローバル&ローカル」をテーマに、「地球規模で考え、足元から行動する」国際人材を育成する。特別進学は少人数で「伸びしろを鍛える・学び残しを作らない・綿密な面談」で徹底した学習指導を展開し、難関大進学を実現する。総合進学は独自のキャリア学習「WINGS 探求」を中心に、「自分探し・基礎学習と学び直し・豊富なフィールドワーク」で目標大学進学を支援する。幼児教育(女子のみ)は併設の幼稚園・保育園・専門学校と連携した実践的なカリキュラムで、将来の幼稚園教諭・保育士を目指す。
8	京華商業高等学校 〒112-8612 文京区白山 5-6-6 <a href="https://www.keika-c.ed.jp/">https://www.keika-c.ed.jp/</a>	全	商業科 150名	創立者磯江潤が「豊かな実務知識をそなえた経済人の養成」を目的として1901年に設立された学校です。その精神を永きにわたり実践し、多くの優秀な人材を輩出してきました。生徒個々の可能性を大切に個性を伸ばすことはもちろん、資格取得に対応したカリキュラムの編成や放課後講習・夏期講習等を実施しています。自己肯定感を育てながら、進学実績も年々増加しています。実学教育を中心として人間形成に重きを置き、人生の宝物の獲得に主眼を置いた三年間は、卒業生たちの高い満足感に繋がっています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
9	昭和一学園高等学校 〒190-0003 立川市栄町 2-45-8 <a href="https://www.sdg.ed.jp">https://www.sdg.ed.jp</a>	全	普通科 (576) 特別選抜コース (28) 選抜進学コース (120) 総合進学コース (400) デザインコース (28)	1940(昭和15)年昭和一工業学校として創立。1989(平成元)年より昭和一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2024(令和6)年4月より普通科に新たにデザインコースを設置。グローバル化への対応を含め、生徒一人ひとりの希望に沿ったキャリア教育を目指す。工学科は2021(令和3)年度より募集停止。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。
10	昭和鉄道高等学校 〒170-0011 豊島区池袋本町 2-10-1	全	鉄道科 (200)	校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和3年(1928年)創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめて、現在まで20,000名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成16年(2004年)に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。
11	大成高等学校 〒181-0012 三鷹市上連雀 6-7-5 <a href="https://www.taisei.ed.jp/">https://www.taisei.ed.jp/</a>	全	普通科: 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40)	1897年大成学館尋常中学校として創立以来、校名由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の個性や可能性をさらに磨き、将来社会に役立つ人間として大きく成長するように、一人ひとりを丁寧に育てる教育方針のもと発展している高等学校です。特に学んだことを活かすための知力を育て、人としての徳を重んじ、課題発見力、問題解決力を身につける教育および何事にも積極的にチャレンジしていく心の教育により、時代に合った人材育成を行っています。情報進学コースは時代を先取りしたカリキュラムが組み込まれているコースです。
12	中央学院大学中央高等学校 〒136-0071 江東区亀戸 7-65-12 <a href="http://www.cguch.ed.jp/index.php">http://www.cguch.ed.jp/index.php</a>	全	普通科 (50) 商業科 (50)	本校は令和2年に120周年を迎えました。永い歴史と伝統の中で、「誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み 反省と研鑽を忘れるな」の建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。全生徒がタブレットを持ち、電子黒板兼用プロジェクターを活用したICT教育を実施し、進学においても中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導をおこなっています。
13	東京実業高等学校 〒144-0051 大田区西蒲田 8-18-1 <a href="https://www.tojitsu.ed.jp/">https://www.tojitsu.ed.jp/</a>	全	機械科 (35) 電気科: 電気コース (35) ゲームITコース (35) 普通科: ビジネスコース (70) 総合コース (140) 探究コース (35)	1922年創立の総合学園として、各科、各コースの生徒はそれぞれが目的を持ち、「仲間とともに前に進む。」「自分らしく。力強く。」をモットーに学校生活を送っています。そして、将来を見据えたキャリア教育である「フェニックスプログラム」を独自開発し、生徒一人一人の輝ける未来を支えつつ「探究学習」を推進して、目的意識の高い進路実現を果たしていきます。
14	日本工業大学駒場高等学校 〒153-8508 目黒区駒場 1-35-32 URL <a href="http://nit-komaba.ed.jp/">http://nit-komaba.ed.jp/</a>	全	普通科: 特進コース (35) 理数特進コース (35) 総合進学コース (105) 文理未来コース (70)	明治40年創立の本校は工業教育一筋に運営して来ましたが、平成20年に普通科3コース(特進・理数特進・総合進学)を併設して中堅進学校を目指す方途を選びました。この10年間の普通科運営の成果を基礎に3コースに加え“つくる喜びの体験”を大切にした「文理未来コース」を設け、令和3年度より普通科専一校として新たな目標に向かってスタートを切りました。「高い自己目標の実現と楽しい学校生活の調和」を目指すこと、周りには優しく、自己には厳しく律する勁い心を育む努力を続けること、を掲げ日々、生徒と向きあっています。
15	日野工業高等学園 〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 <a href="http://www.hino.co.jp/hinogakuen/">http://www.hino.co.jp/hinogakuen/</a>	通	(60)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内訓練校です。科学技術学園高等学校と連携し、高等学校教育を学びながら専門技能の習得を行います。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があり、生産職場での実習も行います。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。
16	広尾学園小石川高等学校 〒113-8665 東京都文京区本駒込 2-29-1 <a href="https://hiroo-koishikawa.ed.jp/">https://hiroo-koishikawa.ed.jp/</a>	全	令和6年度より高校からの募集なし 中学のみ	2021年4月より校名を広尾学園小石川高等学校と変更し、新しい一歩をスタートしました。現代のグローバル化が進み多様性が求められる時代を生きる、これからの生徒たちのために、知識だけではなく、ものごとの本質を探究する学びを提供します。インターナショナルコースは、各分野の外国人教員が英語で授業を行うコースです。本科コースは、1年から本格的キャリア教育プログラムを経験して視野を広げ、学習習慣を確立します。

## 都立高等学校会員名簿(63)

学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
<b>農業に関する学科</b>			
1 1 〒158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 https://www.metro.ed.jp/tokyo.jp/	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	1908年(明治41年)に創立し115年の歴史を有する、全国農業系高校の中心校です。100年前に日本からサクラを送ったお礼に米国から頂いた「ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、107年の樹齢を重ねています。さらに、徳川三代将軍家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にあります。全日制は園芸科、食品科、動物科があり、「体験・体感」を重視し、生徒の多様な進路を実現しています。進学が9割、就職が1割で、生徒の第一志望の実現を図っています。スマート農業やデータサイエンスに関する先端技術の学習にも力を入れています。
1 2 〒158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 https://www.metro.ed.jp/engei-he/	定	園芸科 (30)	1908年(明治41年)に創立し115年の歴史を有する農業高校です。1学年1クラスです。学校の雰囲気は落ち着いていて、安心・安全な学校生活を送ることができます。地域と連携した活動や近隣の官公署への花壇植栽などを行っています。農業実習とともに基礎学力の定着と向上を重視したカリキュラムと地域連携による進路指導が充実しています。卒業までに国家資格、造園技能士3級またはフラワー装飾技能士3級の取得を目指します(合格実績100%)。三年修業制とともに大人を対象とした園芸技術専修生制度もあります。
2 1 〒183-0056 府中市寿町 1-10-2 http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	【農業に関する学科】 都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 【家庭に関する学科】 服飾科 (35) 食物科 (35)	全日制課程は、『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を未来の生徒像として、普通科教育並びに農業・家庭に関する専門教育を通じて、個性豊かで想像力あふれ、豊かな感性と思いやりの心をもつ人材を育成する。農業に関する学科(都市園芸科、緑地計画科、食品科学科)では、都立高校初の東京都GAP認証取得や、府中市と連携した環境保全活動に取り組んでいる。都立高校唯一の学科である家庭に関する学科の服飾科と食物科(調理師免許が取得できる)では、ファッションクリエイターや食生活の充実に貢献する調理師を育成している。
2 2 〒183-0056 府中市寿町 1-10-2 http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/	定	食品化学科 (30) 普通科 (30)	定時制課程では、「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科および食品化学科としての特色ある教育活動を展開し、将来のスペシャリストとして必要な基礎・基本を身に付けるとともに規範意識を向上させ、一人ひとりの進路実現を目指している。
3 1 〒167-0035 杉並区今川 3-25-1 http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	明治33年創立。都立農業系高校の中で一番歴史のある学校です。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や農場など広大な校地を有し、生徒は夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取り組み、持続可能な産業社会を担う人材の育成を目指しています。都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作り、保育園・小学校等の児童との農場体験活動など、普段の学習を生かせる場も多く、生徒は主体性と自己有用感を育てています。都立高校唯一の馬術部を設置。東京都GAP、JGAP認証取得。
3 2 〒167-0035 杉並区今川 3-25-1 http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/	定	農芸科 (30)	定時制課程農芸科は昭和23年4月に生徒定員4学級160名として全日制課程に併設され、昭和48年4月に4学級120名に改組され、令和2年に創立70周年を迎えました。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や温室、農場などを有しており、生徒は落ち着いた雰囲気の中で、夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。学習面では普通科目とともに園芸・食品分野の農業の専門科目を少人数で学習し、知識・技術を確実に身に付けています。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」の農芸三訓のもとで、基本的な生活習慣を身に付けています。さらに、点字図書館と連携した地域貢献活動にも取り組んでいます。
4 1 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1 https://www.metro.ed.jp/nosan-h/	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2学科4クラスを設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験しながら学んでいる。キャリア教育の充実や農業の6次産業化を踏まえた実践的な学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをとおして自己の可能性を伸ばさせるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。
4 2 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1 https://www.metro.ed.jp/nosan-he/	定	農産科 (30)	定時制は、農産科を擁し、園芸系と食品系の両方を学べる農業高校として、農業の6次産業化を踏まえた実践的な学習など、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開しています。園芸系は、野菜分野では有機無農薬栽培や不耕起栽培を大きな特長としており、また、草花分野では花弁の栽培やフラワーアレンジメントなどを学びます。食品系は、食品の素材の特性を生かした、パン・和洋菓子・ジャム・味噌・ソーセージなどの日常的な食品の加工を中心に学んだり、食品の分析(定性・定量)などを学習します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
5   1	都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 <a href="https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-h/">https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-h/</a>	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	生命 (いのち) に学ぶ学校～生命 (いのち) に学び夢を叶える～をキャッチコピーに、地域密着型の教育を推進している。園芸科学科の駅や町をはじめ都民広場での花壇作り。畜産科学科の移動動物園や動物ふれあい体験活動。食品科の江戸東京野菜を用いた「七色唐辛子」による地域活性化プロジェクト。生活デザイン科の高齢者施設や保育所等への訪問とボランティア活動などの取組みは、地域から大きく期待されている。
5   2	都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 <a href="https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-he/">https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-he/</a>	定	併合科 (普通・農業) (30)	校訓「至誠」「勤勉」「創造」をもとに、普通科の生徒も農業を学び、「生命 (いのち) に学ぶ学校」としての特徴を発揮し、生命や環境についての学習を通して「知る」「わかる」「できる」「つかう」の4ステップで生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、豊かな心をもつ自立した社会人を育成する学校を目指しています。里山保全への取組や瑞穂町ボランティア、農業ボランティアなど、地域密着型の教育を推進しています。
<b>工業に関する学科</b>				
6	都立足立工科高等学校 〒123-0841 足立区西新井 4-30-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/adachikoka-h/">https://www.metro.ed.jp/adachikoka-h/</a>	全	総合技術科 (140)	本校は、昭和38年に開校し、平成9年の学科改編で総合技術科となりました。令和4年度の新学習指導要領導入に伴い教育課程を見直し、新たに機械コース・電気システムコース・制御システムコース・情報コミュニケーションコースの4コースとなりました。1学年では全員共通の科目を学習し、2学年から希望のコースを選択します。2学年全員のインターンシップでは、足立区内の企業を中心に地域と連携したキャリア教育を実施しています。生徒の特性に合わせたきめ細かい指導で、希望進路実現に取り組んでいます。
7   1	都立荒川工科高等学校 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/arakawakoka-h/">https://www.metro.ed.jp/arakawakoka-h/</a>	全	電気科 (35) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	「進路指導重点主義」を教育理念とし、基礎的・基本的な知識・技術及び規範意識をもって自らの発言や行動を律することができる力を基盤として、ものづくりの楽しさを感じ、働くことの意義を理解し、様々な問題や課題の解決を図ることができる人材を育成します。令和5年度より、「TokyoP-TECH」事業に取り組み、IT人材育成のための新たな教育プログラムを開発・実施します。在学中は資格の取得や検定の合格を目指して、充実した高校生活へと導き、知・徳・体をバランスよく育成する学校を目指します。
7   2	都立荒川工科高等学校 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/arakawakoka-he/">https://www.metro.ed.jp/arakawakoka-he/</a>	定	電気・電子科 (30)	本校は、都立学校唯一の電気系の専門学科のみを設置する夜間の工科高校です。電気科と電子科の二つの学科を設置し、1・2年生で基礎を学び、3・4年生では各分野の専門的な知識・技術を深めるなど、ゆっくり学ぶ学習環境の中で進路実現を図っています。また、電気工事士をはじめ、各専門分野の資格取得にも力を入れています。専門的な「学び」を生かして、荒川区と連携した「小学生電子提灯づくり」を実施するなど、地域連携を推進し社会貢献活動に取り組んでいます。
8	都立葛西工科高等学校 〒132-0024 江戸川区一之江 7-68-1	全	機械科 (35) 電子科 (35) 建築科 (70) デュアルシステム科 (35)	昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になりました。 ①地域産業会と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元の「イルミネーション祭」とおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポート等、様々な機関と連携し地域貢献をおとした、工業人・職業人の育成を目指しています。
9   1	都立北豊島工科高等学校 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakoka-h/">https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakoka-h/</a>	全	都市防災技術科 (140)	大正9年に創設され令和2年に100周年を迎えた伝統ある工業高校です。令和6年度より学科改編し全国初の「都市防災技術科」として再スタートします。開校以来の電気と機械の教育力を生かしながら社会に役に立つ、貢献できる人材を育成する新しいタイプの都市防災技術科を目指します。電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などのほかにも防災士の資格やガス溶接、小型パワーショベルなどの技能講習を実施し防災を意識した資格取得も目指します。地域との連携をより強化し都市防災技術科を認知していただけるよう、ものづくりだけでなく防災の視点からも人材育成を行っています。
9   2	都立北豊島工科高等学校 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakoka-he/">https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakoka-he/</a>	定	機械科 (30)	歴史は全日制と同様で100年を超えている。現在では機械科単科の定時制工業高校として生徒の育成を行っている。募集人員は学年1クラス、4学年で各学年30名の募集定員である。ものづくりの加工技術技能を習得し、確かな進路実現を目指し人材育成に取り組んでいる。少人数での教育を行い、基礎学力定着を図り、近年では進路決定100%、定着率も90%以上と非常に上がっている。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
10   1	都立蔵前工科高等学校 〒 111-0051 台東区蔵前 1-3-57 <a href="https://www.metro.ed.jp/kuramaekoka-h/">https://www.metro.ed.jp/kuramaekoka-h/</a>	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	創立 100 年の伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。産業界における技術革新や DX 等に対応できるスペシャリストの育成を目指した、ものづくり人材育成教育を実践している。令和 5 年度より機械科に「ロボティクスコース」を新設し、将来のロボット Sier の育成を進める。進路指導では、就職希望者は高度な技術・技能と資格取得により企業で即戦力となる人材、進学希望者は理工系大学へ進学する学力を確実に身に付ける指導を実践している。
10   2	都立蔵前工科高等学校 〒 111-0051 台東区蔵前 1-3-57 <a href="https://www.metro.ed.jp/kuramaekoka-he/">https://www.metro.ed.jp/kuramaekoka-he/</a>	定	建築工学科 (30)	創立 100 年の伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。学修方法によっては、3 年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11   1	都立工芸高等学校 〒 113-0033 文京区本郷 1-3-9 <a href="http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100 年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。開校以来 2 万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
11   2	都立工芸高等学校 〒 113-0033 文京区本郷 1-3-9 <a href="https://www.metro.ed.jp/kogei-he/">https://www.metro.ed.jp/kogei-he/</a>	定	マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	本校は、明治 40 (1907) 年京橋区に誕生し、昭和 2 (1927) 年に水道橋に移転しました。そしてその後 100 年を超える歴史と輝かしい伝統を受け継いで、今日に至っています。本校の校訓は「誠実・元気・信愛・規律」です。工業・デザイン系高等学校の特色ある授業内容を全都から多くのものづくりに興味のある生徒たちが通学し、創作活動を続けています。4 年間しっかり努力した生徒には大学、短大、専門学校へ進学する道も開かれています。充実した学校生活を送ることができる全国でも有数のスクールです。
12	都立小金井工科高等学校 〒 184-0004 小金井市本町 6-8-9 <a href="https://www.metro.ed.jp/koganeikoka-he/">https://www.metro.ed.jp/koganeikoka-he/</a>	定	機械科 (30) 電気科・電子科 (30)	平成 22 年 3 月に全日制課程が閉課程となり、平成 22 年度から多摩地区唯一の定時制単独の工業高校です。思いやりをもって他者と協働し、その時代に貢献できる社会人の育成を目指して、授業だけでなく資格の取得に向けて様々な講習会を行っています。
13	都立杉並工科高等学校 〒 167-0023 杉並区上井草 4-13-31	全	IT・環境科 (140)	IT・環境科の学びは、体験型、課題解決型で教科横断的です。3 年間通じて野外フィールドワークや企業・大学訪問などを実践し本物に触れる機会を設けています。五感を刺激して探求心や好奇心を育みます。授業は探求活動です。教室で知識を覚えるだけの授業ではなく、実験や実習を通じて知識と知識を関連付けながら思考力・判断力・表現力を磨きます。そして、仲間と一緒に活動する中で協働する力を身に付けます。国語や数学、英語など不変的な科目で学ぶ様々な知識を、IT や環境をテーマに体系化し教科横断的に学ぶのが IT・環境科の学びです。
14   1	都立墨田工科高等学校 〒 135-0004 江東区森下 5-1-7 <a href="https://www.metro.ed.jp/sumidakoka-h/">https://www.metro.ed.jp/sumidakoka-h/</a>	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	令和 2 年に創立 120 年を迎えた都内有数の伝統校である。機械科、自動車科、電気科、建築科の 4 つの専門学科を設置した工業系高等学校として、自治・勤労・敬愛の校訓のもと、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や各種検定試験の合格に向けた指導を行うほか、外部人材を活用した実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100% を維持している。これまでに多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍しており、国内はもとより海外にも活躍の場を広げている。
14   2	都立墨田工科高等学校 〒 135-0004 江東区森下 5-1-7 <a href="https://www.metro.ed.jp/sumidakoka-he/">https://www.metro.ed.jp/sumidakoka-he/</a>	定	総合技術科 (30)	令和 2 年に創立 120 年を迎えた都内有数の伝統校である。総合技術科として括り募集を行い、1 学年 2 学期より機械、電気、自動車、建築・大工の 4 コースに分かれ、より深く専門科目を学ぶ。始業前 10 分間の基礎学習時間を設け、基礎学力の定着を図るとともに、放課後等の時間を活用し資格取得指導にも力を入れている。キャリア教育の一環としてインターシップを 2、3 学年で実施し、全日制同様進路希望達成率 100% を実現している。さらに、外部人材を活用するなど生徒一人一人に応じた実践的教育にも取り組んでいる。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
15   1	都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/sogokoka-h/">https://www.metro.ed.jp/sogokoka-h/</a>	全	機械・自動車科 (35) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成18年に2つの工業高校を発展的に統合して開校した。東京ドーム1.2個分の敷地を持つ恵まれた環境な環境の中で、全日制は、理工系大学進学を目指した教育課程を編成し、3年次には多数の選択科目を設定することで多様な希望進路実現を図る。令和5年3月には、国公立大学合格者を2名輩出。部活動も活発で、運動系11、文化系12の団体が活動している。令和5年4月から産業DXへ対応した先端技術の学習が開始した。
15   2	都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/sogokoka-he/">https://www.metro.ed.jp/sogokoka-he/</a>	定	総合技術科 (30)	平成18年に2つの工業高校を発展的に統合して開校した。東京ドーム1.2個分の敷地を持つ恵まれた環境の中で、充実した教育活動を実施している。「面倒見のよい総工」を合言葉に、定時制は、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。部活動は全員加入、進路実現率は9年連続100%である。自校調理で、安価で毎日温かく美味しい給食を提供。
16	都立田無工科高等学校 〒188-0013 西東京市向台町 1-9-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/tanashikoka-h/">https://www.metro.ed.jp/tanashikoka-h/</a>	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は昭和37年12月に開校し、創立60年目を迎えた工業高校である。設置学科は機械・建築・都市工学の3学科からなり、都市工学科は全国でも数少ない学科である。また建築科は多摩地区では本校のみに設置されている。「地域との連携」「資格取得」に重点を置いた教育が本校の特色である。「デュアルシステム」を導入し体系的なキャリア教育を実践することで、多くの卒業生が地域産業の技術者として活躍している。Tokyo2020レガシーとして「ものづくり」を通じた障害者・高齢者理解教育の推進にも取り組んでいる。
17	都立多摩工科高等学校 〒197-0003 福生市熊川 215 <a href="https://www.metro.ed.jp/tamakoka-h/">https://www.metro.ed.jp/tamakoka-h/</a>	全	機械科 (70) 電気科 (35) 環境化学 (35) デュアルシステム科 (35)	本校は、都立工業高校モデル校として、平成30年度より機械・電気・環境化学の3科すべてを学べるデュアルシステム科を開設した。地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている。各科とも資格取得に向けて積極的に指導が実践され成果を出している。多くの部活動で本校が会場校になるなど、活発に活動し大きな成果をあげている。
18   1	都立中野工科高等学校 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 <a href="https://www.metro.ed.jp/nakanokoka-h/">https://www.metro.ed.jp/nakanokoka-h/</a>	全	食品サイエンス科 (140)	全日制課程は、工業の専門高校としては2校目のエンカレッジスクールです。可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して社会人として必要な基礎・基本を身に付けます。また、令和6年度から学科改編を行い。食品サイエンス科を通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。
18   2	都立中野工科高等学校 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 <a href="https://www.metro.ed.jp/nakanokoka-he/">https://www.metro.ed.jp/nakanokoka-he/</a>	定	総合技術科 (30)	定時制課程、総合技術科において、1年次は機械と食品工業に関する基礎基本を学び、2年次より機械類型・食品工業類型に分かれ本格的に専門分野を学習します。 機械類型では、総合的な機械操作と技能を学び、ものづくりの基本を学ぶことができます。食品工業類型は、食品に対する多方面からの知識と実習を通じた専門的な技術や知識を学ぶことができます。
19	都立練馬工科高等学校 〒179-8909 練馬区早宮 2-9-18 <a href="https://www.metro.ed.jp/nerimakoka-h/">https://www.metro.ed.jp/nerimakoka-h/</a>	全	キャリア技術科 (175)	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では5系列（機械加工技術、自動車技術、電気設備技術、電子コンピュータ技術、デザイン工芸技術）から選択して、より専門的な学習を行います。令和4年度からは、学校法人小山学園（3つの専門学校）と高専連携（教育課程による授業連携）をスタートしています。
20	都立府中工科高等学校 〒183-0005 府中市若松町 2-19-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/fuchukoka-h/">https://www.metro.ed.jp/fuchukoka-h/</a>	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	これからの社会の変化に対応できる有為な技能者を育成するため、創立60周年の伝統を引き継ぐとともに、しなやかで、真心をもって、最先端の科学技術に触れながら次代を担う高校生に必要な豊かな心を育み、技能を習得できる工科高校として歩みだしました。高度なIT人材を育成するための団体・企業や上級学校との連携事業や、課題解決型の学習プログラム（PBL）を全学科で導入しています。2学年段階からの国家資格等の取得を奨励しており、令和4年度の第二種電気工事士試験では128名の本校生徒が合格し、全国の高校生合格者数ランキング（民間調べ）で、全国第1位となっています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
21	都立本所工科高等学校 〒 125-0035 葛飾区南水元 4-21-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/honjokoka-he/">https://www.metro.ed.jp/honjokoka-he/</a>	定	総合技術科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校は、80年以上の伝統ある夜間定時制の工業高校です。1学年では、総合技術科として工業の基礎全般を学び、2学年からは機械・電気・電子の各類型に希望で分かれて専門知識や技術を学習します。</li> <li>4年間にわたるキャリア教育を充実させ、生徒の意欲を引き出し進路実現に繋げる「面倒見のよい学校」です。</li> <li>基礎学力の充実とものづくりの技術力向上を推進し、きめ細かい専門教育や生活指導、資格取得の推奨、校外学習、奉仕体験活動、文化祭、防災活動、インターンシップなど、地域連携を行いながら交流を深めていく学校です。</li> </ul>
22	都立町田工科高等学校 〒 194-0035 町田市忠生 1-20-2 <a href="http://www.machidakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.machidakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a>	全	総合情報科 (175)	<p>本校は、きめ細かな指導体制と充実した施設・設備を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工科高校です。1年生では工業基礎科目を学習し、2・3年生では興味・関心、進路希望に基づき「情報デザイン」「情報テクノロジー」「電気システム」「機械システム」の4系列の中から一つに所属します。</p> <p>また、令和3年度からIT企業3社と専門学校と連携した日本初のIT人材育成のための教育プログラム「Tokyo P-TECH」を実施しており、企業等との連携を通して専門性を深めるとともに社会人基礎力を高め「Society5.0」で活躍できる技術者の育成を目指しています。</p>
<b>工業に関する学科 (単位制)</b>				
23 1	都立六郷工科高等学校 〒 144-8506 大田区東六郷 2-18-2 <a href="http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/">http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	プロダクト工学科 (35) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35) ※在京外国人生徒選抜全学科 (各3名)	平成16年4月に開校し、全国初の東京版デュアルシステム、夜間定時制課程を設置しています。将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。令和2年度より日本工学院専門学校との教育連携によるAIシステム・eスポーツ等の先端技術を学べる新規講座を開設しました。先端技術を駆使した教育活動が学べる学校です。定時制は、3修制を取り入れた生産工学科と普通科があり、地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”に取組、16年の伝統を持つ学校行事です。
23 2	都立六郷工科高等学校 〒 144-8506 大田区東六郷 2-18-2 <a href="http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/">http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/</a>	定	普通科 (30) 生産工学科 (30)	平成16年4月に開校し夜間定時制課程を設置し、将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。 3修制を取り入れた生産工学科と普通科があり、地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”の取組は17年の伝統を持つ学校行事となっています。
<b>科学技術科</b>				
24	都立科学技術高等学校 〒 136-0072 江東区大島 1-2-31	全	科学技術科 (175) 創造理数科 (40)	平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者、研究者として活躍できる人材の育成を目指しています。機械・制御工学系、電子・情報工学系、化学・バイオ系などの科学技術分野の基礎的な幅広い学習と、理系大学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習に力を入れています。令和6年度から科学技術科5クラス、創造理数科1クラスの併置校となり、創造理数科では、自らの得意分野を生かしながら協働してイノベーションを生み出す人材の育成も目指していきます。
25	都立多摩科学技術高等学校 〒 184-8581 小金井市本町 6-8-9 <a href="https://www.metro.ed.jp/tamakagakugijutsu-h/">https://www.metro.ed.jp/tamakagakugijutsu-h/</a>	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。
<b>商業に関する学科</b>				
26	都立足立高等学校 〒 120-0011 足立区中央本町 1-3-9 <a href="https://www.metro.ed.jp/adachi-he/">https://www.metro.ed.jp/adachi-he/</a>	定	普通科 (30) 商業科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の学級数は10</li> <li>在籍生徒数約120名。規模の大きな夜間定時制課程</li> <li>普通科と商業科を設置しているのが特長</li> <li>商業科は各学年に1学級ずつ</li> <li>定時制専用の情報処理教室があり令和2年度に更新されたばかり</li> <li>学校規模を生かした定時制単独の学校行事(文化祭等)を実施</li> <li>部活動は運動・文化系問わず盛んで各種大会に出場</li> </ul>
27 1	都立葛飾商業高等学校 〒 125-0051 葛飾区新宿 3-14-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (210)	全日制では、個人の自由と尊厳を重んじ、自発的、自主的精神に富み、社会連帯性の上によく協調し得る人材や、創造的精神に富み、勤労を尊び、産業と文化の発展に貢献する人材の育成を教育目標として、基本的な生活習慣・規範意識の定着、基本的なビジネススキルの習得等を通じて、豊かな人間性と社会に求められる人材を育成します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
27   2	都立葛飾商業高等学校 〒125-0051 葛飾区新宿 3-14-1 <a href="http://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-he/">http://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-he/</a>	定	普通科 (30) 商業科 (30)	定時制では、ルールやマナーを守り社会に適應できる人材の育成を実現するため、基礎学力の定着、他者と共同し情報を収集・分析して問題解決に向かう力、コミュニケーションスキルの醸成を通して、働く権利や義務を理解し正しい勤労観や職業観と自尊心や自己決定力を持った人間を育てます。
28	都立江東商業高等学校 〒136-0071 江東区亀戸 4-50-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/kotosyogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/kotosyogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (175)	本校は商業高校として「伝統と革新」をキーワードに、地域と連携したビジネス教育に力を入れている伝統校です。ビジネス三言語(IT、会計、英語)を重視して、実践的なビジネス教育に取り組んでおり、社会人としてのマナーを身に付け、充実した学校生活を目指しています。令和7(2025)年に迎える創立120周年に向け、生徒・保護者、地域から親しまれ、都民から信頼される学校として教育活動を推進しています。
29	都立芝商業高等学校 〒105-0022 港区海岸 1-8-25 <a href="https://metro.ed.jp/sibasyogyo-h/">https://metro.ed.jp/sibasyogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (175)	令和6年度に創立100周年を迎える東京都の商業高校の拠点校です。グローバル化する社会環境の中で自立することのできる人材を育成するために、1年生全員のインターンシップ、浜松町・竹芝地区の企業等との連携、福井県池田町との交流等、特色ある教育活動を展開しています。また、資格取得やマナー指導にも定評があり、これらの取組が評価されキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しました。JR浜松町駅・都営地下鉄大門駅・ゆりかもめ竹芝駅徒歩5分に位置する、ビジネス教育には最適な環境にある伝統校です。
30	東京都立第一商業高等学校 〒150-0035 渋谷区鉢山町 8-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/daiichishogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/daiichishogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (210)	学校創立100年を超える商業の伝統校。東京都の商業高校のリーダーとして、簿記部や珠算部など毎年多くの商業系部活動が全国大会に進出している。令和3年度から4か年計画で、東京都教育委員会から地域探究推進校に指定され、國學院大學研究開発センターと連携し、同大が実施する「渋谷学」を導入して渋谷・代官山地域に関する探究学習を推進することで注目を集めている。大学・専門学校への進学者が約6割と商業高校でありながら進学希望者の多い学校としても知られている。
31   1	都立第三商業高等学校 〒135-0044 江東区越中島 3-3-1 <a href="http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	ビジネス科 (175)	多くの卒業生が実業界や経済界の中核で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement (使命宣言) を約束します。 ①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。 ②習熟度別による丁寧な指導により、数学・英語の基礎学力を向上させます。 ③卒業後の進路実現100%を目指します。 ④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。
31   2	都立第三商業高等学校 〒135-0044 江東区越中島 3-3-1 <a href="http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>	定	商業科 (30)	創立以来、健康明瞭で勤労を貴び、良識ある人物の育成を目指し生徒一人ひとりの人権を尊重しながら、心身とも健全な人物の育成を図っている。 このことを踏まえ、日常の教育活動を充実させつつ、生徒の満足、保護者の信頼、地域の応援、教職員の充実が達成できる学校づくりを進めている。
32	都立第四商業高等学校 〒176-0021 練馬区貫井 3-45-19 <a href="https://www.metro.ed.jp/daiyonsyogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/daiyonsyogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (175)	～マナーの四商、資格の四商、実学の四商～ ビジネス基礎・会計・情報処理・マーケティング・マネジメントの各分野を系統的に学び、外部機関と連携して、調べ学習・調査研究から課題解決を図る探究的な学びを推進しています。検定資格取得のほか、JRC、NIE、SDGsに関する教育を活用し、思いやりの心をもち、社会情勢を正しく理解して、自分ごととして考え・行動できる人材の育成を目指しています。部活動では、アーチェリー、硬式野球、サッカー、バスケ、バド、バレー、吹奏楽、茶道、フラ部等が活躍しています。
33   1	都立第五商業高等学校 〒186-0004 国立市中 3-4 <a href="https://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-h/">https://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-h/</a>	全	ビジネス科 (210)	昭和16年に開校し、伝統に支えられた、多摩地区唯一の商業高校です。文武両道と地域に根ざした教育を実践して、卒業生2万8千名余りの有能な人材を輩出し、各方面で活躍しています。ビジネス科として、「東京のビジネス」「ビジネスアイデア」「課題研究」を柱とし、高度資格取得指導、高大連携や地域連携等の充実を図っています。ビジネス教育の推進をとおして、大学進学と都立高校屈指の就職実績にもさらに磨きをかけていきます。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
33 1 2	都立第五商業高等学校 〒 186-0004 国立市中 3-4 <a href="https://www.metro.ed.jp/daigosyogyo-he/">https://www.metro.ed.jp/daigosyogyo-he/</a>	定	商業科 (30)	定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事がたくさん」「ていねいな資格支援」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」の 5 つを特色とし、「少人数制」や「チームティーチング」の授業を取り入れながら、生徒一人一人の能力に応じた指導・支援をしています。その成果として基礎学力が身に付いています。また落ち着いた環境で学ぶことができます。
<b>ビジネスコミュニケーション科</b>				
34	都立千早高等学校 〒 171-0044 豊島区千早 3-46-21 <a href="http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/">http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。</li> <li>「使える英語」を目指して学校設定科目「多読と発表」を授業に取り入れている。英会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年)、海外ビジネス研修 (希望者)、海外語学研修 (希望者) などの学校行事で実践。</li> <li>新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。また、SDGs や外部機関との連携の取組を展開している。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた 7 年間の進学指導が特色。</li> </ul>
35	都立大田桜台高等学校 〒 143-0027 大田区中馬込 3-11-10 <a href="http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/">http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	ビジネスコミュニケーション科 (175)	グローバル社会で主体的に生き抜く基礎的な学力と素養を育成することを理念とした専門高校です。コミュニケーション手段としての英語力と社会生活に必要なビジネス力を育成します。英語教育は、「多読・多聴」の他、英語を使う場面を多数用意し英語を英語で理解することを目指します。ビジネス教育は、簿記や経済活動に関する基礎的な知識・技術を習得する他、コンテストへの出場や企業連携を通してマーケティングやプランニングを実践的に学びます。この他、発表活動や資格取得に力を入れ、自分の意見を適切に表現できる人材を育成します。
<b>家庭・福祉に関する学科</b>				
36	都立忍岡高等学校 〒 111-0053 台東区浅草橋 5-1-24 <a href="http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp">http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp</a>	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	普通科と生活科学科を併置する全日制・単位制の学校として、平成 18 年度に改編された。生活科学科の目標は、「大学進学希望の実現」と「将来のスペシャリストとして必要な資質・能力の育成」である。単位制を活用した、多様な選択科目を設置するとともに、大学や専門学校と連携した模擬授業や大学教授・特別専門講師による専門性の高い授業を展開している。7・8 限の自由選択科目では、茶道、華道、将棋、日本舞踊などの「日本の伝統文化」、中国語、フランス語、韓国語などの「語学」、「自己表現」力を高める朗読、モダンバレエなどの特色ある講座を設置している。
37	都立野津田高等学校 〒 195-0063 町田市野津田町 2001 <a href="https://www.metro.ed.jp/nozuta-h/">https://www.metro.ed.jp/nozuta-h/</a>	全	福祉科 (35)	<p>【福祉科の概要】平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。福祉科は、国家資格である介護福祉士の養成校として、多くの合格者を輩出している。</p> <p>【特色】・介護、福祉、医療などの専門的な知識・技術の習得。 ・ボランティア活動による地域との交流。 ・福祉施設実習を通しての実践的な学習。</p>
38	都立赤羽北桜高等学校 〒 115-0056 北区西が丘 3-14-20 <a href="https://www.metro.ed.jp/akabanehokuo-h/">https://www.metro.ed.jp/akabanehokuo-h/</a>	全	家庭学科：保育・栄養科 (140) 家庭学科：調理科 (35) 福祉学科：介護福祉科 (35)	本校は、幼児教育・保育系や栄養・健康系の上級学校への進学を目指す「保育・栄養科」、調理師資格の取れる「調理科」、介護福祉士国家試験受験資格を得られる「介護福祉科」の 3 つの科を併せもつ専門高校です。3 科ではそれぞれ、家庭分野、福祉分野のスペシャリストを目指して、基礎的・基本的な学力と専門的な知識や技術の定着と伸長を図る学習に取り組んでいます。また、探究活動の充実を図り、地域との連携をとおして、学んだことを生かして地域社会のために生かそうとする使命感と社会貢献しようとする志を育てていきます。
<b>水産に関する学科</b>				
39	都立大島海洋国際高等学校 〒 100-0211 大島町差木地字下原 996-1 <a href="http://www.metro.ed.jp/osimakaiyokokusai-h/">http://www.metro.ed.jp/osimakaiyokokusai-h/</a>	全	海洋国際科 (70)	「海に学び、未来を拓く。」というコンセプトの下、都内で唯一、水産・海洋関連分野を学ぶことができる学校です。2 年次より、「船舶運航系」「海洋生物系」「海洋産業系」「海洋探究系」に分かれ、大学進学に向けたカリキュラムを編成しています。また、大型実習船「大島丸」で航海実習を行い、小型船舶操縦士や潜水関係の資格を取得することもできます。寄宿舎では、集団生活を通して協調性や規範意識、コミュニケーション能力を育成し、夜は「宅習」において、目標とする進路に向けた学習に取り組んでいます。
<b>併合科</b>				
40	都立大島高等学校 〒 100-0101 大島町元町字八重の水 127 <a href="https://www.metro.ed.jp/oshima-h/">https://www.metro.ed.jp/oshima-h/</a>	全 定	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35) 普通科 (30)	併合科では、専門科目の基礎から応用まで実習を通して実践力を身に付けます。農林では野菜・畜産・草花・地域資源活用分野で地域産業振興を重視した学習活動を行います。特産のツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成 28 年 ICS 優秀つばき園認定) での研究も可能です。家政は生活産業のスペシャリスト育成に向けて、家庭科にかかわる内容を深く学び、より専門的な知識と高度な技術を身に付けます。全校の取組として、グローバル社会に対応できる人材育成や地域社会に貢献できる意識を涵養する活動もあります。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
41	都立八丈高等学校 〒100-1401 八丈町大賀郷 3020 <a href="https://www.metro.ed.jp/daigosyogyo-he/">https://www.metro.ed.jp/daigosyogyo-he/</a>	全	普通科 (80) 併合科 (園芸・家政) (35)	教育目標は自主自立で70年を超える伝統校です。八丈町はハワイと姉妹都市で、黄八丈、八丈太鼓など歴史と伝統、文化の町です。島留学生を受入れています。町や小・中学校と連携した系統的な学習を行う少人数授業が特色で、国公立大学等の受験から基礎基本の習得を目指す生徒まで、きめ細かく丁寧に指導します。地域と協働した探究学習を学校全体で取り組んでいます。生徒の卒業後の進路は、国公立大学をはじめとする進学や、公務員を含む就職と多様です。生徒会活動や学校行事も盛んです。詳細は本校ホームページやXを御覧ください。
		定	普通科 (30)	
42	都立三宅高等学校 〒100-1211 三宅村坪田 4586 <a href="http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a>	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
<b>産業科</b>				
43 1	都立橋高等学校 〒131-0043 墨田区立花 4-29-7 <a href="https://www.metro.ed.jp/tachibana-h/">https://www.metro.ed.jp/tachibana-h/</a>	全	産業科 (210)	本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成19年4月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。また、令和4年度から「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金、染織などの伝統工芸に対して興味・関心を高める教育を本格的に進めております。
		定	産業科 (30)	
43 2	都立橋高等学校 〒131-0043 墨田区立花 4-29-7 <a href="https://www.metro.ed.jp/tachibana-he/">https://www.metro.ed.jp/tachibana-he/</a>	全	産業科 (210)	本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成19年4月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。また、令和4年度から「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金、染織などの伝統工芸に対して興味・関心を高める教育を本格的に進めております。
		定	産業科 (30)	
44	都立八王子桑志高等学校 〒193-0835 八王子市千人町 4-8-1 <a href="http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/">http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	産業科 : デザイン分野 (70) : クラフト分野 (35) : システム情報分野 (35) : ビジネス情報分野 (70)	「ものづくりから流通まで」を総合的に学習することができる日本初の産業科高校です。高度な専門性と、専門性を活用するための応用力を育成しています。本校は進学型の職業学科高校として、約9割の生徒が専門性や資格を活用し、国公立大学、難関私立大学の他、それぞれの希望に応じた進学を実現しています。また、就職希望者への指導も充実しており、希望者全員の進路も決定しました。さらに、地域との連携にも力を入れ、商工会議所、織物工業組合、青年会議所、地元の商店等と連携した事業を展開しています。
<b>情報科 (単位制)</b>				
45	都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 新宿区山吹町 81 <a href="http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp">http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp</a>	定	普通科 (100) 情報科 (65)	各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます (4部制)。情報科は、東京都唯一の「情報」の専門学科です。29～31年度はSPH (スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール) に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っています。昨年度は、国公立大や、早慶上理大・GMARCH等の難関私大に定通合わせて現役で30名以上が合格しています。
		通	普通科 (50)	
<b>総合学科</b>				
46	都立王子総合高等学校 〒114-0023 北区滝野川 3-54-7 <a href="https://www.metro.ed.jp/oujisogo-h/index.html">https://www.metro.ed.jp/oujisogo-h/index.html</a>	全	総合学科 (236)	平成23年度開校、全日制総合学科高校 ○スクールミッション 社会の変化に主体的に対応し、社会や世界と関わり、生涯に渡って豊かに生きる力の育成を教育目標とし、総合学科の特色を生かした多様な選択科目の設置や体系的なキャリア教育を通じて、グローバルな視野で将来にわたって目標を追究し、その実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。 ○“Design your Dream”をキャッチフレーズとしている。 ○「国際・ビジネス」「データサイエンス」「芸術・デザイン」「スポーツ・健康」の4つの系列を設置。
47 1	都立青梅総合高等学校 〒198-0041 青梅市勝沼 1-60-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/">https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/</a>	全	総合学科 (236)	本校は「自分でつくる、自分の未来」を目標に、教育活動を推進する総合学科高校です。多彩な選択科目から自分だけの時間割をつくり、なりたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓くことができます。緑豊かな環境と多彩な設備を活かし「農業」についても学び、その活動を通じて命の尊さを実感することができる学校です。また、国際交流リーディング校として、海外修学旅行やドイツへの短期留学を実施しています。すべての教育活動で「やり抜く力」を育成することを目標としています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
47   2	都立青梅総合高等学校 〒 198-0041 青梅市勝沼 1-60-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/">https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/</a>	定	総合学科 (90)	本校は「自分でつくる、自分の未来」を目標に、教育活動を推進する総合学科高校です。多彩な選択科目から自分だけの時間割をつくり、なりたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓くことができます。緑豊かな環境と多彩な設備を活かし「農業」についても学び、その活動を通じて命の尊さを実感することができる学校です。すべての教育活動で「やり抜く力」を育成することを目標としています。夜間定時制ですが、三修制を導入していますので、3年間で卒業することも可能です。
48	都立葛飾総合高等学校 〒 125-0035 葛飾区南水元 4-21-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/katsushikasogo-h/">https://www.metro.ed.jp/katsushikasogo-h/</a>	全	総合学科 (196)	平成 19 年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成 29 年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの 4 系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開設して課題研究に取組ませ、卒業生全員に 1 万 2000 字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。
49	都立杉並総合高等学校 〒 168-0073 杉並区下高井戸 5-17-1	全	総合学科 (216)	平成 16 年 4 月に、東京都で 3 番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化 (1 年次で中国語かハングル)、台湾修学旅行、姉妹校交流 (オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校、韓国的美林女子情報科学高等学校)、年間 5 回程度の海外訪問受け入れ、年間 5 名程度の留学生の受け入れ、交換留学 (オーストラリアとフランス) 等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年 2 人程度が 1 年間の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の 5 系列を持つ。
50	都立世田谷総合高等学校 〒 157-0076 世田谷区岡本 2-9-1 <a href="http://www.setagaya-sogo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html">http://www.setagaya-sogo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html</a>	全	総合学科 (236)	○平成 20 年 4 月開校。 ○令和 3 年度より、ものつくりをベースに国際交流を中心とした学校の特色化を推進中。 ○生活マナー (身だしなみ、頭髮等) を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○「宝のカギが見つかる場所」の学校キャッチフレーズの下、魅力的な学校生活の創出に教職員が一丸となり尽力中。
51	都立つばさ総合高等学校 〒 144-8533 大田区本羽田 3-11-5 <a href="http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/">http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (236)	平成 14 年に開校した都立 2 校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列の 5 系列を配備し、恵まれた施設を活用し、生徒が適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて『自分だけの時間割』を編成して学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。環境教育に力を入れており、平成 21 年度「文部科学大臣賞」、平成 30 年度「都教委オリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワード」等を受賞している。
52	都立晴海総合高等学校 〒 104-0053 東京都中央区晴海 1-2-1 <a href="http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (276)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」や「課題研究」によりキャリア教育を充実させている。情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、国公立大学進学も視野に入れた生徒の学力向上と進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」によって、未来を切り拓き、夢の実現を目指す生徒を育成する高校である。
53   1	都立東久留米総合高等学校 〒 203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 <a href="http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/</a>	全	総合学科 (236)	平成 19 年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 総合学科高校として、多様な選択科目から選ぶ「自分でデザインする時間割」で『25 歳の自分創り』というコンセプトのもと、未来の自分をイメージし、夢を探し求めていく 3 年間の学びを通して、生徒の可能性を最大限に高め、自立した人間として多様な人々と協働し、より良い社会づくりに参画する人材を育成します。
53   2	都立東久留米総合高等学校 〒 203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 <a href="http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/</a>	定	総合学科 (60)	平成 19 年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 総合学科高校の良さである、未来の自分をイメージできる充実した「キャリア教育」と普通科にはない多様な選択科目から選ぶ「自分でデザインする時間割」で、夢を探し求める生徒の可能性を最大限に高め、判断力、想像力、実践力のある人材を育成します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
54	都立若葉総合高等学校 〒206-0822 稲城市坂浜 1434-3 <a href="https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/">https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/</a>	全	総合学科 (236)	平成17年度に開校した、多摩地区初の総合学科高等学校。「自立の心と、個性を伸ばす」を教育目標に定め、特色ある選択科目により生徒の主体性と協調性を伸ばし進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を設置。開校以来、「原石を宝石に、君の個性に輝きを」をスローガンに、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育活動に取り組んでいる。
55	都立町田総合高等学校 〒194-0037 町田市木曾西 3-5-1 <a href="http://www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp">www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp</a>	全	総合学科 (236)	○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校。 ○校訓「創」;「自分創り」に取り組む、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列、国際理解教育の基礎を成す「日本文化」の授業、社会と連携し体験を重視した教育活動。 ○「キャリア教育」を根幹に据えた進路指導、探究活動の推進。 ○国際理解教育の推進 ○東京都教育委員会指定「地域探究推進校」
<b>総合学科 (チャレンジスクール)</b>				
56	都立大江戸高等学校 〒135-0015 江東区千石 3-2-11	定	総合学科 (170)	平成16年4月開校の三部制・単位制・総合学科の高校です。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行っています。体験学習や実習、行事などを重視し、少人数の授業で、丁寧な指導に取り組んでいます。「チャレンジする人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標の下、様々な専門家の支援を受け、一人一人の自立を支えています。
57	都立桐ヶ丘高等学校 〒115-0052 北区赤羽北 3-5-22 <a href="https://www.metro.ed.jp/kirigaoka-he/">https://www.metro.ed.jp/kirigaoka-he/</a>	定	総合学科 (170)	平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール(総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制高校)です。『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
58	都立世田谷泉高等学校 〒157-0061 世田谷区北鳥山 9-22-1 <a href="http://www.setagayaizumi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/">http://www.setagayaizumi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/</a>	定	総合学科 (170)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
59	都立稔ヶ丘高等学校 〒165-0031 中野区上鷺宮 5-11-1 <a href="https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/">https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/</a>	定	総合学科 (240)	三部制総合学科のチャレンジスクールで、生徒は落ち着いた環境の基で学んでいます。「勁い心」と「自立した未来」を育てる教育理念のもと、基礎学力を身に付けさせています。コミュニケーション能力の向上を図るために学校設定科目「コーピング」を設置するなど、特色ある授業を通して社会で生きる基盤と自他のチャレンジを尊重する姿勢を育みながら、社会で飛躍する生徒を育成しています。
60	都立六本木高等学校 〒106-0032 港区六本木 6-16-36 <a href="https://www.metro.ed.jp/roppongi-he/">https://www.metro.ed.jp/roppongi-he/</a>	定	総合学科 (170)	平成17年4月に開校したチャレンジスクールです。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は、“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎学力を身に付ける普通科目と3つの系列に属する特色のある学校設定科目や総合科目で生徒の見つけて磨く力を支援しています。年次に応じた丁寧な指導で、生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。
61	都立小台橋高等学校 〒120-8528 足立区小台 2-1-31 <a href="https://www.metro.ed.jp/odaibashi-he/">https://www.metro.ed.jp/odaibashi-he/</a>	定	総合学科 (230)	令和4年4月開校。スクールミッションを、これまでの学校生活で個性や能力等を十分に発揮できなかった生徒に対しても、一人一人が安心して学ぶことができる時と場の提供と、多様で柔軟な教育の実施により、不確定な未来を生き抜くための幅広く総合的な学力を身に付けた人材の育成としています。その実現に向けて、課題研究を中心として自分自身の興味・関心を深め将来像を明確化する「小台橋モデル」を学びの特色とするとともに、人間関係づくりを円滑にするための交流プログラムや相談体制を充実させています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
<b>普通教育を主とする学科</b>				
62 1	都立五日市高等学校 〒 190-0164 あきる野市五日市 894 http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/	全	普通科 (159)	東京の最西部に位置する本校は、令和 4 年度から地域に根差した「特色のある普通科」として出発しました。1 学年 4 クラスの小規模であることを最大限生かして義務教育段階の学びなおしや特性に応じた指導など、きめ細かい教育を行っています。2 年生からアウトドア、マネジメント、アドバンスの 3 コースに分かれ、地域の特色を生かした教育活動を行います。近隣の自治体、大学や企業等と連携し、地域に密着したテーマや課題を中心とした探究活動を経験的に学ぶ「五日市メソッド」により地域に貢献できる人材を育成しています。
62 2	都立五日市高等学校 〒 190-0164 あきる野市五日市 894 http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/	定	普通科 (30)	本校は東京の最西部に位置し、定時制課程は普通科のみの学校です。小規模であることを生かして、生徒一人一人に寄り添いながら全日制と同様、地域のお祭り「ヨルイチ」での活動をはじめとする、地域と連携した取組をこれまで以上に実践していきます。

**普通教育を主とする学科 (単位制)**

63	都立浅草高等学校 〒 111-0024 台東区今戸 1-8-13	定	普通科 (192)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9 階建ての校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと地域の伝統工芸や稲作体験のできる「体験学習」などを特色とする。
----	--	---	-----------	---

**国立高等学校会員名簿 (1)**

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	東京工業大学附属科学技術 高等学校 (東京科学大学附属科学技術 高等学校 令和 6 年 10 月 から) 〒 108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6 https://www.g.hst.titech.ac.jp	全	科学・技術科 (推薦 72、一般 128)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザインの 5 分野に分かれる。

**高等専門学校会員名簿 (1)**

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス 〒 140-0011 品川区東大井 1-10-40 荒川キャンパス 〒 116-8523 荒川区南千住 8-17-1 https://www.metro-cit.ac.jp	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成を使命とし、本科 5 年一貫教育による実践的技術者、本科と専攻科 7 年一貫教育による総合的実践的技術者の育成を担う高等教育機関です。本科ものづくり工学科では品川キャンパスに機械システム、AI スマート、電気電子、情報システムの 4 工学コースが、荒川キャンパスに情報通信、ロボット、航空宇宙、医療福祉の 4 工学コースがあり、1 年時には混合クラスとし、2 年時より各コースに分かれます。また、専攻科創造工学専攻修了時には学士 (機械工学、電気電子工学、情報工学) の学位が得られます。

専修学校会員名簿（37）

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国学園保育専門学校 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 <a href="http://www.aikokuhosen.ac.jp">http://www.aikokuhosen.ac.jp</a>	昼	幼児教育科（50） 介護福祉士専攻科（募集停止中）	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校です。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得できます。学生は、完備された学園において、少人数制の中、現代社会のニーズに合った専門的な学びを楽しく熱心に修得しています。就職においても幼児教育科は毎年100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職しています。勤務先からは専門に精通して明るく元気で、礼儀正しいと評価を得ています。今後も職業に直結した知識やスキルを学び保育者としての資質能力を深められる教育を展開して行きます。
2	青山製図専門学校 〒150-0032 渋谷区鶯谷町 7-9	昼 夜	建築工学科（30）、建築設計デザイン科（72）、住宅設計デザイン科（30）、建築インテリア工学科（35）、商空間デザイン科（35）、建築インテリアデザイン科（40）、建築設計研究科（130） 建築科（70） インテリア工学科（30）	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の9学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	御茶の水美術専門学校 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-3 <a href="https://senmon.ochabi.ac.jp">https://senmon.ochabi.ac.jp</a>	昼	デザイン・アート科 3年制（60） 高度デザイン・アート科 4年制（10）	ゼロからはじめてプロになる® 「産学連携」課題にプロジェクトベースドラーニングで挑む、実学中心の美術専門学校。 御茶の水美術専門学校(OCHABI)は、全学科が文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けており、必修科目である「産学連携授業」では、ゼロから「SDGs」に貢献する商品やサービスを考え、実際に企業へプレゼンテーションしていきます。こうして入学から卒業まで繰り返しクリエイティブを軸としたプロジェクトベースドラーニングを行うことで、効果的に自分のクリエイティブスキルを実社会で活かせるビジネススキルへと変換していきます。
4	香川調理製菓専門学校 〒170-8481 豊島区駒込 3-24-3 <a href="https://www.kagawa-choka.ac.jp">https://www.kagawa-choka.ac.jp</a>	昼	調理マスター科（40） 調理師科（120） 製菓科（120）	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マスター科は職業実践専門課程の認定校です。
5	窪田理容美容専門学校 〒164-8585 中野区中野 4-11-1 <a href="https://www.kubota.ac.jp/">https://www.kubota.ac.jp/</a>	昼 夜 通	理容学科（40名） ■理容本科コース ■認定エステティシャン取得コース 美容学科（140名） ■ヘアスタイリスト専攻 ■ビューティシャン専攻 トータルビューティシャン科（40名） テクニカルスタイリスト科（40名） ■ダブルライセンスコース 美容学科トライチェンジコース（40名） 通信通常課程 理容学科（10月入学20名）美容学科（10月入学40名/4月入学40名） 通信修得者課程 理容ダブルライセンス科（30名）美容ダブルライセンス科（40名）	昭和25年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス業従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。理容師と美容師、両方の国家資格を取得できるダブルライセンスコースを設置している他、メイク・ネイルを中心にトータルビューティを学ぶトータルビューティシャン科を新たに開講。シェアが広がる業界で、活躍できる技術者を育成します。
6	国際共立学園高等専修学校 〒116-0013 荒川区西日暮 2-33-23 <a href="https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/">https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/</a>	昼	美容師科（3年制・40） 製菓衛生師・調理師科（3年制・32）	「学校法人 国際共立学園」は、理容・美容の専門学校として69年の歴史を重ね、令和2年4月に「美容師科」と「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科をもつ「国際共立学園高等専修学校」を開校いたしました。本校は、「夢をかなえる人づくり」を教育テーマに掲げ、生徒一人一人の夢を実現させることを目指しています。「製菓衛生師・調理師科」は1つの学科で製菓衛生師と調理師の2つの資格を取得することができます。また、本校は大学入学資格も取得できます。
7	国際理容美容専門学校 〒116-0014 荒川区東日暮 5-17-12 <a href="http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/">http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/</a>	昼 通	理容科（2年・60） 美容科（2年・160） ビジネス美容科（2年・40） ビューティアーティスト科（2年・40） 理容科（3年・30） 理容科 美容修得者コース（1.5年・10） 美容科（3年・100） 美容科 理容修得者コース（1.5年・20）	国際共立学園は創立69年の伝統ある学園です。この歴史の中で実践し続けている教育の柱は「人間教育」です。職人の技術偏重主義に決して偏ることなく、あらゆる職業を通して、豊かな人間性を併せ持った職業人育成を目指して参りました。また、2020年には「美容師科」、「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科を持つ国際共立学園高等専修学校を新たに開校いたしました。本学園は「夢をかなえる人づくり」を教育のテーマに、これまでの教育実績をさらに進化させ、社会に貢献できる人間性豊かな職業人を育成して参ります。
8	新東京歯科技工士学校 〒143-0016 大田区大森北 1-18-2 <a href="https://www.dt.ntdent.ac.jp/">https://www.dt.ntdent.ac.jp/</a>	昼	歯科技工士科I部（90） 歯科技術予備教育科（35） 歯科技工士科午後部（35）	新東京歯科技工士学校は、1980年開校以来、厚生労働省指定養成所として歯科医療の国家資格「歯科技工士」を取得した専門職を養成してきました。また、企業や医療関連団体と連携した教育が特長であることから、文部科学省から職業実践専門課程として認定され、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとしています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 6 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
9	中央工学校 〒 114-8543 北区王子本町 1-26-17 http://chuoko.ac.jp		建築学科 (80)、建築工学科 (60)、建築設計科 (180)、木造建築科 (60)、建築設備設計科 (40)、建築室内設計科 (60)、インテリアデザイン科 (40)、土木建設科 (80)、測量科 (80)、地理空間情報科 (40)、3DCAD 設計科 (30)、夜間 建築科 (80)、夜間 土木測量科 (40)	中央工学校は 1909 年 (明治 42 年) に創立し、卒業生総数は 11 万人を超え、それぞれの分野で活躍しています。教育理念を『厳しい実務教育』と『人間涵養教育』とし、正しい職業観の育成に努めています。資格についても、建築関連学科では建築士の受験資格、土木・測量関連学科では無試験で測量士補が取得できるなどカリキュラムを備えています。就職指導においては、クラス担任と就職指導課担当職員が、希望職種に就職できるようサポートしています。『就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
10	東京 IT プログラミング & 会計専門学校 〒 130-8565 墨田区錦糸 1-2-1	昼	会計士学科 (2 年・51) 税理士学科 (2 年・40) 情報処理科 (2 年・40) IT ビジネス学科 (2 年・60) 情報メディア学科 (2 年・60)	本校の最大の特色は、大学生でも現役合格がむずかしい公認会計士試験・税理士試験や高度情報処理試験に高校卒業生対象の専門課程から毎年多くの現役合格者を輩出していることです。その理由は、開学からずっと実施している楽しく学んで実力が身につく「ゼミ学習」にあります。
11	東京エアトラベル・ホテル専門学校 〒 184-8543 小金井市前原町 5-1-29 https://technosac.jp/air/	昼	エアラインサービス科 (80)、英語キャリア科 (40)、ホテル科 (60)、ブライダル科 (60)、総合ビジネス科 (20)、観光・ツーリズム科 (30)、鉄道交通科 (40)、大学併修学科 (20)、研究科 (20)	1973 年に創立し、エアライン・語学・ホテル・ブライダル・観光分野などを学ぶ 9 学科を展開。オックスフォード大学をはじめ海外姉妹提携 10 大学と交流、専門力と幅広い教養を身につける大学コースを全学科に設置。授業や実習では、企業や地域などとの連携を通して多様な人々と協働しながら「専門性」「人間力」「総合力」、社会人や接客業に必要な「ホスピタリティ精神」を養っている。
12	専門学校東京工科自動車大学校 〒 164-0001 中野区中野 6-21-16 https://car.ttc.ac.jp/	昼	1 級自動車整備科 (4 年・50) 自動車整備科 (2 年・100) エンジンメンテナンス科 (2 年・50)	日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取れる」教育をしております。二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ 100% を達成。平成 26 年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。
13	東京工学院専門学校 〒 184-8543 小金井市前原町 5-1-29 https://technosac.jp/eng/	昼	コンサート・イベント科 (60)、音響芸術科 (40)、ミュージック科 (30)、映像メディア学科 (30)、声優・演劇科 (40)、ゲームクリエイター科 (40)、CG クリエーター科 (30)、デザイン科 (50)、アニメ・マンガ科 (70)、スポーツビジネス科 (60)、幼児保育学科 (40)、こども学科 (40)、教育専攻科 (40)、公務員科 (20)、建築学科 (40)、インテリアデザイン科 (20)、情報システム科 (40)、電気電子学科 (40)、航空学科 (20)、法律情報科 (30)、経営情報科 (30)、大学併修学科 (40)、研究科 (20)	1959 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。「社会の縮図で学ぶ」「未来を見据えて学ぶ」「教室を飛び出して学ぶ」をモットーに海外大学との提携や企業でのインターンシップ体験、各業界で活躍する講師陣による指導を展開。また、専門学科での学修に加え大学の通信教育課程の学びを併修する 4 年制の大学コースを全学科に設置。
14	東京誠心調理師専門学校 〒 144-0052 大田区蒲田 3-21-4 https://www.seishingakuen.ac.jp/tokyo/		調理師科 2 年制 (80) 調理師科 1 年制 (40) 調理師科夜間部 2 年制 (40)	1970 年創立。2007 年 8 月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科 2 年制には、校内レストランにて、一般の方を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
15	専門学校 東京テクニカルカレッジ 〒 164-8787 中野区東中野 4-2-3 https://tec.ttc.ac.jp/	昼 夜	建築監督科 (30)、建築科 (60)、インテリア科 (40)、IoT+AI 科 (40)、データサイエンス+AI 科 (30)、ゲームプログラミング科 (40)、情報処理科 (40)、Web 動画クリエイター科 (40)、環境テクノロジー科 (25)、バイオテクノロジー科 (30) 建築科 (40)	本校は 1987 年に国立市に開校し、2009 年に現在の東中野校舎へ移転しました。学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受けとめ、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、2014 年には全学科が職業実践専門課程に認定され、企業や地域の皆様とともに専門人材の育成に尽力してまいりました。授業シートとカルテを使い学習成果を確認しながら専門性を高める「ステップクリア授業」と仲間と仕事を進める力を養う問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト」が大きな特長です。
16	東京デザインテクノロジーセンター専門学校 〒 169-0075 新宿区高田馬場 2-11-10 https://www.tech.ac.jp/	昼	スーパー IT 科 (120) IT・デザイン科 (120)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和6年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
17	東京美容専門学校 〒161-8557 新宿区下落合 1-2-4 <a href="http://www.tahb.ac.jp">http://www.tahb.ac.jp</a>	昼 美容総合科ヘアスタイリストコース (40) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容総合科ヘアメイクコース (40) (専門課程)	美容総合科ヘアスタイリストコース (40) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容総合科ヘアメイクコース (40) (専門課程)	本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に70年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
18	東京法律公務員専門学校 〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1	昼	法律学科 (2年・30)、法律ビジネス学科 (2年・40)、法律社会学科 (2年・40)、不動産ビジネス学科 (2年・20)、行政学科 (1年・40)	1983年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も十分に発揮されています。最大の特徴である「ゼミ学習」は、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中で理解がすすみます。さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。
19	東京 YMCA 医療福祉専門学校 〒186-0003 国立市富士見台 2-35-11 <a href="https://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/">https://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/</a>	昼	社会福祉専門課程 介護福祉科 (2年) (80) 医療専門課程 作業療法学科 (3年) (30)	世界119の国と地域に広がるYMCAネットワークに連なる学校法人東京YMCA学院によって1996年に設立されました。「互いに愛し合いなさい」という聖書の一節をカレッジスピリットとして、豊かな人間性を持つ介護福祉士、作業療法士を養成し業界に送り出し続けています。
20	日本工学院専門学校 〒144-8655 大田区西蒲田 5-23-22 <a href="https://www.neec.ac.jp/kamata/">https://www.neec.ac.jp/kamata/</a>	昼	放送芸術科 (160)、声優・演劇科 (120)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (80)、マンガ・アニメーション科 (160)、ゲームクリエイター科四年制 (120)、ゲームクリエイター科 (80)、CG映像科 (120)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (360)、音響芸術科 (120)、ダンスパフォーマンス科 (80)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (80)、電子・電気科 (120)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40)	1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、各分野の第一線で活躍していることが本校の教育の何よりも実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウとグレードの高い専門教育の実現のため、「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わり、より専門性を追求する学習環境を実現しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」の5つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造に貢献しています。
21	日本工学院八王子専門学校 〒192-0983 八王子市片倉町 1404-1 <a href="https://www.neec.ac.jp/hachioji/">https://www.neec.ac.jp/hachioji/</a>	昼	放送芸術科 (120)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (80)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (80)、CG映像科 (80)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (40)、コンサート・イベント科 (160)、音響芸術科 (40)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一級自動車整備科 (25)、自動車整備科 (75)、応用生物学科 (40)、建築学科 (80)、建築設計科 (120)、土木・造園科 (40)、機械設計科 (40)、スポーツトレーナー科三年制 (40)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (40)、鍼灸科 (30)、柔道整復科 (30)、医療事務科 (40)	1947年に大田区蒲田に創立した創美学園を母体とし、1987年に八王子市に開校。「理想的学びは理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を整備しています。 充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、質の高い専門教育を実践。現在では、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「スポーツ・医療」の6つのカレッジに計32学科を設置し、専門力と人間力を併せ持った、社会に役立つ人材を育成しています。
22	専門学校日本鉄道 & スポーツビジネスカレッジ 〒166-8567 杉並区高円寺 5-32-10	昼	鉄道・観光学科 (2年・60)	本学の特色である「ゼミ学習」では、学生同士がお互いにおしえあうことにより学習意欲がわき、楽しい雰囲気の中で理解がすすみ、さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。資格を取って知識と技術、実習をとおして実践力を養っていきます。
23	日本電子専門学校 〒169-8522 新宿区百人町 1-25-4 <a href="https://www.jec.ac.jp/">https://www.jec.ac.jp/</a>	昼 夜	コンピュータグラフィックス科 (160)、CG映像制作科 (80)、コンピュータグラフィックス研究科 (40)、ゲーム制作研究科 (100)、ゲーム制作科 (160)、ゲーム企画科 (40)、アニメーション科 (50)、アニメーション研究科 (30)、グラフィックデザイン科 (30)、AIシステム科 (70)、Webデザイン科 (30)、モバイルアプリケーション開発科 (40)、DXスペシャリスト科 (40)、情報処理科 (140)、情報システム開発科 (80)、高度情報処理科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (80)、電気工学科 (50)、電気工事技術科 (50)、電子応用工学科 (40)	1951年創立。CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の9分野に昼夜24学科を設置。創立時から続く『コンピュータ・電気・電子』教育を通して、産業界での知名度が非常に高く「伝統」「信頼」「実績」のある専門学校です。情報処理・CG・ゲーム・モバイルアプリ開発など、日本初の学科を多数開設。「職業教育」と「キャリア教育」を教育方針の2本柱として、世界で活躍できるスペシャリストを育成しています。
24	日本動物専門学校 〒166-8567 杉並区高円寺南 4-6-8	昼	動物看護学科 (3年・40) 動物管理学科 (2年・120)	動物に関する知識と就職に役立つ幅広いビジネス知識を習得し、動物たちとふれあいながら、実践力を身につけます。インターンシップでは、実際の現場で実践することにより、より一層成長することができます。「ゼミ学習」により楽しく学びながら実力をアップしていきます。 動物看護学科は、愛玩動物看護師法第31条第2号に基づく愛玩動物看護師養成所の指定を東京都知事から受けています。これにより卒業、必要な知識・技術の修得により国家試験の受験資格を得ることができます。

	学校名/所在地/URL	課程	令和6年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
25	専門学校 日本ホテルスクール 〒164-0003 中野区東中野 3-15-14 <a href="https://www.jhs.ac.jp/">https://www.jhs.ac.jp/</a>	昼間部 夜間部	昼間部 国際ホテル学科 (300) ホテル科・英語専攻科・ブライダル科・ホテル SNS コミュニケーション科 夜間部 国際ホテル学科 (160) ホテル科・ブライダル科 ※すべての科に海外留学制度あり (希望者全員)	1972年、本校はホテリエの育成を目的として開校した「プリンスホテルスクール」から始まりました。これまでにホテル・ブライダル分野における人材育成において日本を代表する教育機関として1万4千人の卒業生を輩出し、2021年には創立50周年を迎えました。 「理論と実技の一体化によるサービスの創造」を具体化し、理論教育と実務教育、企業実習を行い、サービスから経営まで一貫した教育内容を備えています。 職業実践専門課程認定校、高等教育の修学支援新制度「高等教育無償化」対象機関として承認されています。
26	日本美容専門学校 〒169-0075 新宿区高田馬場 1-21-12	昼 夜 昼 通	専門科 (370) 専門科 (80) 総合美容科 (30) 春生 (4月入学)・秋生 (10月入学) 計 200	本校は昭和29年、美容師の全国組織である「日本美容師会」を母体として優秀な美容師を世に送り出し美容業の安定・質的充実と美容師の地位向上をめざし、全国会員の協力により設立されました。以来、「美容を通じて近代の叙智を築く」という建学の精神に基づき豊かな教養と自由な発想を持った理想的な「美の実践者」を育成しています。
27	ハリウッド美容専門学校 〒106-8541 港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ <a href="https://www.hollywood.ac.jp">https://www.hollywood.ac.jp</a>	昼 通	総合美容科 ・高度ビューティコース (高度専門課程4年) ・ヘアメイクビューティコース (専門課程2年) ・ファッションビューティコース (専門課程2年) ・コスメビューティコース (専門課程2年) ・ビューティキャリアコース (専門課程1年) ・美容師通信教育コース (通信課程3年)	1925年、日本の女性をハリウッド・スターのように美しくすることをめざし、美容学校・美容室・化粧品会社のハリウッドビューティグループとして創立されたトータルビューティのパイオニア校です。ファッション & ビューティの最先端をリードする六本木ヒルズで、美容のすべてが学べます。100年近い伝統の成果を結集した一流のカリキュラムと設備で、人を美しく幸福に導く「美の天使」を育成しています。数多くの卒業生たちは、ヘア・メイク・エステなどのプロフェッショナルとして、国内はもちろん海外で幅広く活躍しています。
28	吉祥寺二葉栄養調理専門職学校 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 2-11-2 <a href="https://futaba-sogo.ac.jp/nutrition/">https://futaba-sogo.ac.jp/nutrition/</a>	昼	管理栄養士科 (4年・40) 栄養士科 (2年・120) 調理師科 (1年・76) 調理実践科 (2年・38)	本学園は1937年の開校以来、ファッション、調理、栄養、製菓分野に数多くの人材を輩出してまいりました。2002年に専門学校では東日本初の管理栄養士学科を設置。2015年には管理栄養士学科と栄養士科、2017年には調理実践科が『職業実践専門課程』として文部科学省より認可を受けました。今後も、社会のニーズに対応した専門知識と技量、幅広い教養・意思疎通能力を身につけた実践的かつ人間性豊かな管理栄養士・栄養士・調理師を養成いたします。尚、2022年度より法人名を二葉総合学園に、学校名を吉祥寺二葉栄養調理専門職学校に改変いたしました。
29	マリールイズ美容専門学校 〒160-0018 新宿区須賀町3番地 <a href="https://www.marie-louise.ac.jp">https://www.marie-louise.ac.jp</a>	昼 通	美容本科 (40) 美容通信科 (40)	「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」111年を迎える本校は、歴史を踏まえ「一に人格・二に技術」を教育の根幹に捉え「1学年40人」の少人数による指導の下で一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を育てたいと日々授業に取り組んでいます。美容師免許合格率7年平均95%、就職では約800社からの求人があり就職指導も厚くサポートしております。授業内容は、入学後の6か月間はカットやメイクの美容基礎を学びその後は、自らの個性を重視し学生の「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っています。※高等教育の修学支援制度の対象校
30	町田デザイン & 建築専門学校 〒194-0022 町田市森野 1-26-8 <a href="http://www.mdc.ac.jp">http://www.mdc.ac.jp</a>	昼 通	建築設計科 (2年・40) インテリア設計科 (2年・40) グラフィックデザイン科 (3年・40) イラストレーション科 (2年・40) Web・CGアニメーション科 (3年・40) まんが科 (2年・40) コミックイラスト科 (2年・40) 二級建築士受験科 (2年・80) 一級建築士受験科 (3年・35)	都心や横浜へのアクセスが良い町田市に拠点を置き、1978年(昭和53年)創立の本校は、これまで優れたクリエイターを輩出しています。ピア・カウンセリング教育による教育力アップ×人間力の指導、ステップアップ方式による目に見える成果の習得など、本校独自の教育システムを開発しました。これら独自の教育システムは、学生一人ひとりの顔がしっかり見える本学だからこそ実現できる教育システムです。デザインを初めて学ぶことへの不安を安心に変えるために、基礎から応用まで無理なく進めていくステップアップ方式で入学から就職・プロデビューまで、丁寧にサポートしています。また、ピア・カウンセリング教育により、学生同士がふれあい、学びあう「仲間教育」を積極的に進めています。お互いの個性を認めながら、共同して物を創る。このお互いに育ちあう教育で、「思考力」と「人間力」を育み、社会を必要としている人材を育成します。
31	武蔵野栄養専門学校 〒171-0022 豊島区南池袋 3-12-5 <a href="http://www.musashino-eiyou.ac.jp">http://www.musashino-eiyou.ac.jp</a>	昼	栄養科 200名	本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」を育成。平成26年度文部科学省より「職業実践専門課程」に認定され、実践的な職業教育にも取り組んでいる。また教育の理念として実社会での即戦力を養成する為、体感・体験・体得を重視「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」を踏まえ、「1.努力 2.誠実 3.奉仕」を校訓に専門教育に加え徳育面も重視している。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」無償化の対象校に認定された。
32	武蔵野東高等専修学校 〒180-0013 武蔵野市西久保 3-25-3 <a href="https://www.musashino-higashi.org/koto.php">https://www.musashino-higashi.org/koto.php</a>	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。

	学校名/所在地/URL	課程	令和6年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
33	専門学校 読売自動車大学校 〒136-0071 江東区亀戸2-28-5 https://www.yccm.ac.jp	昼	1級整備学科(4年・30) 自動車整備学科(2年・120)	読売新聞社が1969年に設立。読売グループ各企業がバックアップ。読売新聞社独自の奨学金制度が充実。「高等教育修学支援制度」の文科省認定校でもあり、安心して学べる体制です。国家試験も就職も、毎年ほぼ100%の実績を残しています。自動車エンジニアとしての技術力だけでなく「人間力」の育成にも力を注いでいます。両学科とも「職業実践専門課程」認定校であり、企業連携を重視した実践的な教育体制です。さらに、1級整備学科は大学院入学資格も与えられる「高度専門士」が付与され、大学院進学者も輩出しています。
34	読売理工医療福祉 専門学校 〒112-0002 文京区小石川1-1-1 https://www.yomiuririkou.ac.jp	昼 夜	【工業専門課程】放送映像学科(2年制:80)、TVディレクター学科(2年制:40)、建築学科(2年制:40)、電気電子学科(2年制:40)、ITエンジニア学科(2年制:40) 【医療専門課程】臨床工学科(3年制:40) 【社会福祉専門課程】介護福祉学科(2年制:40) 【工業専門課程】建築科(2年制:40)	読売新聞社により1970年に創設、開校53年を迎え27,000名を超える卒業生を社会に送り出しています。工業・医療・福祉の3分野に昼間部と夜間部を併せ8学科を設置しており、すべての学科で卒業時に文部科学大臣から専門士の称号が付与されます。さらに6学科については職業実践専門課程の認定を受けております。また、高等教育の修学支援新制度の認定校になっております。2020年4月、文京区小石川一丁目へ移転しました。最新工法による再開発ビル、実習機器と教育施設を一新し、次の50年に向けて新たなスタートを切りました。
35	早稲田速記医療福祉 専門学校 〒171-8543 豊島区高田3-11-17 https://www.wasedasokki.jp/	昼	医療秘書科(120)、医療事務IT科(40)、診療情報管理科(80)、くすり・調剤事務科(40)、介護福祉科(30)、看護科(35)	1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。医療秘書教育の伝統校として、確かな教育力を誇ります。現場で必要とされる「専門性」と「社会性」を身につけた「社会に貢献できる人材の育成」に取り組んでおり、卒業後も、卒業生支援講座や再就職の支援を行い、学び、働き続ける卒業生を応援しています。また、就職率が高いこともSOKKIの特長の一つです。
36	専門学校 東京自動車大学校 〒125-0002 葛飾区西亀有3-28-3 https://www.taus.ac.jp	昼	工業専門課程 自動車整備科 2級整備士コース2年(160) 自動車整備科 1級整備士コース 前期課程2年(120) 後期課程2年(120) ボディクラフト科 1年(40)	燃料電池や電気自動車をはじめ、環境にやさしい技術が次々に開発され、法定整備制度ができることにより整備士業界が大きく変化します。それに伴って、自動車整備士には、より高いスキルと人間性豊かな接客サービスが求められています。そうした新しい時代にふさわしい整備士の育成に、真剣に取り組んでいるのが東京自動車大学校です。情熱と愛情を持って学生を指導する教員のレベルアップはもちろん、社会の要請に応える1級整備士コースやボディクラフト科の一層の充実、さらにはクラブ活動、学内イベントを積極的に推奨し、教職員一同、学生一人ひとりが明るく学べる学校づくりに全力を挙げています。
37	国際鍼灸専門学校 〒124-0012 葛飾区立石6-36-7 https://www.kokusaishinkyu.ac.jp/	昼	医療専門課程 本科(あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう)(60)	本校は、厚生労働大臣認定のあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成施設です。独立開業ができる3つの国家資格の受験資格が得られる学校は全国でも数少なく、1957年の創立以来、これまでに5,000人を超える卒業生を輩出してきました。国立大学での臨床実習、業界トップクラスの講師陣による特別授業等、実践的で質の高い専門教育を行っています。全国屈指の国家試験合格率を維持しており、豊富な求人数と高い就職率を誇っています。「職業実践専門課程」、「高等教育の修学支援新制度対象校」として認定されています。

短期大学会員名簿(2)

	学校名/所在地/URL	課程	令和6年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国学園短期大学 〒133-8585 江戸川区西小岩5-7-1 http://www.aikoku-jc.ac.jp	全	家政科: 生活デザイン専攻(50) 食物栄養専攻(50)	実践機会が豊富なカリキュラムや一人ひとりに向き合うサポート体制が特長です。生活デザイン専攻では、家政学の幅広い知識と技能をベースに、人生100年を見通して自分、家族、社会を幸せにする女性を育成します。栄養士(国家資格)の養成課程である食物栄養専攻では、多様化する食と健康に対するニーズに合わせた献立を提案し、食べる人を笑顔にする栄養士を育成します。これからの多様な生き方や働き方を考えている社会人のキャリアアップや学び直しに応える「リカレント教育」を希望する方も積極的に受け入れています。
2	東京家政大学 短期大学部 〒173-8602 板橋区加賀1-18-1 https://www.tokyo-kasei.ac.jp/	全	保育科(120) 栄養科(80)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、約77%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受験資格)が取得でき、栄養士には約29%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。

## 中 学 校 等 会 員 名 簿 ( 4 4 0 )

## 公立中学校

千代田区	2校	麹町中学校	神田一橋中学校			
中央区	4校	晴海中学校	日本橋中学校	銀座中学校	佃中学校	
港区	10校	御成門中学校 赤坂中学校	白金の丘中学校 青山中学校	高松中学校 港陽中学校	港南中学校 六本木中学校	高陵中学校 三田中学校
新宿区	10校	牛込第一中学校 西新宿中学校	牛込第二中学校 四谷中学校	牛込第三中学校 西早稲田中学校	落合中学校 新宿中学校	落合第二中学校 新宿西戸山中学校
文京区	10校	第一中学校 第十中学校	第三中学校 文林中学校	第六中学校 茗台中学校	第八中学校 本郷台中学校	第九中学校 音羽中学校
台東区	7校	上野中学校 柏葉中学校	忍岡中学校 桜橋中学校	駒形中学校	浅草中学校	御徒町台東中学校
墨田区	10校	墨田中学校 吾孺第二中学校	本所中学校 寺島中学校	両国中学校 文花中学校	竪川中学校 桜堤中学校	錦糸中学校 吾孺立花中学校
江東区	23校	深川第一中学校 深川第六中学校 第三亀戸中学校 第三砂町中学校 東陽中学校	深川第二中学校 深川第七中学校 大島中学校 第四砂町中学校 大島西中学校	深川第三中学校 深川第八中学校 第二大島中学校 辰巳中学校 有明中学校	深川第四中学校 亀戸中学校 砂町中学校 南砂中学校	深川第五中学校 第二亀戸中学校 第二砂町中学校 第二南砂中学校
品川区	9校	東海中学校 荏原第一中学校	大崎中学校 荏原第五中学校	浜川中学校 荏原第六中学校	鈴ヶ森中学校 戸越台中学校	富士見台中学校
目黒区	9校	第一中学校 第十一中学校	第七中学校 東山中学校	第八中学校 目黒中央中学校	第九中学校 大島中学校	第十中学校
大田区	28校	大森第一中学校 貝塚中学校 大森第七中学校 羽田中学校 南六郷中学校 東蒲中学校	大森第二中学校 大森第四中学校 雪谷中学校 糺谷中学校 矢口中学校 蒲田中学校	大森第八中学校 大森第三中学校 大森第十中学校 出雲中学校 御園中学校 大森東中学校	馬込中学校 東調布中学校 大森第六中学校 六郷中学校 蓮沼中学校	馬込東中学校 田園調布中学校 石川台中学校 志茂田中学校 安方中学校
世田谷区	29校	太子堂中学校 緑丘中学校 弦巻中学校 深沢中学校 烏山中学校 喜多見中学校	桜丘中学校 駒留中学校 奥沢中学校 尾山台中学校 千歳中学校 三宿中学校	松沢中学校 梅丘中学校 八幡中学校 用賀中学校 芦花中学校 上田谷中学校	駒沢中学校 桜木中学校 玉川中学校 東深沢中学校 上祖師谷中学校 船橋希望中学校	北沢中学校 富士中学校 瀬田中学校 砧中学校 砧南中学校
渋谷区	8校	広尾中学校 松濤中学校	鉢山中学校 渋谷本町学園中学校	上原中学校 原宿外苑中学校	代々木中学校	笹塚中学校
中野区	9校	第二中学校 南中野中学校	第五中学校 中野中学校	第七中学校 中野東中学校	北中野中学校 明和中学校	緑野中学校
杉並区	23校	高円寺中学校 松溪中学校 井草中学校 高井戸中学校 和田中学校	高南中学校 天沼中学校 荻窪中学校 向陽中学校 西宮中学校	杉森中学校 東原中学校 神明中学校 松ノ木中学校 和泉中学校	阿佐ヶ谷中学校 中瀬中学校 宮前中学校 大宮中学校	東田中学校 井荻中学校 富士見丘中学校 泉南中学校
豊島区	8校	駒込中学校 巢鴨北中学校	西巣鴨中学校 明豊中学校	池袋中学校 西池袋中学校	千川中学校	千登世橋中学校
北区	12校	堀船中学校 王子桜中学校 滝野川紅葉中学校	稲付中学校 桐ヶ丘中学校 赤羽岩淵中学校	神谷中学校 明桜中学校	浮間中学校 十条富士見中学校	飛鳥中学校 田端中学校
荒川区	10校	第一中学校 第九中学校	第三中学校 尾久八幡中学校	第四中学校 南千住第二中学校	第五中学校 原中学校	第七中学校 諏訪台中学校
板橋区	1校	桜川中学校				
練馬区	33校	旭丘中学校 開進第二中学校 貫井中学校 石神井東中学校 大泉第二中学校 谷原中学校 光が丘第一中学校	豊玉中学校 開進第三中学校 田柄中学校 石神井西中学校 八坂中学校 三原台中学校 光が丘第二中学校	豊玉第二中学校 開進第四中学校 豊浜中学校 上石神井中学校 練馬東中学校 大泉北中学校 光が丘第三中学校	中村中学校 北町中学校 石神井中学校 大泉中学校 大泉西中学校 南が丘中学校	開進第一中学校 練馬中学校 石神井南中学校 大泉学園中学校 関中学校 大泉学園桜中学校
足立区	35校	第一中学校 第九中学校 第十四中学校 竹の塚中学校 西新井中学校 谷中中学校 入谷南中学校	第四中学校 第十中学校 江南中学校 東綾瀬中学校 入谷中学校 花保中学校 六月中学校	第五中学校 第十一中学校 新田中学校 花畑中学校 江北桜中学校 栗島中学校 千寿青葉中学校	第六中学校 第十二中学校 東島根中学校 蒲原中学校 伊興中学校 扇中学校 千寿桜堤中学校	第七中学校 第十三中学校 洲江中学校 青井中学校 花畑北中学校 加賀中学校 鹿浜菜の花中学校

葛飾区	24校	本田中学校 綾瀬中学校 双葉中学校 立石中学校 高砂中学校	金町中学校 上平井中学校 大道中学校 常盤中学校 東金町中学校	水元中学校 中川中学校 四ツ木中学校 一之台中学校 葛美中学校	新宿中学校 桜道中学校 小松中学校 青戸中学校 新小岩中学校	奥戸中学校 堀切中学校 亀有中学校 青葉中学校
江戸川区	32校	小松川第二中学校 松江第五中学校 鹿本中学校 小岩第四中学校 松江第六中学校 南葛西中学校 清新第二中学校	松江第一中学校 葛西中学校 篠崎中学校 小岩第五中学校 篠崎第二中学校 西葛西中学校 小松川中学校	松江第二中学校 葛西第二中学校 小岩第一中学校 上一色中学校 春江中学校 東葛西中学校	松江第三中学校 瑞江中学校 小岩第二中学校 瑞江第三中学校 二之江中学校 清新第一中学校	松江第四中学校 瑞江第二中学校 小岩第三中学校 葛西第三中学校 鹿骨中学校 南葛西第二中学校
武蔵野市	6校	第一中学校 第六中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
青梅市	10校	第一中学校 第七中学校	第二中学校 霞台中学校	第三中学校 吹上中学校	西中学校 新町中学校	第六中学校 泉中学校
府中市	11校	府中第一中学校 府中第六中学校 浅間中学校	府中第二中学校 府中第七中学校	府中第三中学校 府中第八中学校	府中第四中学校 府中第九中学校	府中第五中学校 府中第十中学校
調布市	8校	調布中学校 第六中学校	神代中学校 第七中学校	第三中学校 第八中学校	第四中学校	第五中学校
町田市	2校	真光寺中学校	南成瀬中学校			
国分寺市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
狛江市	4校	狛江第一中学校	狛江第二中学校	狛江第三中学校	狛江第四中学校	
東大和市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
多摩市	9校	多摩中学校 鶴牧中学校	東愛宕中学校 多摩永山中学校	和田中学校 落合中学校	諏訪中学校 青陵中学校	聖ヶ丘中学校
羽村市	3校	羽村第一中学校	羽村第二中学校	羽村第三中学校		
あきる野市	1校	東中学校				
大島町	1校	第一中学校				
三宅村	1校	三宅中学校				
新島村	2校	新島中学校	式根島中学校			
神津島村	1校	神津中学校				
青ヶ島村	1校	青ヶ島中学校				

区立中等教育学校

千代田区	1校	九段中等教育学校
------	----	----------

区立義務教育学校

品川区	6校	日野学園 豊葉の杜学園	伊藤学園	八潮学園	荏原平塚学園	品川学園
江東区	1校	有明西学園				

都立中学校

5校	白鷗高等学校附属中学校 両国高等学校附属中学校 武蔵高等学校附属中学校 富士高等学校附属中学校 大泉高等学校附属中学校
----	---

都立中等教育学校

5校	小石川中等教育学校 桜修館中等教育学校 立川国際中等教育学校 南多摩中等教育学校 三鷹中等教育学校
----	---

私立中学校

4校	愛国中学校 鷗友学園女子中学校 恵泉女学園中学校 武蔵野東中学校
----	----------------------------------

国立大学法人

2校	筑波大学附属中学校 東京学芸大学附属小金井中学校
----	--------------------------

個人会員名簿 (15)

01. 堀居 英治	02. 倉持 俊義	03. 梶谷 正義	04. 内川 武雄	05. 松井 章朗
06. 花野 耕一	07. 富岡 逸郎	08. 森 健	09. 福島 正幸	10. 佐々木 健一
11. 手打 和明	12. 大塚 健一	13. 高石 公一	14. 関藤 緑	15. 片柳 莊志

## 入会の御案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 都庁第二本庁舎 15階北側  
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内  
東京都産業教育振興会事務局  
TEL 03(5320)6729

## 編集後記

新学習指導要領は、中学校では令和3年4月から全面実施となり、高等学校では令和4年4月から年次進行で実施されています。

新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善等を通して、子供たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを求めており、各会員校はコロナ禍の中でも創意工夫して授業改善に取り組んできました。そこで、本年度の特集テーマは、昨年度に引き続き「主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各学校・学科の取組—」とし、会員校の実践を報告していただきました。

社会のICT化やデジタル化が大きく加速する中、産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

御多用にも拘わらず、原稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <https://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン（平成24年度本誌第50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品）  
製作者 川口彩花さん（東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科3年：当時）

ロゴマークデザイン（令和元年度東京都産業振興会ロゴマークコンクール最優秀作品）  
製作者 黒岩風花さん（東京都立葛飾商業高等学校3年：当時）

### 東京の産業教育 第61号

発行 令和6年（2024年）3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎15階北側

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729

印刷 株式会社小葉印刷所